

1.0

— 二次医療圏でみる地域医療の構造 —

医療需給総覧 version 1.0

地域分析

大阪府 | 南河内医療圏

(医療圏コード：2705)

目次

1. 地域の概況

- 二次医療圏の概況
- 二次医療圏における人口変化率の推計
- 医療機関別の許可病床数
- 医療機関の指定状況

2. 医療提供体制の概況

- 人口10万人あたり医療機関数・病床数
- 人口10万人あたり医療従事者数の比較
- 都道府県内の医療圏の医師偏在指標
- 都道府県別の医師偏在指標
- 診療科別医師数
- 病床数及び診療実績の推移
- 地域の入院患者数と平均在院日数
- 医療機関別職員数
- 病床機能別の病床数の推移と必要病床数
- 病床機能別・医療機関別の許可病床数
- 入院料別病床数（病院のみ）
- 二次医療圏別の1日平均入院患者数
- 二次医療圏別の流出入状況（DPC症例数）
- 患者流出入状況の年度推移（DPC症例数）
- MDC別退院患者数の推移

3. 医療需要の将来推計

- 人口推計
- 高齢化の状況
- 1日平均患者数
- 受療率の比較
- ICD別の患者数推計・増減率
- 精神病床の1日平均患者数
- DPC患者数の推計
- DPC症例数と平均入院期間の推移
- 手術件数の推計
- 疾患別患者数の推計（悪性腫瘍・脳卒中・虚血性心疾患・糖尿病）
- 在宅医療の需要推計（患者数・算定回数）
- 要介護者数の推計（年齢区分・要介護度別）

4. 医療機関のパフォーマンスおよび連携状況

- ポジショニングマップ
- 入退棟経路の傾向
- 救急車受入を行う病院の概要
- 病院別の救急車受入件数および夜間・時間外・休日の患者延べ数
- 救急医療の提供状況
- 救急医療の提供状況の類似区域との比較
- DPC対象病院における平均在院日数
- MDC別退院患者数および医療機関シェア
- DPC退院患者数のシェア

1/ 地域の概況

人口動態や地理特性から、地域の特性を把握する。

高齢化率の推移

生産年齢人口

可住地面積比率

人口構造等の地域の特徴を全国平均との比較や、
基幹的な役割を担う医療機関を確認することで、医療圏内の地域特性を把握する。

大阪府 | 二次医療圏の概況

都道府県内の二次医療圏の人口および面積を整理しています。

医療計画においては、二次医療圏の人口が20万人未満、かつ、二次医療圏内の病院の流入患者割合が20%未満かつ流出患者割合が20%以上の場合に見直しの検討が必要とされています。

二次医療圏	人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)	可住地面積割合 (%)
豊能	1,056,344	275.61	3,832.7	52%
三島	758,811	213.46	3,554.8	59%
北河内	1,139,459	177.34	6,425.3	85%
中河内	827,357	128.83	6,422.1	83%
南河内	592,506	290.00	2,043.1	56%
堺市	826,161	149.84	5,513.6	97%
泉州	884,635	444.93	1,988.3	61%
大阪市	2,752,412	225.33	12,215.0	100%
大阪府 計	8,837,685	1,905.34	4,638.4	70%
全国	126,146,099	372,864.20	338.3	33%

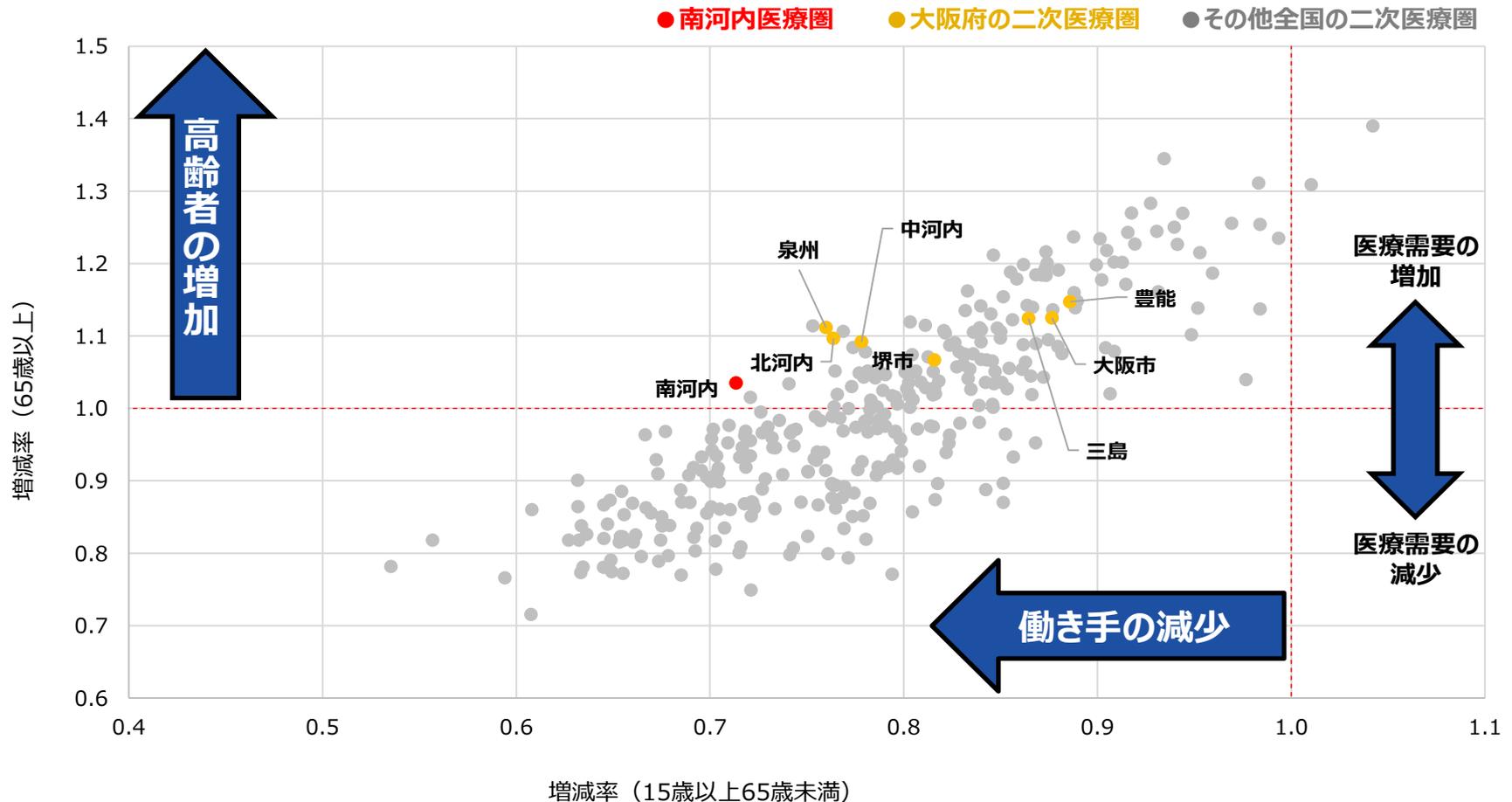
* 可住地面積とは、総面積(北方地域および竹島を除く)から林野面積と主要湖沼面積を差し引いて算出したもの

出典：「令和2年国勢調査」(総務省統計局)

：「都道府県・市区町村のすがた(社会・人口統計体系)」(総務省統計局) 2020年度

大阪府 | 二次医療圏における人口変化率の推計（2025年～2050年）

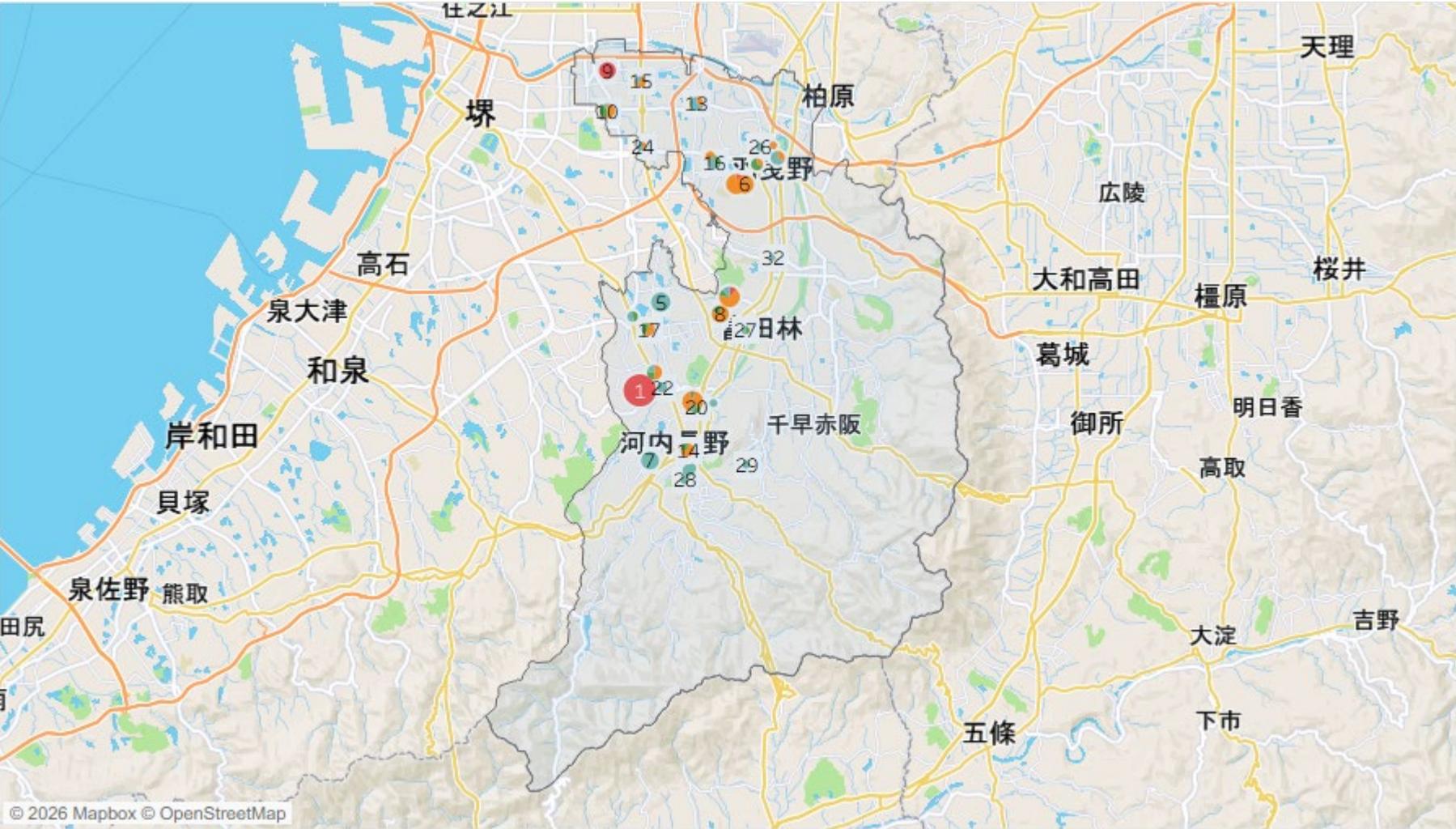
高齢者の増減割合と生産年齢人口の増減割合の2軸で、全国の二次医療圏における当該医療圏の立ち位置を示しています。需給の変化に対して医療提供体制を確保できるか、という観点で課題を整理する必要があります。



南河内医療圏 | 医療機関別の許可病床数

二次医療圏内の医療機関の立地とそれぞれの機能別の病床数を可視化しています。

特に急性期においては医療機関同士の距離と、地域住民のアクセスの観点で適切かつ効率的な配置となっているかを検証する必要があります。



※地図内の番号は、医療機関一覧のNoに対応しています

南河内医療圏 | 医療機関別の許可病床数

No	医療機関名	市町村名	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・ 無回答	総計
1	近畿大学病院	大阪狭山市	919					919
2	NHO大阪南医療センター	河内長野市	10	356	18			384
3	PL病院	富田林市	45	240	38	47		370
4	大阪はびきの医療センター	羽曳野市	142	218				360
5	青葉丘病院	大阪狭山市				324		324
6	城山病院	羽曳野市	8	291				299
7	老寿やすらぎ病院	河内長野市				281		281
8	済生会 富田林病院	富田林市		210	50			260
9	松原徳洲会病院	松原市	249					249
10	阪南中央病院	松原市	6	96	80	17		199
11	榎本病院	大阪狭山市		102	51	46		199
12	医仁会 藤本病院	羽曳野市		59		118		177
13	高村病院	羽曳野市		55		120		175
14	寺元記念病院	河内長野市		120	40			160
15	明治橋病院	松原市		78		36	42	156
16	天仁病院	羽曳野市			41	112		153
17	さくら会病院	大阪狭山市		87	60			147
18	てらもと医療リハビリ病院	河内長野市				132		132
19	青山病院	藤井寺市		40	88			128
20	南河内おか病院	河内長野市		20	40	39		99
21	辻本病院	大阪狭山市			45	54		99
22	滝谷病院	河内長野市				93		93
23	運動器ケア しまだ病院	羽曳野市		88				88
24	寺下病院	松原市		29		43		72
25	澤田病院	河内長野市				64		64
26	青山藤ヶ丘病院	藤井寺市				60		60
27	金剛病院	富田林市			30	30		60
28	青山第二病院	河内長野市				57		57
29	すくよか	富田林市				55		55
30	結のぞみ病院	富田林市				54		54

No	医療機関名	市町村名	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・ 無回答	総計
31	青山脳神経外科病院	藤井寺市		50				50
32	富田林田中病院	富田林市				30		30
	総計		1,379	2,139	581	1,812	42	5,953

南河内医療圏 | 医療機関の指定状況①

二次医療圏内の医療機関の指定状況を示しています。基幹的な機能をどの医療機関が担っているかを確認できます。

役割の不足や重複を確認して、二次医療圏の医療提供体制の充足度と効率性を検討できます。

No.	医療機関略称	病床数	DPC	地域医療支援病院	救命救急センター	災害拠点病院	周産期	がん診療	脳卒中	在宅医療
1	近畿大学病院	919	大学		○	地域	地域	地域拠点	PSCコア	
2	青葉丘病院	681								
3	大阪はびきの医療センター	405	標準	○						在後病
4	結のぞみ病院	394								
5	NHO大阪南医療センター	384	標準	○					PSCコア	
6	PL病院	370	標準							在後病
7	丹比荘病院	310								
8	城山病院	299	標準	○					PSCコア	在後病
9	老寿やすらぎ病院	281								
10	大阪さやま病院	279								
11	済生会 富田林病院	260	標準							在後病
12	松原徳洲会病院	249	特定						PSC	在後病
13	吉村病院	222								
14	阪南中央病院	199	標準				地域			支援病3
15	檉本病院	199								支援病3
16	医仁会 藤本病院	177								支援病2
17	高村病院	175								
18	寺元記念病院	160	標準							支援病3
19	明治橋病院	156							PSC	
20	天仁病院	153								
21	さくら会病院	147	標準						PSC	
22	てらもと医療リハビリ病院	132								
23	青山病院	128								支援病3
24	すくよか	110								
25	四天王寺和らぎ苑	100								

出典：

「施設基準の届出受理状況（全体）（届出受理医療機関名簿）令和7年1月1日現在」（各地方厚生局）

「厚生労働省 令和7年告示第166号」

「地域医療支援病院一覧 令和6年9月1日時点」（厚生労働省）

「救命救急センター設置状況一覧 令和7年4月1日現在」（厚生労働省）

「災害拠点病院一覧 令和6年4月1日現在」（厚生労働省）

「周産期母子医療センター一覧 令和6年4月1日現在」（厚生労働省）

「がん診療連携拠点病院等一覧表 令和7年4月1日現在」（厚生労働省）

「一次脳卒中センター（PSC）一覧 認定期間：2025/4/1～2026/3/31」（一般社団法人日本脳卒中学会）

「一次脳卒中センター（PSC）コア一覧 認定期間：2025/4/1～2026/3/31」（一般社団法人日本脳卒中学会）

南河内医療圏 | 医療機関の指定状況②

No.	医療機関略称	病床数	DPC	地域医療 支援病院	救命救急 センター	災害拠点 病院	周産期	がん診療	脳卒中	在宅医療
26	南河内おか病院	99								支援病 2
27	辻本病院	99								支援病 2
28	滝谷病院	93								支援病 2
29	運動器ケア しまだ病院	88	標準							支援病 3
30	兵田病院	81								支援病 3
31	寺下病院	72								
32	澤田病院	64								支援病 1
33	青山藤ヶ丘病院	60								支援病 2
34	金剛病院	60								支援病 2
35	青山第二病院	57								支援病 3
36	青山脳神経外科病院	50								
37	富田林田中病院	30								

出典：

「施設基準の届出受理状況（全体）（届出受理医療機関名簿）令和7年1月1日現在」（各地方厚生局）

「厚生労働省 令和7年告示第166号」

「地域医療支援病院一覧 令和6年9月1日時点」（厚生労働省）

「救命救急センター設置状況一覧 令和7年4月1日現在」（厚生労働省）

「災害拠点病院一覧 令和6年4月1日現在」（厚生労働省）

「周産期母子医療センター一覧 令和6年4月1日現在」（厚生労働省）

「がん診療連携拠点病院等一覧表 令和7年4月1日現在」（厚生労働省）

「一次脳卒中センター（PSC）一覧 認定期間：2025/4/1～2026/3/31」（一般社団法人日本脳卒中学会）

「一次脳卒中センター（PSC）コア一覧 認定期間：2025/4/1～2026/3/31」（一般社団法人日本脳卒中学会）

2/ 医療提供体制の概況

地域の医療提供体制を、医療資源の供給量や受療動向から整理する。

病床数

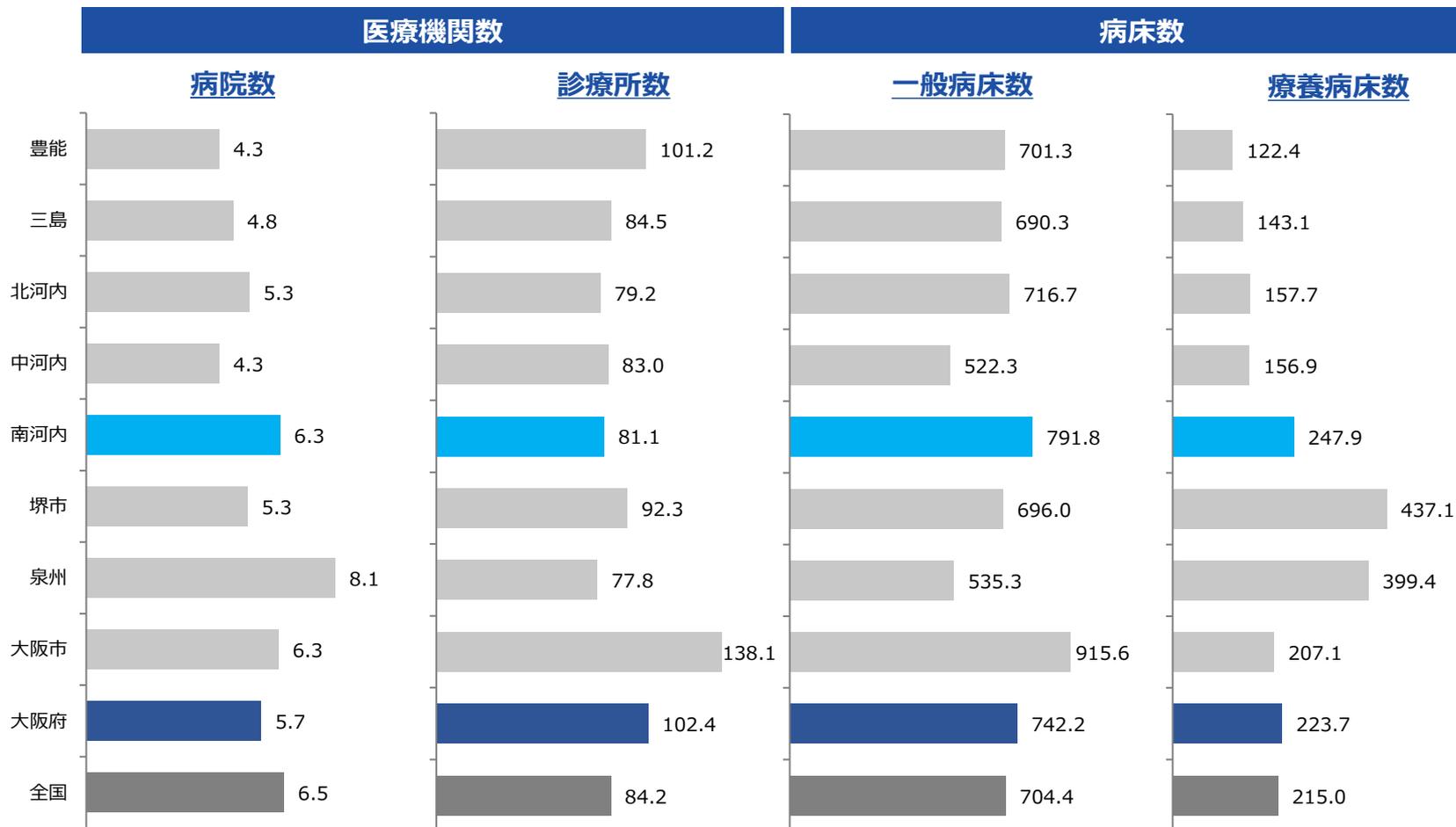
医師数

職種別人員配置

全国・県平均や医師偏在指標との比較から、地域の供給構造における不足や偏りを把握する。患者流出入や平均在院日数などを踏まえ、医療資源の効率性と機能分化の進展を評価する。

大阪府 | 人口10万人あたり医療機関数・病床数

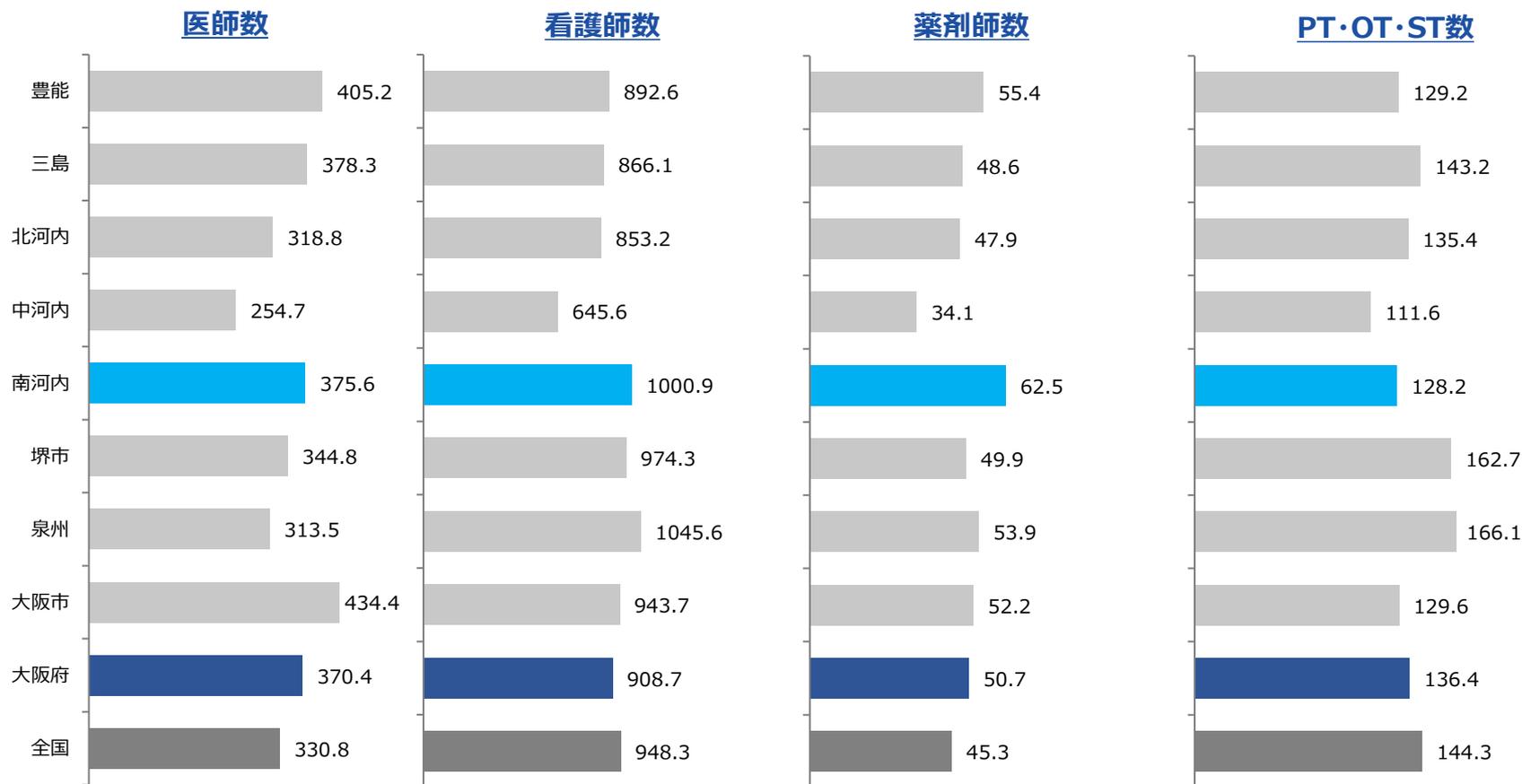
都道府県内二次医療圏の、人口10万人あたりの医療機関数と病床数を比較しています。
 全国よりも病院数や病床数が多い場合には、医療資源が分散している可能性があります。
 診療所が少ない場合は、かかりつけ医の確保が課題となっている可能性があります。



大阪府 | 人口10万人あたり医療従事者数の比較

都道府県内の二次医療圏における、人口10万人あたりの医療従事者数を比較しています。

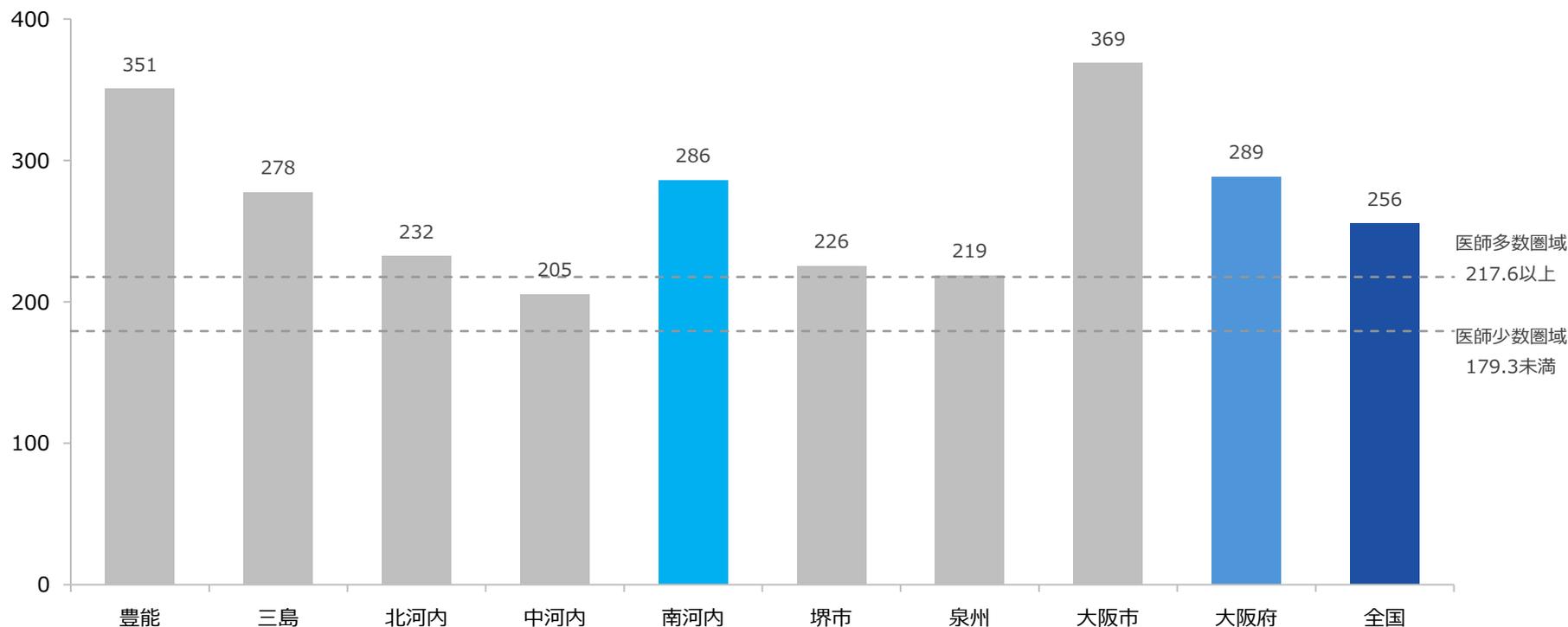
地域全体の医療従事者に不足がないかを確認し、医療従事者の確保が現状において困難となっていないか確認します。



大阪府 | 都道府県内の医療圏の医師偏在指標

都道府県内の二次医療圏における、人口10万人あたりの医師数を比較しています。

医師偏在指標は、患者の流出入等の患者動向や医師の年齢等の条件を調整し、全国の二次医療圏と患者数に対する医師のマンパワーを比較する指数となります。

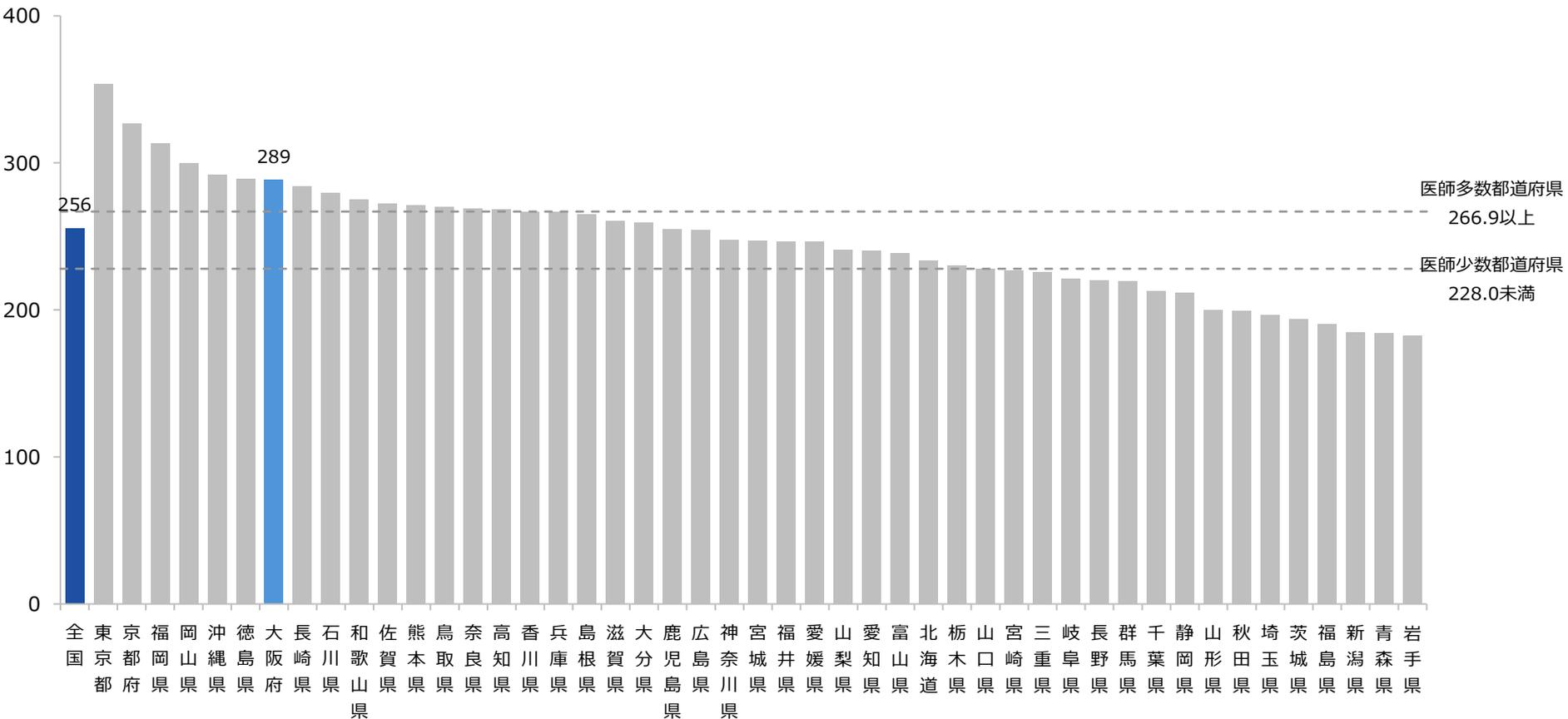


都道府県別の医師偏在指標

医師偏在指標を他の都道府県と比較しています。

都道府県全体で医師数が不足している場合、当該医療圏での医師確保は比較的困難となります。

当該医療圏以外の動向も含めて整理をする必要があります。



出典：「医師偏在指標関連データ（令和6年1月公表版）」（厚生労働省）

南河内医療圏 | 診療科別医師数

当該医療圏の65歳以上人口10万人あたりの医師数を、診療科別で比較しています。

地域内に不足している診療科を確認できます。

区分	診療科	65歳以上人口 10万人あたり医師数		全国平均との差		医療圏	全国	圏域-全国	割合	区分	診療科	65歳以上人口 10万人あたり医師数		全国平均との差		医療圏	全国	圏域-全国	割合
		医療圏	全国	圏域-全国	割合							医療圏	全国	圏域-全国	割合				
内科系	内科	171.7	86.5	85.2	+98%					小児・	小児科	47	25.2	21.9	+87%				
	呼吸器内科	25.2	9.9	15.3	+154%					周産期	小児外科	1.1	1.2	-0.1	▲9%				
	循環器内科	38.8	19.1	19.8	+104%						産婦人科	30.1	16	14	+88%				
	消化器内科(胃腸内科)	56.9	22.6	34.3	+152%						産科	1.1	0.7	0.4	+56%				
	腎臓内科	16.4	8	8.4	+105%						婦人科	3.8	2.9	0.9	+31%				
	脳神経内科	17	8.3	8.7	+105%					眼科・耳鼻・	眼科	41.6	19.2	22.4	+117%				
	糖尿病内科(代謝内科)	15.9	8.4	7.4	+88%					皮膚・美容	耳鼻いんこう科	22.4	13.3	9.1	+69%				
	血液内科	13.1	4.2	8.9	+211%						皮膚科	31.7	14.2	17.5	+123%				
	アレルギー科	2.2	0.3	1.9	+727%						美容外科	0	1.8	-1.8	-				
	リウマチ科	12	2.7	9.3	+341%					麻酔・	麻酔科	33.4	14.6	18.7	+128%				
	感染症内科	4.4	0.9	3.5	+403%					集中治療系	救急科	7.1	5.5	1.6	+28%				
外科系	外科	36.1	18.1	18	+100%						集中治療科	1.1	1.3	-0.2	▲16%				
	呼吸器外科	9.8	3	6.8	+226%					放射線・	放射線科	29	10.3	18.7	+181%				
	心臓血管外科	11.5	4.6	6.9	+151%					検査系	病理診断科	6.6	3.2	3.4	+107%				
	乳腺外科	4.4	3.3	1.1	+34%						臨床検査科	2.2	0.9	1.3	+137%				
	気管食道外科	0	0.1	-0.1	-					リハビリ	リハビリテーション科	5.5	4.4	1.1	+25%				
	消化器外科(胃腸外科)	21.9	8.2	13.7	+167%					精神	精神科	37.2	23.8	13.4	+56%				
	泌尿器科	29.5	11.2	18.4	+165%						心療内科	4.9	1.2	3.7	+303%				
	肛門外科	1.1	0.6	0.5	+73%					その他	その他	71.1	36.7	34.3	+93%				
	脳神経外科	29.5	10.6	18.9	+178%					総計	総計	976.1	463.3	512.8	+111%				
	整形外科	72.7	31.8	40.9	+128%														
	形成外科	9.3	4.5	4.8	+105%														

出典：「令和6年医師・歯科医師・薬剤師統計」（厚生労働省）
：「令和2年国勢調査」（総務省統計局）

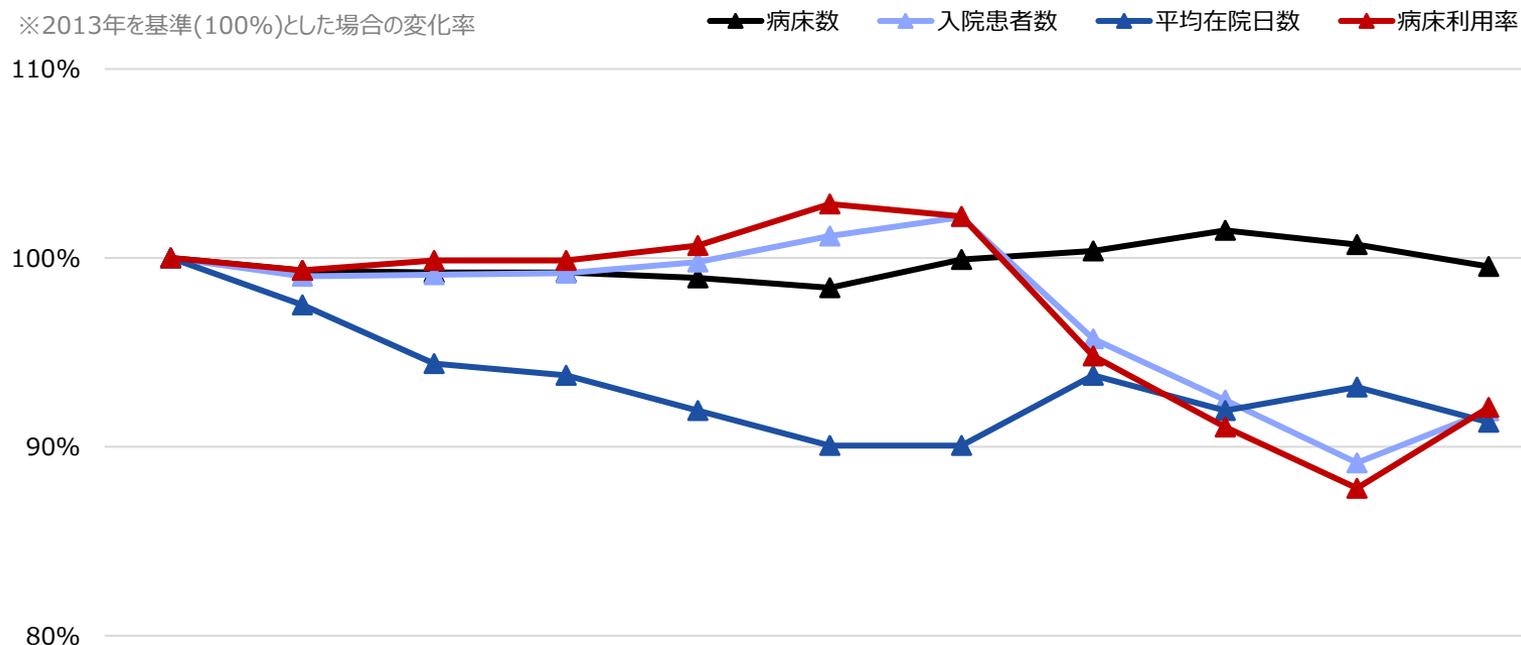
南河内医療圏 | 病床数及び診療実績の推移（一般病床）

当該医療圏の一般病床における、診療実績の推移を示しています。

入院患者数が減少しているか、また、それが平均在院日数の短縮によるものかを確認します。

入院患者数の減少に合わせて病床数が減少しているか、病床利用率が低下していないか確認します。

※2013年を基準(100%)とした場合の変化率

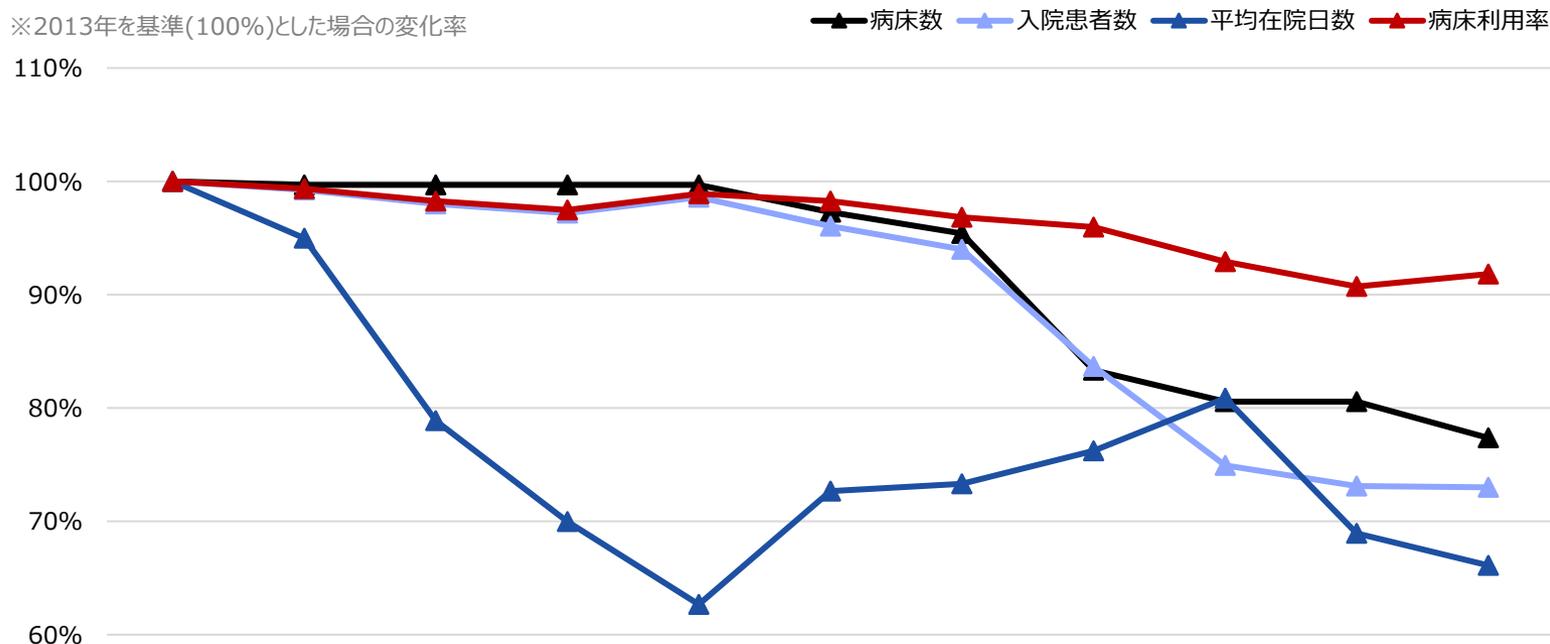


	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2013年比
病床数	4,809	4,777	4,772	4,772	4,758	4,733	4,805	4,827	4,879	4,843	4,787	▲0.5%
入院患者数 (人/日)	3,706	3,670	3,673	3,676	3,698	3,749	3,786	3,547	3,427	3,304	3,406	▲8.1%
平均在院日数 (日)	16.1	15.7	15.2	15.1	14.8	14.5	14.5	15.1	14.8	15	14.7	▲8.7%
病床利用率 (%)	77.1	76.6	77.0	77.0	77.6	79.3	78.8	73.1	70.2	67.7	71.0	▲7.9%

南河内医療圏 | 病床数及び診療実績の推移（療養病床）

当該医療圏の療養病床における、診療実績の推移を示しています。

※2013年を基準(100%)とした場合の変化率

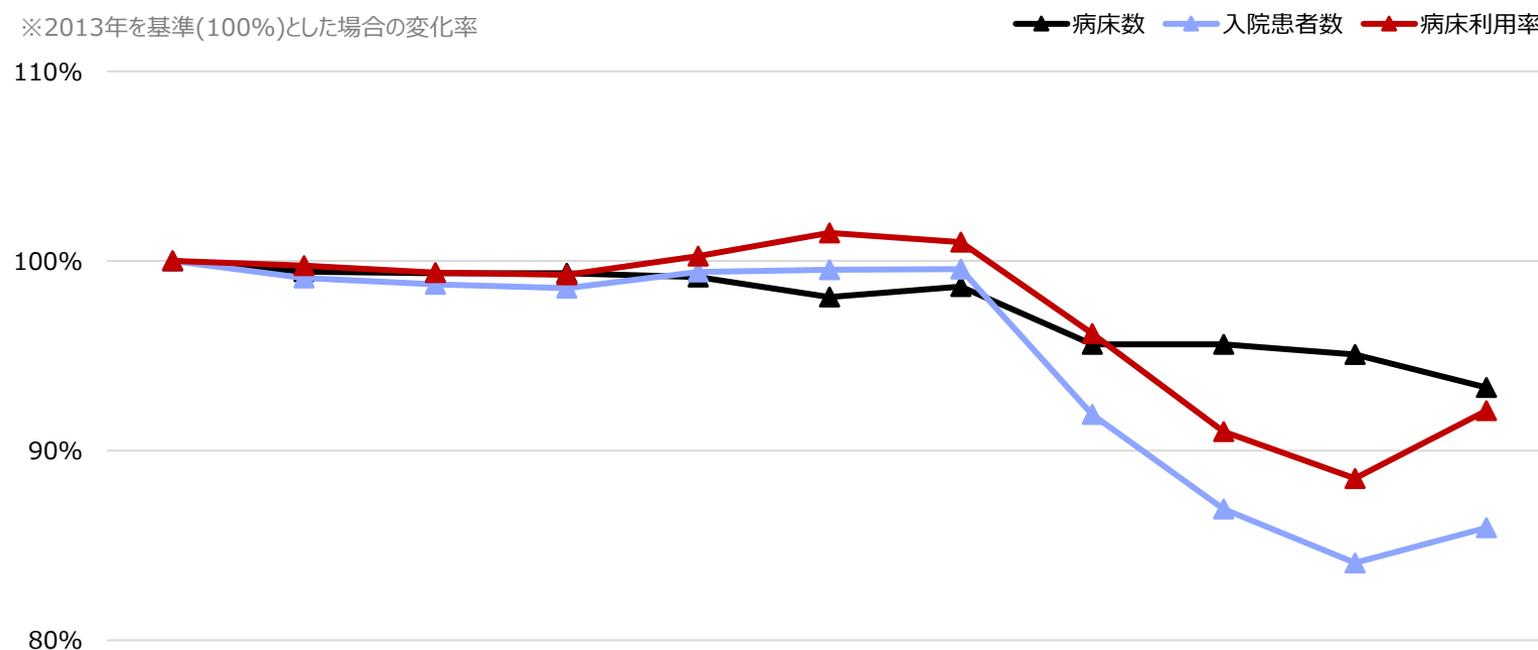


	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2013年比
病床数	1,873	1,867	1,867	1,867	1,867	1,822	1,787	1,561	1,509	1,509	1,449	▲22.6%
入院患者数 (人/日)	1,715	1,702	1,681	1,667	1,691	1,647	1,612	1,435	1,285	1,254	1,252	▲27.0%
平均在院日数 (日)	272.7	259.0	215.1	190.8	170.9	198.2	199.9	207.9	220.5	188	180.3	▲33.9%
病床利用率 (%)	91.6	91.0	90.0	89.3	90.6	90.0	88.7	87.9	85.1	83.1	84.1	▲8.2%

南河内医療圏 | 病床数及び診療実績の推移（一般+療養）

当該医療圏の一般病床と療養病床における、診療実績の推移を示しています。

※2013年を基準(100%)とした場合の変化率



	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2013年比
病床数	6,682	6,644	6,639	6,639	6,625	6,555	6,592	6,388	6,388	6,352	6,236	▲6.7%
入院患者数 (人/日)	5,421	5,372	5,354	5,343	5,389	5,396	5,398	4,982	4,712	4,558	4,658	▲14.1%
病床利用率 (%)	81.1	80.9	80.6	80.5	81.3	82.3	81.9	78.0	73.8	71.8	74.7	▲7.9%

大阪府 | 都道府県内の医療圏の入院患者数と平均在院日数

都道府県内の二次医療圏ごとの、入院患者数の推移と平均在院日数の変化を示しています。

都道府県全体と近隣の医療圏と比較することで、各医療圏の傾向を確認できます。

医療圏	入院患者数(総数)					平均在院日数						
	2013年		2018年		2023年		2013年		2018年		2023年	
	実績	実績	2013年比	実績	2013年比	実績	実績	2013年比	実績	2013年比		
全国	1,275,347	1,246,867	▲2.2%	1,123,654	▲11.9%	30.6	27.8	▲9.2%	26.3	▲14.1%		
大阪府	90,205	88,410	▲2.0%	79,298	▲12.1%	28.9	25.4	▲12.1%	24.0	▲17.0%		
豊能	9,164	9,282	+1.3%	8,436	▲7.9%	27.7	24.3	▲12.3%	22.7	▲18.1%		
三島	7,677	7,541	▲1.8%	6,867	▲10.6%	33.2	28.4	▲14.5%	27.1	▲18.4%		
北河内	9,808	9,878	+0.7%	9,180	▲6.4%	28.4	24.7	▲13.0%	23.2	▲18.3%		
中河内	6,385	6,239	▲2.3%	5,320	▲16.7%	30.2	26.8	▲11.3%	24.4	▲19.2%		
南河内	6,938	6,901	▲0.5%	5,975	▲13.9%	28.7	25.4	▲11.5%	24.5	▲14.6%		
堺市	10,624	10,167	▲4.3%	9,226	▲13.2%	37.3	33.3	▲10.7%	31.7	▲15.0%		
泉州	12,970	12,679	▲2.2%	11,566	▲10.8%	48.6	42.1	▲13.4%	39.0	▲19.8%		
大阪市	26,639	25,723	▲3.4%	22,729	▲14.7%	22.0	19.4	▲11.8%	18.5	▲15.9%		

南河内医療圏 | 医療機関別職員数①

当該医療圏内の医療機関の職員数を比較しています。

各病院の医療機能に対して、適切な職員配置となっているか確認します。

No.	医療機関名	医師	うち、常勤	看護職員	看護補助者	PT+OT+ST	薬剤師	全職員
1	近畿大学病院	596.2	575	1,074.5	98.1	40.2	95.0	2,123.8
2	NHO大阪南医療センター	121.9	94	359.2	41.6	27.0	27.0	642.6
3	PL病院	95.5	83	332.8	38.8	22.0	24.0	588.5
4	大阪はびきの医療センター	91.8	77	438.5	15.3	5.8	23.5	635.2
5	城山病院	81.0	61	317.7	36.2	0	13.0	513.9
6	済生会 富田林病院	62.4	52	364.7	58.6	35.0	17.0	592.9
7	青山藤ヶ丘病院	42.8	40	31.2	15.0	7.0	2.0	103.1
8	阪南中央病院	45.4	38	170.5	25.3	13.3	7.3	286.6
9	松原徳洲会病院	53.5	34	286.4	28.0	34.0	17.5	512.9
10	運動器ケア しまだ病院	26.7	24	74.9	14.0	76.5	3.3	223.5
11	寺元記念病院	26.3	21	76.8	18.0	8.0	9.0	181.3
12	明治橋病院	24.7	20	101.8	9.7	14.0	7.4	176.6
13	檉本病院	24.2	18	120.2	47.6	38.6	9.9	264.3
14	さくら会病院	22.7	17	99.0	28.5	65.5	6.8	239.7
15	青山病院	15.5	13	77.8	19.9	48.5	5.8	188.1
16	青葉丘病院	21.3	12	224.0	102.0	24.0	6.0	392.2
17	高村病院	15.2	9	90.7	32.2	13.9	3.7	165.0
18	医仁会 藤本病院	11.1	8	71.1	26.3	13.0	3.8	137.1
19	青山脳神経外科病院	7.0	7	34.3	2.0	7.0	2.0	54.3
20	結のぞみ病院	8.7	7	121.9	60.3	9.0	6.6	216.6
21	南河内おか病院	9.3	6	54.5	25.5	15.0	4.0	124.4
22	てらもと医療リハビリ病院	7.2	5	30.0	33.0	10.0	3.0	86.2
23	辻本病院	7.6	5	51.0	23.9	10.8	7.4	102.7
24	青山第二病院	8.7	4	27.4	18.9	17.0	2.3	75.3
25	天仁病院	7.3	4	62.3	23.2	17.0	2.9	120.7

南河内医療圏 | 医療機関別職員数②

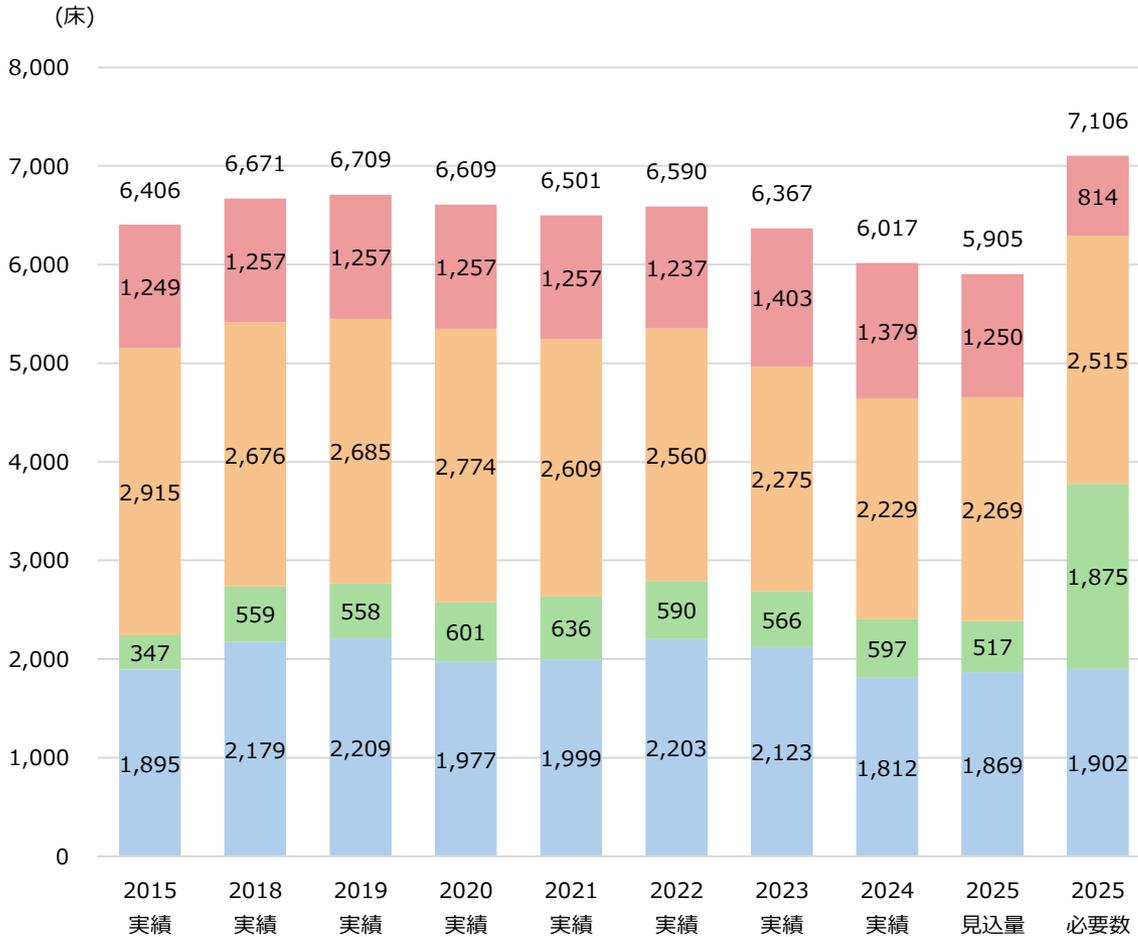
No.	医療機関名	医師	うち、常勤	看護職員	看護補助者	PT+OT+ST	薬剤師	全職員
26	老寿やすらぎ病院	5.1	4	75.7	82.2	5.0	3.0	174.2
27	寺下病院	4.8	3	30.4	7.1	0	2.0	46.4
28	すくよか	6.4	3	56.8	58.0	7.0	2.0	135.7
29	金剛病院	20.0	3	32.0	14.0	9.0	1.0	83.5
30	澤田病院	5.0	3	25.7	9.2	1.0	2.8	48.4
31	富田林田中病院	2.1	2	8.8	4.1	0	1.8	19.3
32	滝谷病院	11.1	2	31.2	19.1	1.2	2.4	70.0
	総計	1,488.5	1,254	4,953.8	1,035.6	595.3	325.2	9,325.0

南河内区域 | 病床機能別の病床数の推移と必要病床数

当該構想区域の病床機能別の病床数の推移と、2025年の必要病床数を示しています。

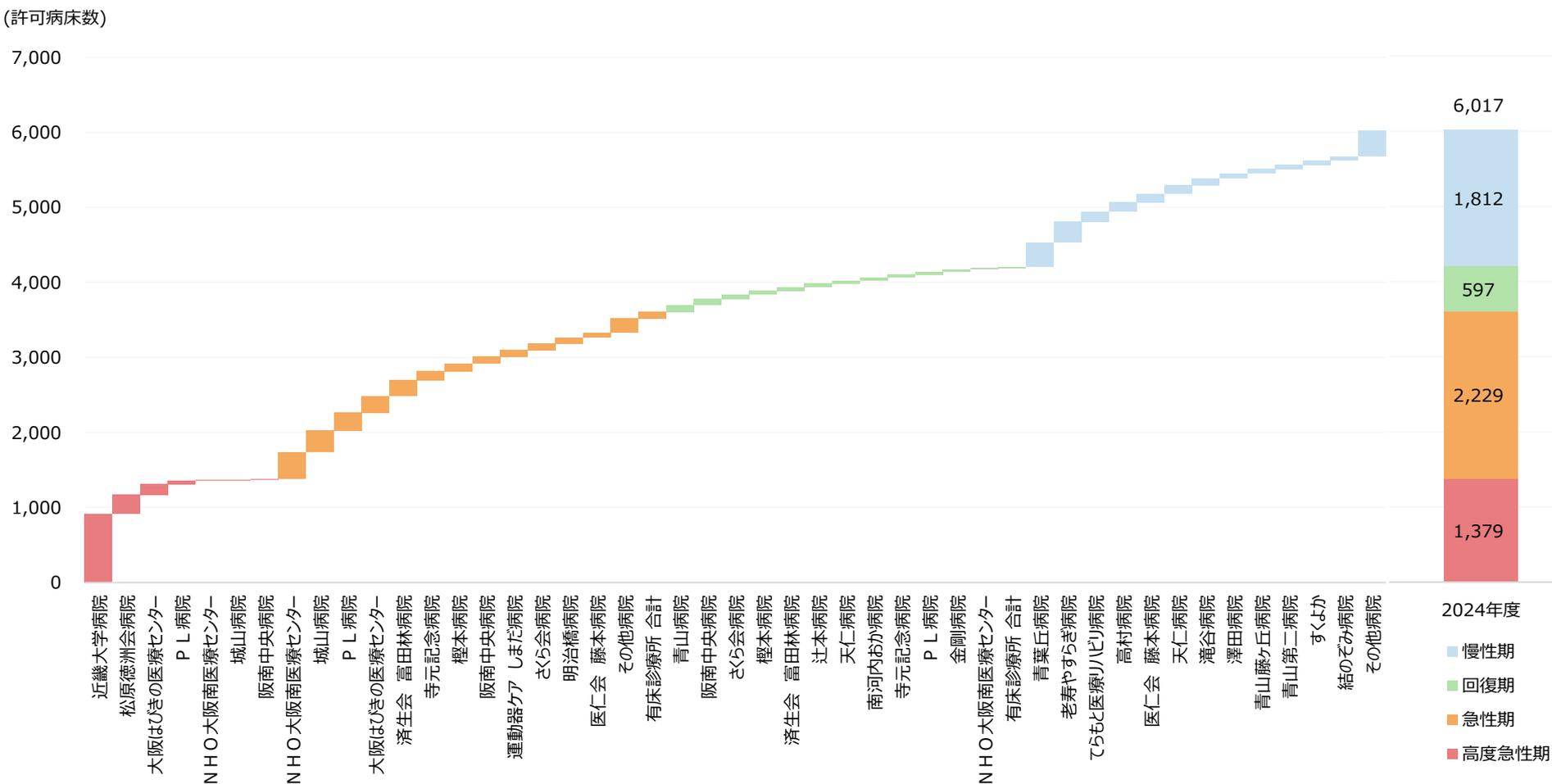
病床数全体の推移だけでなく、機能ごとの増減や、必要病床数との差を検証します。

高度急性期・急性期が少ない場合は急性期の確保、回復期が少ない場合は機能分化が課題として挙げられます。



病床機能	2024年 7月時点	2025年 必要数	差分
高度急性期	1,379	814	+565
急性期	2,229	2,515	▲286
回復期	597	1,875	▲1,278
慢性期	1,812	1,902	▲90
合計	6,017	7,106	▲1,089

南河内医療圏 | 病床機能別・医療機関別の許可病床数

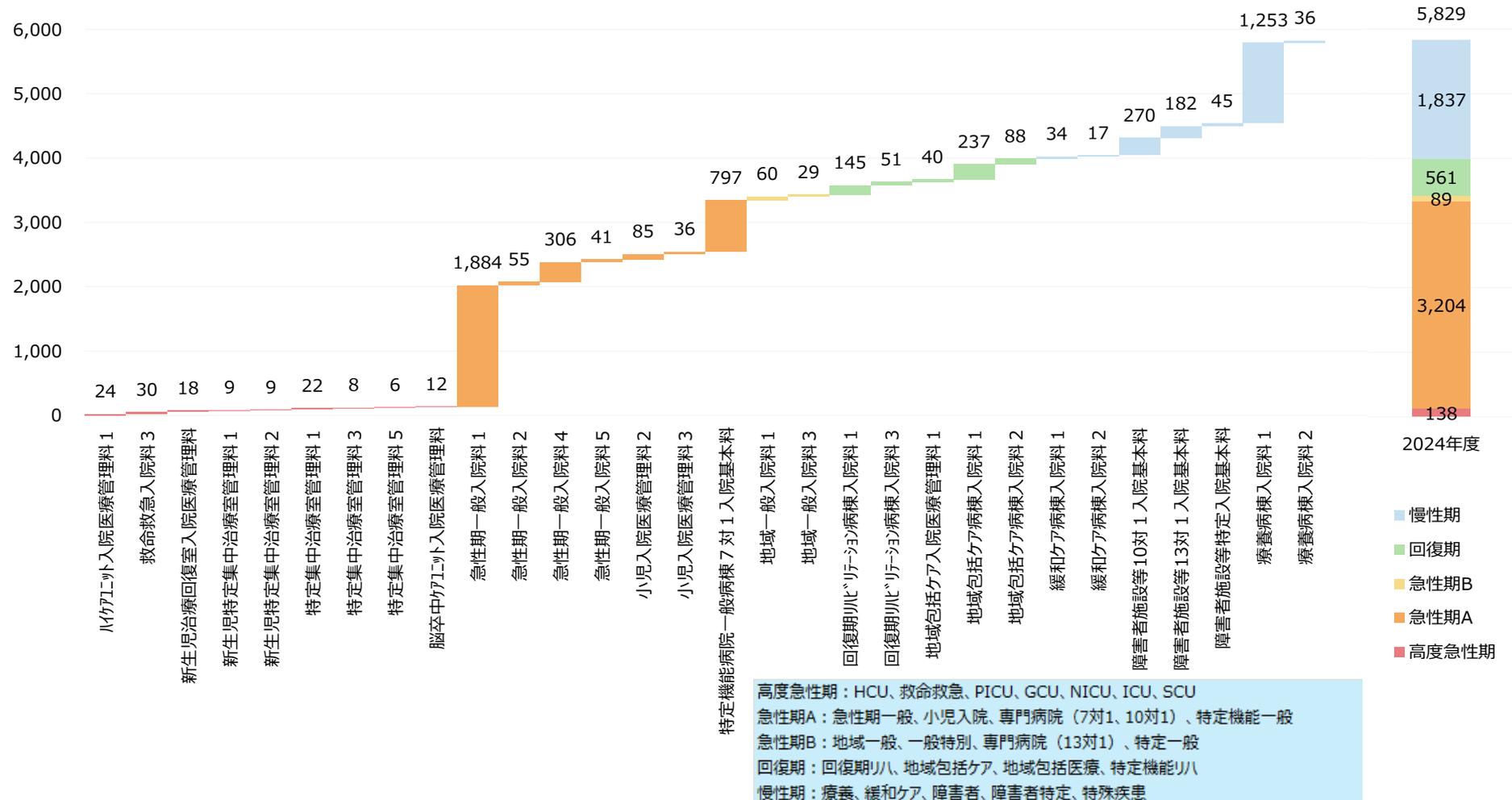


出典：「令和6年度病床機能報告」（厚生労働省）

南河内医療圏 | 入院料別届出病床数 (病院のみ/入院基本料に基づく機能分類)

当該医療圏の入院料別の届出病床数を整理しています。
それぞれの病床機能に適した入院料の病床数が多いか確認できます。

(届出病床数)

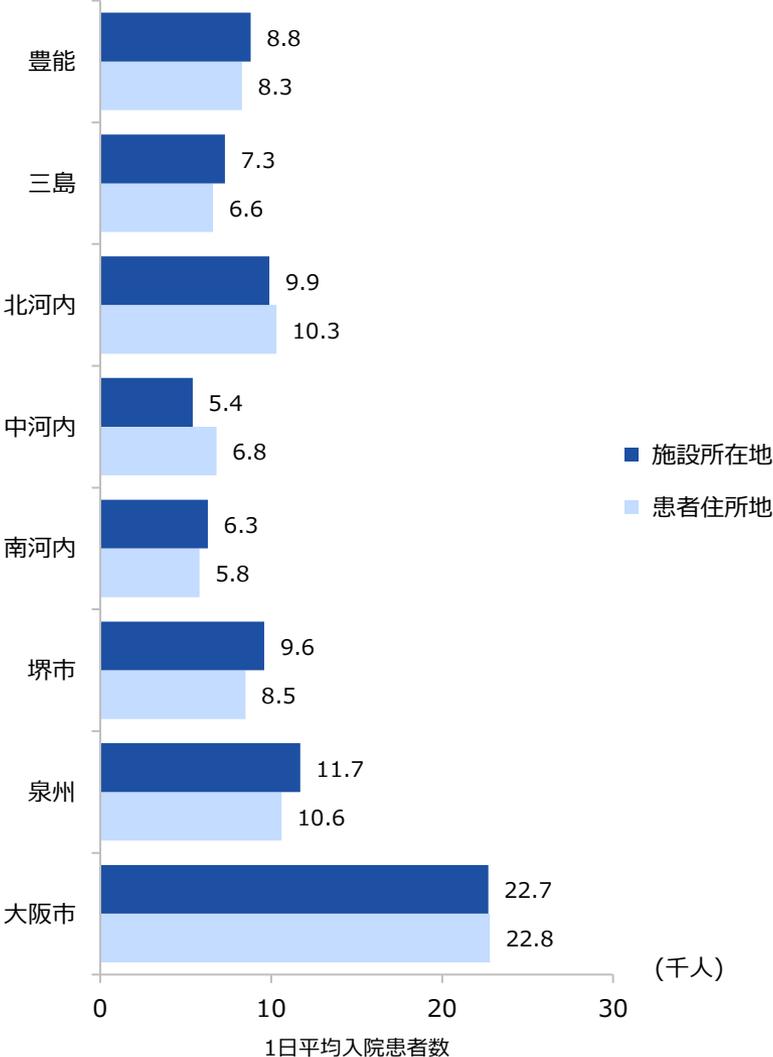


出典：「令和6年度病床機能報告」（厚生労働省）

大阪府 | 二次医療圏別の1日平均入院患者数

左図は、都道府県内の二次医療圏における1日平均入院患者数の流出入の状況を示しています。

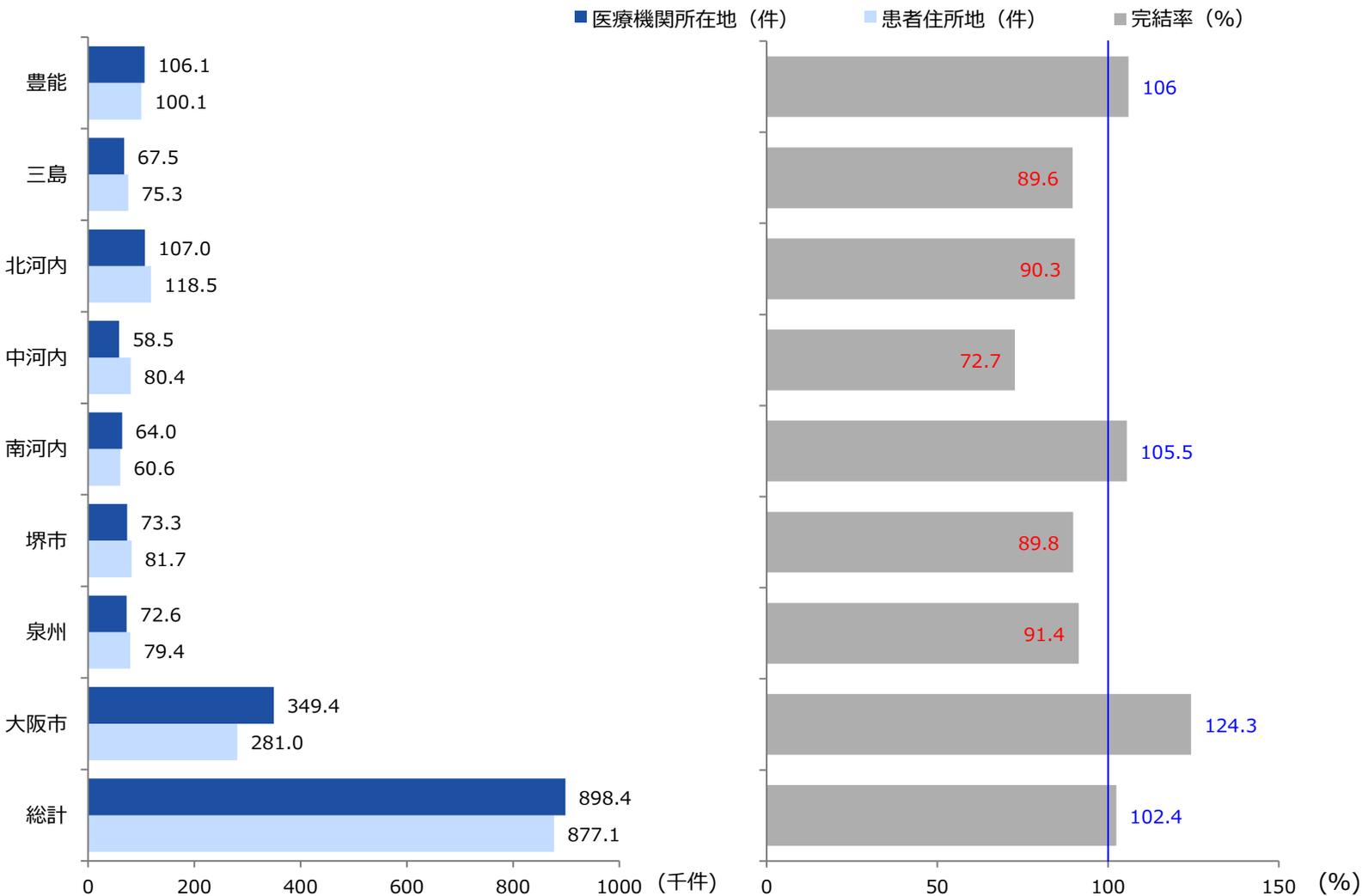
右表では、当該医療圏におけるICD大分類別の1日平均入院患者数の流出入を示しています。



傷病分類	入院患者数(単位：千人/日)		流出入
	施設所在地	患者住所地	
I 感染症	0.1	0.1	0
II 新生物	0.6	0.6	0
III 血液	0	0	0
IV 内分泌	0.2	0.2	0
V 精神	1.4	1.0	0.4
VI 神経系	0.5	0.5	0
VII 眼	0.1	0.1	0
VIII 耳	0	0	0
IX 循環器	0.9	0.8	0.1
X 呼吸器	0.5	0.4	0.1
X I 消化器	0.3	0.3	0
X II 皮膚	0.1	0.1	0
X III 筋骨格	0.4	0.3	0.1
X IV 腎尿路	0.2	0.2	0
X V 妊娠, 分娩	0.1	0.1	0
X VI 周産期	0	0	0
X VII 先天奇形	0	0	0
X VIII 症状, 徴候	0	0.1	▲0.1
X IX 損傷, 中毒	0.5	0.6	▲0.1
X X I 保健サービス	0.2	0.1	0.1
X X II 特殊目的用	0.1	0.1	0
総数	6.2	5.6	0.6

出典：「令和5年患者調査」(厚生労働省)

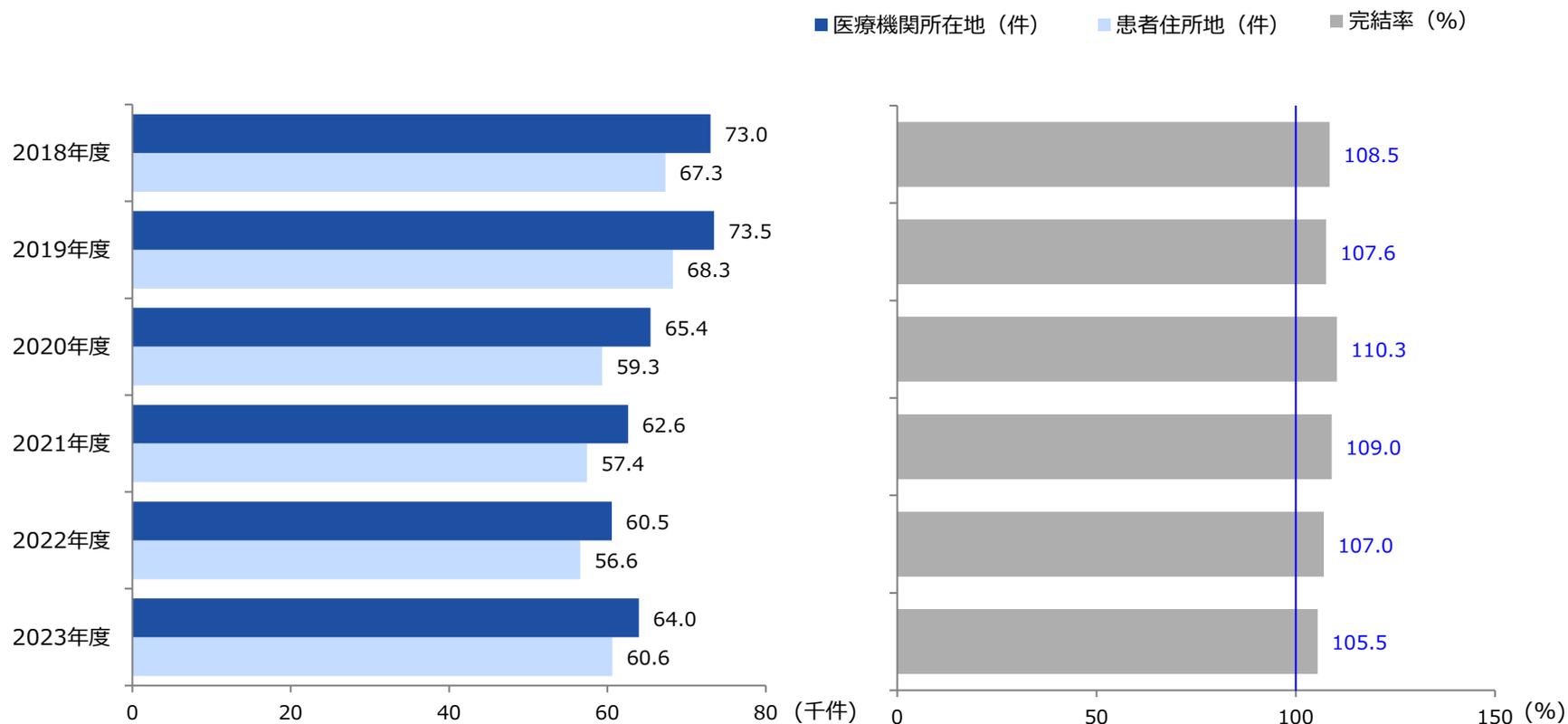
大阪府 | 二次医療圏別の流出入状況（DPC症例数）



出典：「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」（厚生労働省）

南河内医療圏 | 患者流出入状況の年度推移 (DPC症例数)

都道府県内の二次医療圏におけるDPC症例数の流出入の状況を示しています。

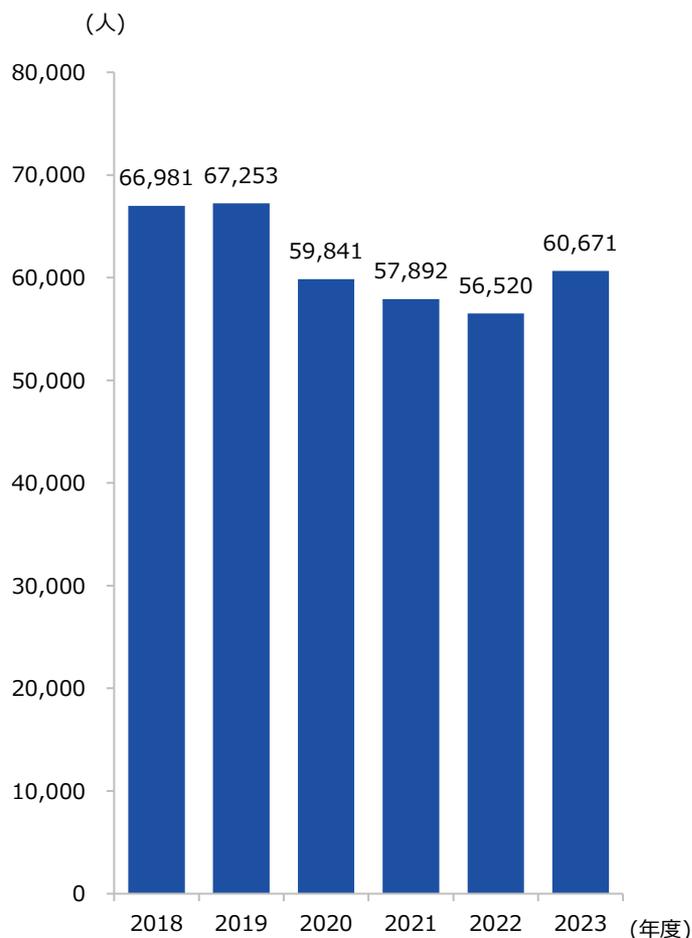


南河内医療圏 | MDC別退院患者数の推移（DPC病院のみ）

左図は、当該医療圏のDPC対象病院における退院患者数の推移を示しています。

右表は、MDC別の退院患者数を示しています。

退院患者数：合計



退院患者数：MDC別

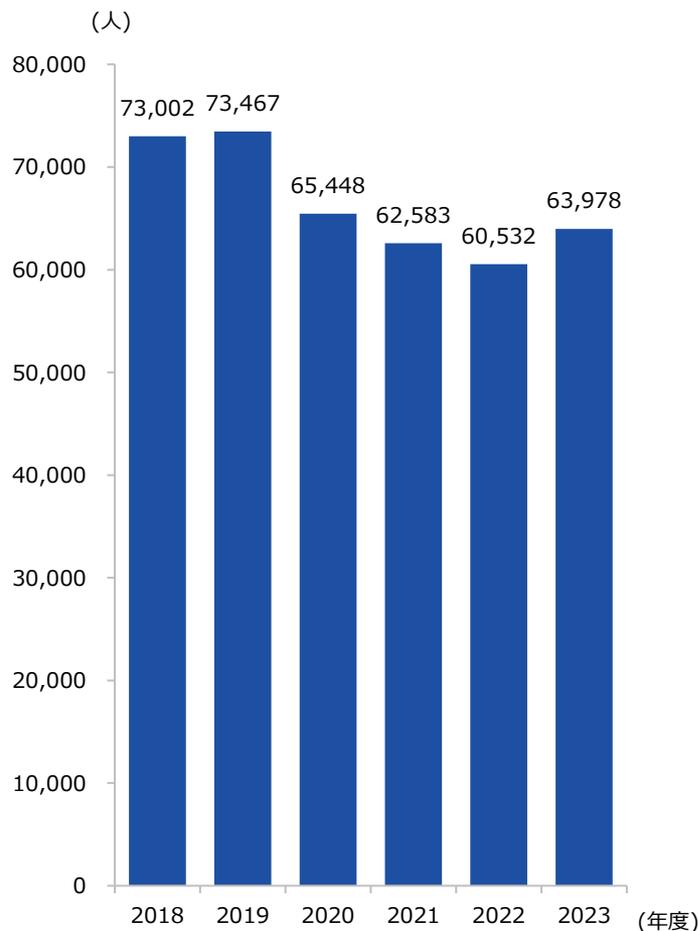
MDC名称	2018	2019	2020	2021	2022	2023	推移 2023- 2018	2023年 構成比
MDC01 神経系	3,644	3,632	3,343	3,354	3,435	3,536	▲3.0%	5.8%
MDC02 眼科系	5,051	5,365	4,895	4,019	3,443	3,698	▲26.8%	6.1%
MDC03 耳鼻咽喉科系	2,157	2,240	1,674	1,516	1,550	2,012	▲6.7%	3.3%
MDC04 呼吸器系	8,997	8,701	6,001	6,151	5,864	7,454	▲17.2%	12.3%
MDC05 循環器系	6,652	6,576	5,764	5,711	5,474	5,680	▲14.6%	9.4%
MDC06 消化器系, 肝臓・胆道・膵臓	15,294	15,038	13,907	13,632	13,443	13,620	▲10.9%	22.4%
MDC07 筋骨格系	3,525	3,453	3,566	3,436	3,266	3,455	▲2.0%	5.7%
MDC08 皮膚・皮下組織	1,906	1,999	1,644	1,474	1,300	1,405	▲26.3%	2.3%
MDC09 乳房	576	660	631	684	650	799	38.7%	1.3%
MDC10 内分泌・栄養・代謝	1,723	1,673	1,607	1,396	1,356	1,601	▲7.1%	2.6%
MDC11 腎・泌尿系及び男性生殖器系	4,716	5,015	4,628	4,709	4,768	4,809	2.0%	7.9%
MDC12 女性生殖器系及び産褥期・異常妊娠分娩	4,363	4,415	4,243	4,188	4,188	4,256	▲2.5%	7.0%
MDC13 血液・造血管器・免疫機構	1,855	1,805	1,540	1,304	1,480	1,617	▲12.8%	2.7%
MDC14 新生児、先天性奇形	1,501	1,524	1,523	1,510	1,525	1,479	▲1.5%	2.4%
MDC15 小児	231	216	117	111	122	153	▲33.8%	0.3%
MDC16 外傷・熱傷・中毒	3,863	4,030	3,745	3,648	3,674	4,008	3.8%	6.6%
MDC17 精神	85	71	66	41	48	47	▲44.7%	0.1%
MDC18 その他	842	840	947	1,008	934	1,042	23.8%	1.7%
総計	66,981	67,253	59,841	57,892	56,520	60,671	▲9.4%	100.0%

南河内医療圏 | MDC別退院患者数の推移（出来高病院含む）

左図は、当該医療圏のDPC対象病院・出来高病院における退院患者数の推移を示しています。

右表は、MDC別の退院患者数を示しています。

退院患者数：合計



退院患者数：MDC別

MDC名称	2018	2019	2020	2021	2022	2023	推移 2023- 2018	2023年 構成比
MDC01 神経系	4,465	4,510	4,251	4,243	4,298	4,052	▲9.2%	6.3%
MDC02 眼科系	5,131	5,457	4,999	4,156	3,557	3,794	▲26.1%	5.9%
MDC03 耳鼻咽喉科系	2,215	2,312	1,731	1,553	1,577	2,040	▲7.9%	3.2%
MDC04 呼吸器系	9,546	9,357	6,414	6,461	6,095	7,785	▲18.4%	12.2%
MDC05 循環器系	6,803	6,732	5,915	5,816	5,538	5,780	▲15.0%	9.0%
MDC06 消化器系、肝臓・胆道・膵臓	17,673	17,149	15,687	15,002	14,386	14,345	▲18.8%	22.4%
MDC07 筋骨格系	4,043	4,005	4,140	3,956	3,737	3,769	▲6.8%	5.9%
MDC08 皮膚・皮下組織	1,960	2,061	1,722	1,527	1,330	1,445	▲26.3%	2.3%
MDC09 乳房	695	765	727	763	735	817	17.6%	1.3%
MDC10 内分泌・栄養・代謝	1,962	1,947	1,833	1,514	1,485	1,683	▲14.2%	2.6%
MDC11 腎・泌尿系及び男性生殖器系	5,003	5,354	4,913	4,908	4,921	5,025	0.4%	7.9%
MDC12 女性生殖器系及び産褥期・異常妊娠分娩	4,364	4,417	4,249	4,191	4,189	4,263	▲2.3%	6.7%
MDC13 血液・造血管器・免疫機構	1,940	1,876	1,608	1,443	1,655	1,779	▲8.3%	2.8%
MDC14 新生児、先天性奇形	1,505	1,526	1,525	1,510	1,530	1,482	▲1.5%	2.3%
MDC15 小児	236	217	118	112	122	153	▲35.2%	0.2%
MDC16 外傷・熱傷・中毒	4,484	4,833	4,524	4,271	4,263	4,648	3.7%	7.3%
MDC17 精神	93	78	73	42	49	47	▲49.5%	0.1%
MDC18 その他	884	871	1,019	1,115	1,065	1,071	21.2%	1.7%
総計	73,002	73,467	65,448	62,583	60,532	63,978	▲12.4%	100.0%

3/ 医療需要の将来推計

人口推計と受療率をもとに、将来の医療・介護需要を整理する。

疾患領域別の患者数推計

入院・外来・在宅の需要構造

2040年以降の需要変化

将来の患者数の増減や需要構造の変化を把握し、地域医療における課題を整理する。
需要の時間的な変化を踏まえ、機能転換や医療資源配分を検討するための基礎資料とする。

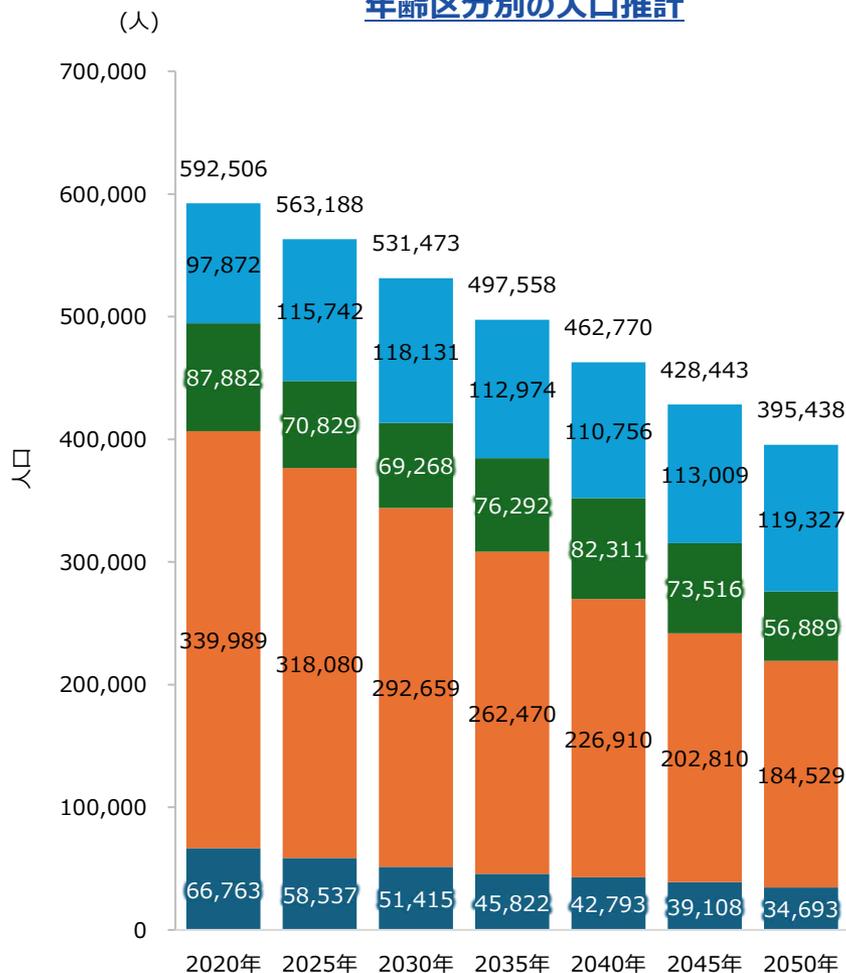
南河内医療圏 | 人口推計

2050年までの人口の将来推計を示しています。

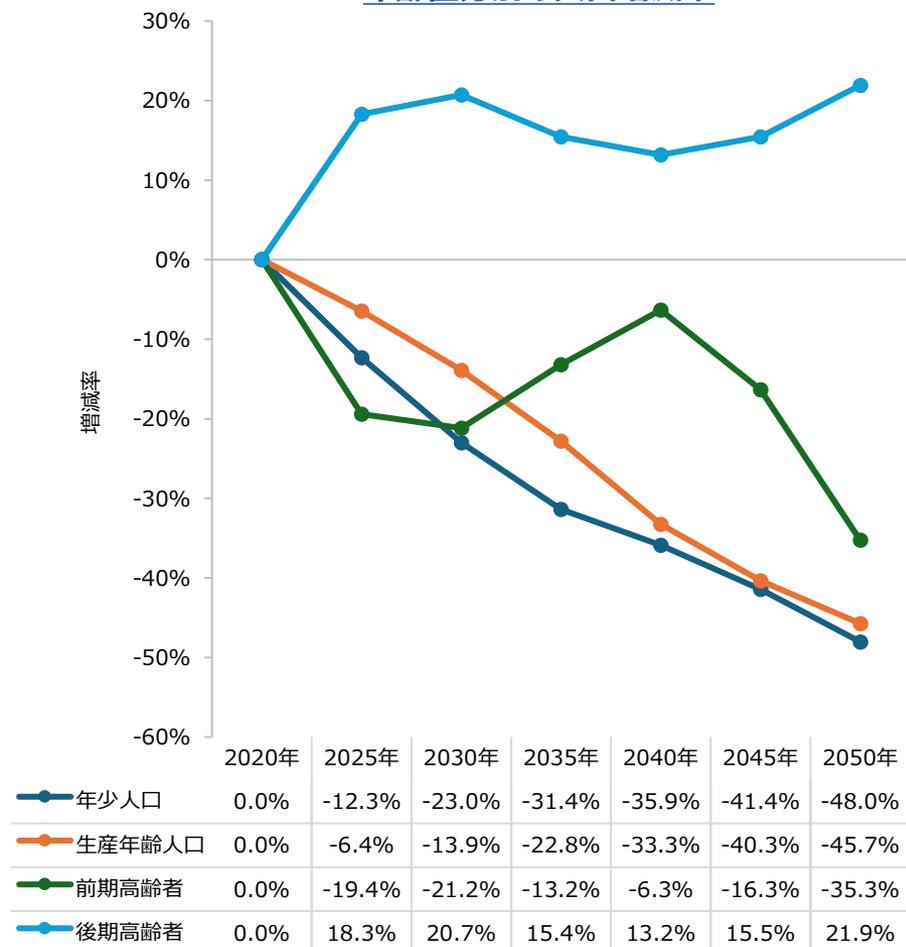
多くの地域において、総人口は減少しますが、高齢者人口は増加傾向にあります。

特に、医療介護の複合的なニーズを持つ後期高齢者の増加幅と、支え手となる生産年齢人口の減少幅について確認が必要です。

年齢区分別の人口推計



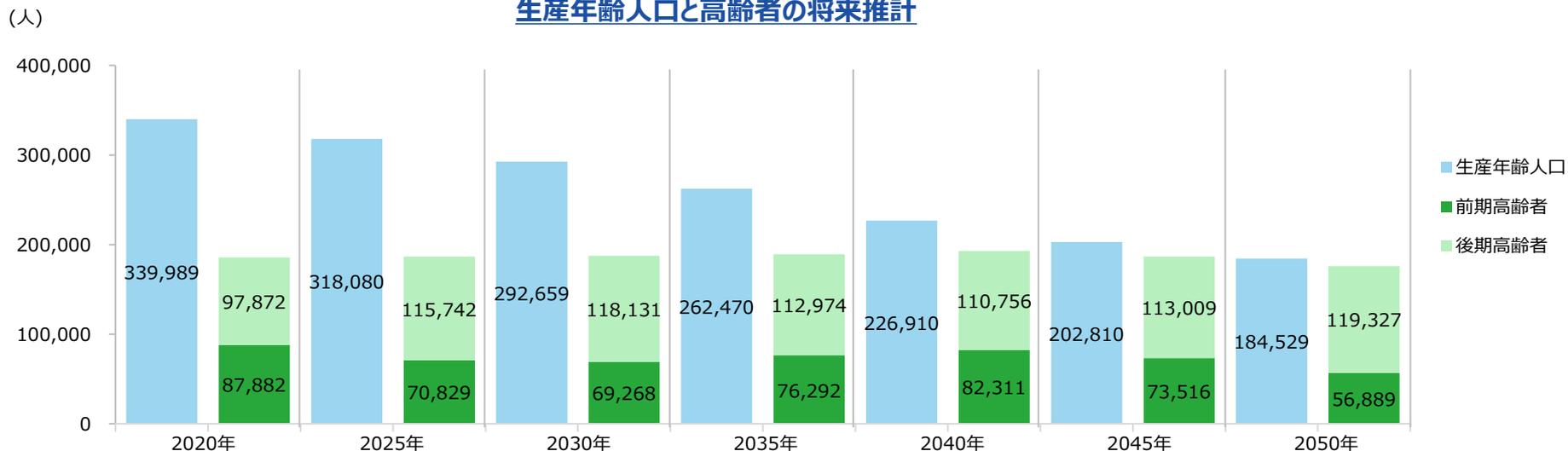
年齢区分別の人口増減率



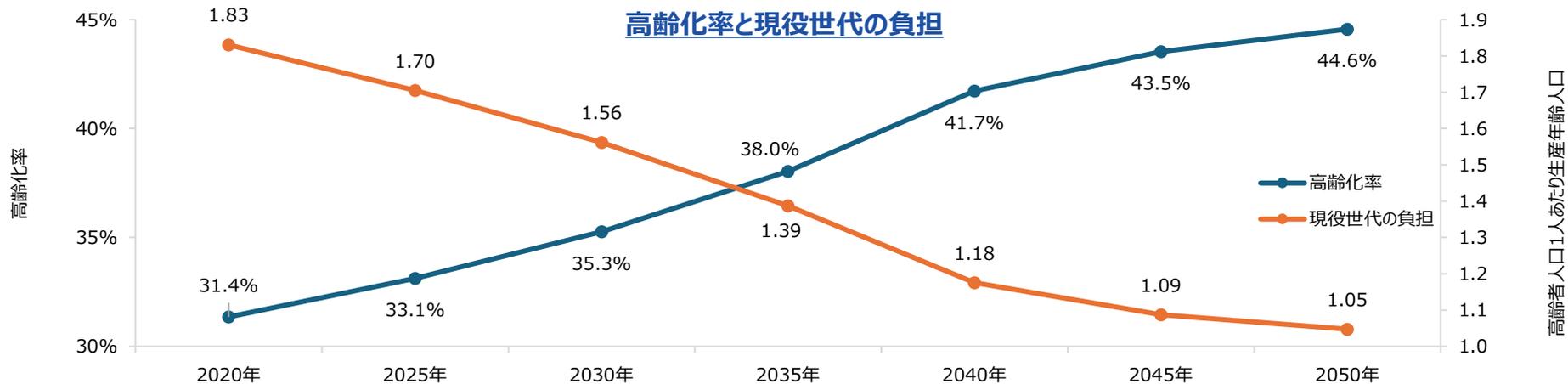
南河内医療圏 | 高齢化の状況

高齢化率と現役世代の負担（高齢者1人あたり生産年齢人口）を示しています。
 全国の2020年時点の高齢化率は28.6%、現役世代の負担は2.1となっています。

生産年齢人口と高齢者の将来推計



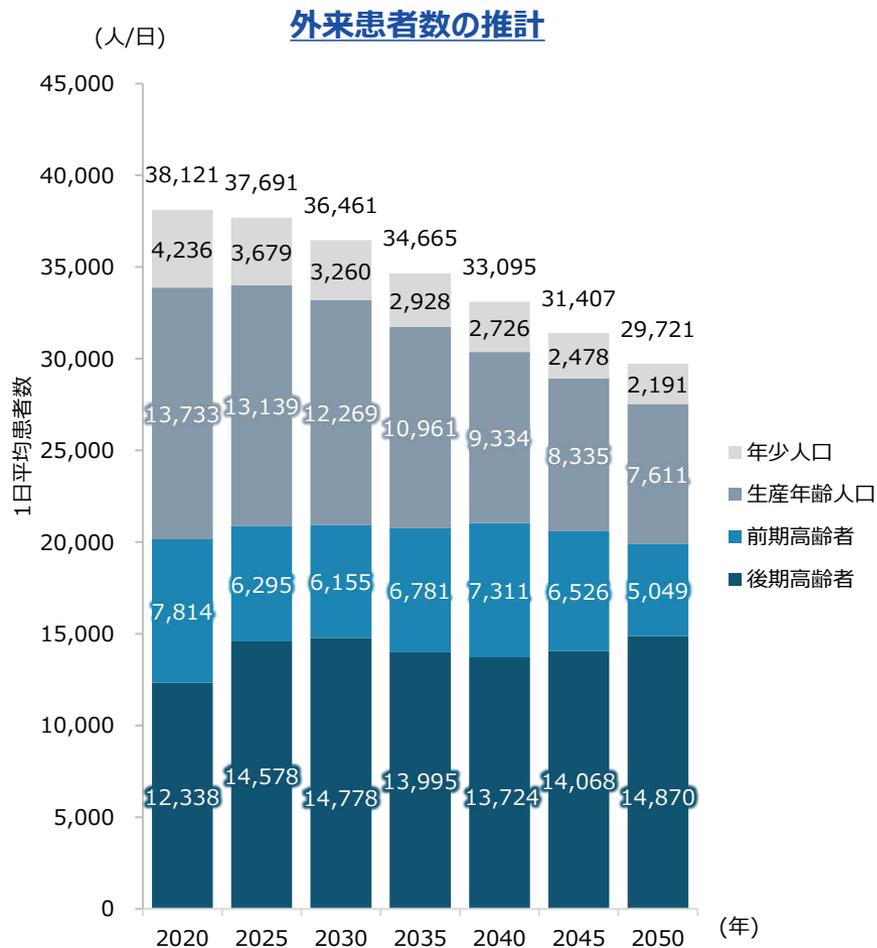
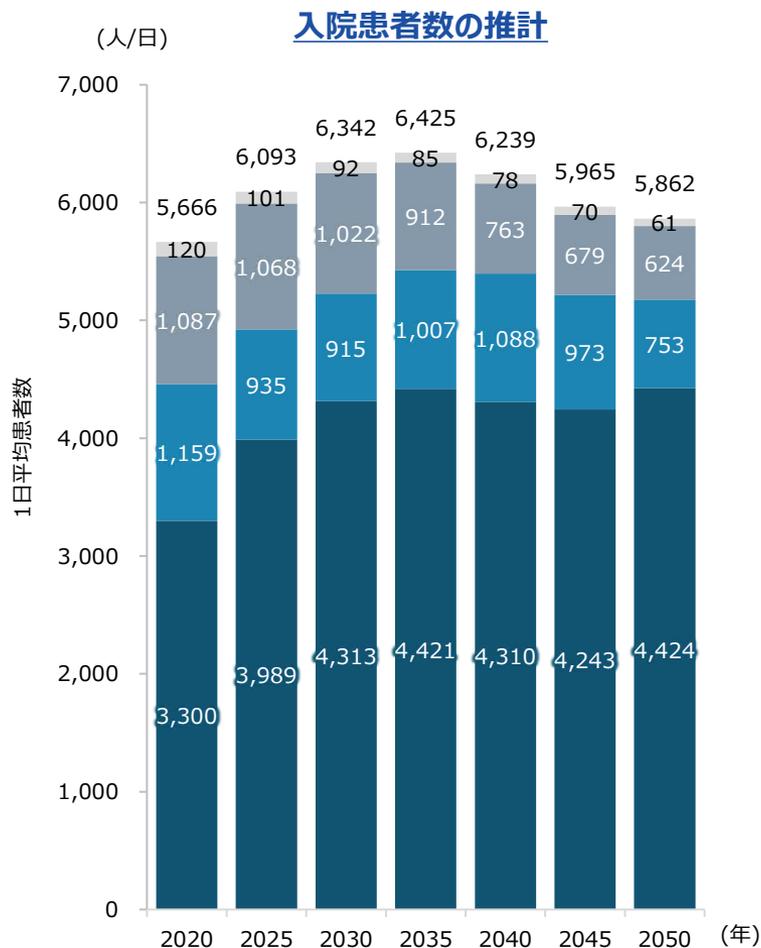
高齢化率と現役世代の負担



南河内医療圏 | 1日平均患者数

都道府県受療率に基づく、2050年までの入院患者数および外来患者数の需要予測を示しています。

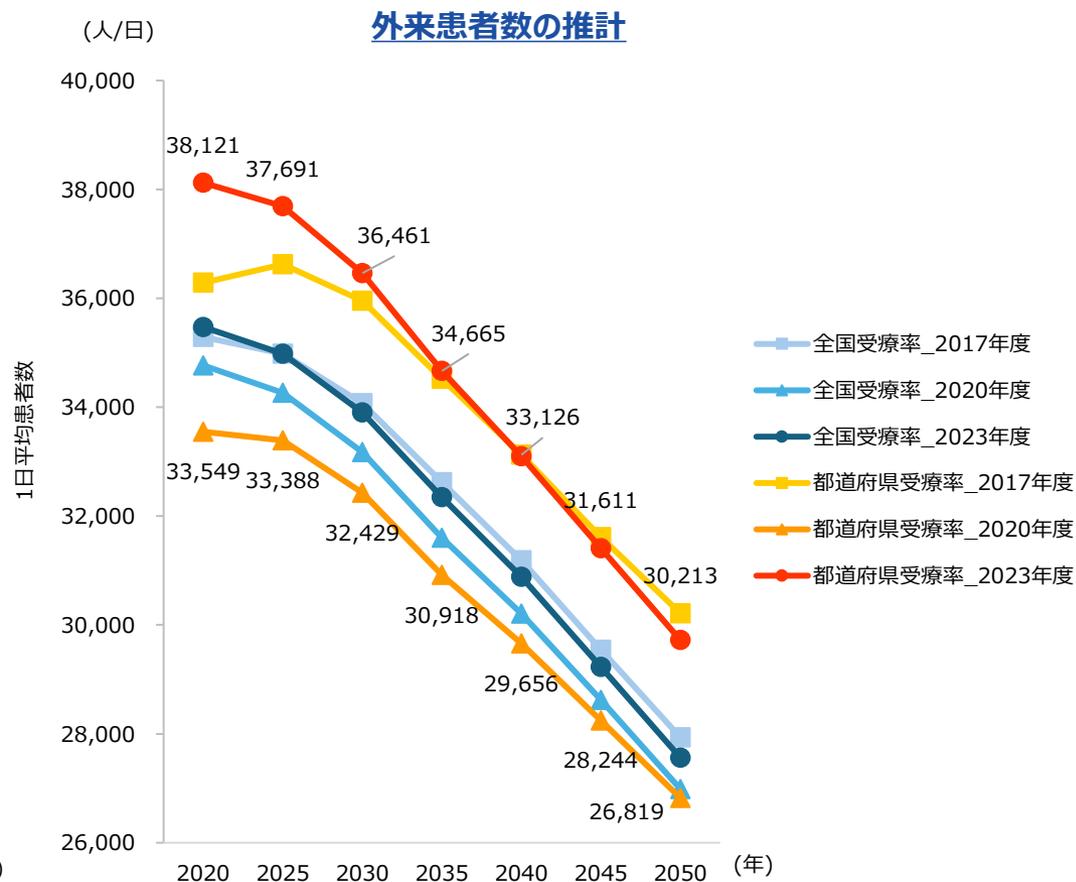
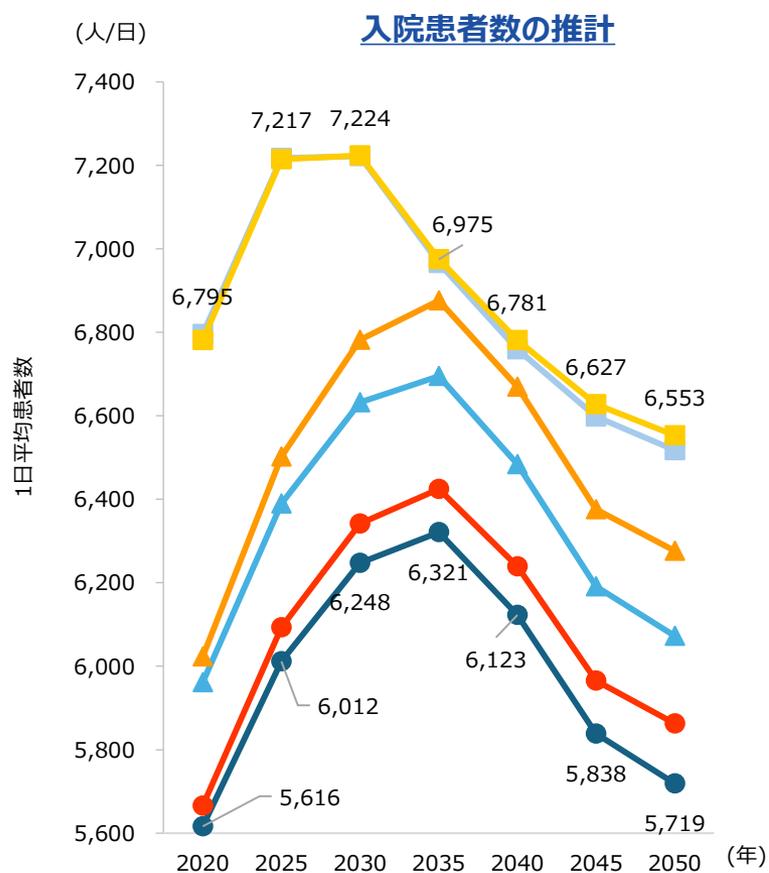
多くの地域では入院需要が増加、外来需要が減少傾向にあり、需要の変化に合わせた医療提供体制の構築が求められます。



南河内医療圏 | 受療率の比較

3つの調査年（2017年、2020年、2023年）における、全国および都道府県の受療率を対象医療圏の人口に乗じて算出した患者数の将来推計を示しています。

全国の受療率よりも受療率が高い場合は、入院需要の縮小のリスクが想定されます。



南河内医療圏 | ICD別の入院患者数推計

疾患別の入院患者数の将来推計を示しています。

ICD分類	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
I 感染症及び寄生虫症	80	86	88	88	86	82	81
II 新生物<腫瘍>	620	635	631	614	601	580	559
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	32	34	35	35	33	32	31
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	153	167	177	183	178	169	167
V 精神及び行動の障害	858	868	862	837	798	754	713
VI 神経系の疾患	486	532	553	558	543	524	521
VII 眼及び付属器の疾患	66	67	66	64	63	62	59
VIII 耳及び乳様突起の疾患	10	10	9	9	8	8	7
IX 循環器系の疾患	941	1,044	1,116	1,155	1,126	1,078	1,070
X 呼吸器系の疾患	430	489	530	556	541	517	521
X I 消化器系の疾患	286	304	312	312	303	291	285
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	61	68	72	74	72	68	68
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	424	460	481	489	478	459	452
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	238	263	277	283	276	265	264
X V 妊娠, 分娩及び産じょく	49	45	41	38	34	30	26
X VI 周産期に発生した病態	36	29	28	26	24	21	18
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	24	21	20	18	17	15	14
X VIII 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	122	137	150	158	155	147	146
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	644	716	765	793	772	737	732
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	27	28	29	31	29	27	26
X X II 特殊目的用コード	81	94	103	107	105	101	102
総数	5,669	6,096	6,345	6,427	6,241	5,967	5,864

南河内医療圏 | ICD別の入院患者数増減率

疾患別の入院患者数の将来推計の増減率を示しています。

ICD分類	1日平均患者数 2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
I 感染症及び寄生虫症	80	7.3%	10.5%	10.7%	7.4%	3.1%	1.6%
II 新生物<腫瘍>	620	2.4%	1.8%	-0.9%	-3.0%	-6.4%	-9.8%
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	32	5.6%	9.2%	9.3%	5.4%	0.4%	-2.1%
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	153	9.3%	15.6%	19.3%	15.9%	10.4%	9.0%
V 精神及び行動の障害	858	1.1%	0.4%	-2.5%	-7.0%	-12.2%	-16.9%
VI 神経系の疾患	486	9.4%	13.8%	14.7%	11.7%	7.8%	7.2%
VII 眼及び付属器の疾患	66	2.7%	1.1%	-2.4%	-3.6%	-6.0%	-9.3%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	10	1.0%	-3.6%	-11.2%	-17.2%	-20.5%	-23.1%
IX 循環器系の疾患	941	11.0%	18.6%	22.8%	19.7%	14.6%	13.8%
X 呼吸器系の疾患	430	13.7%	23.2%	29.2%	25.7%	20.1%	21.0%
X I 消化器系の疾患	286	6.2%	9.0%	9.0%	5.9%	1.6%	-0.4%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	61	10.1%	17.4%	20.7%	16.7%	11.1%	9.9%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	424	8.5%	13.4%	15.2%	12.6%	8.2%	6.6%
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	238	10.4%	16.3%	19.0%	15.9%	11.4%	11.1%
X V 妊娠, 分娩及び産じょく	49	-9.1%	-15.6%	-22.9%	-30.3%	-38.2%	-46.5%
X VI 周産期に発生した病態	36	-18.4%	-23.4%	-27.8%	-34.0%	-42.0%	-49.7%
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	24	-10.6%	-15.9%	-21.9%	-28.2%	-34.9%	-41.6%
X VIII 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	122	12.3%	22.3%	29.3%	26.4%	20.3%	19.8%
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	644	11.0%	18.6%	23.0%	19.7%	14.3%	13.6%
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	27	3.3%	8.1%	12.5%	8.0%	0.0%	-4.0%
X X II 特殊目的用コード	81	16.1%	26.6%	32.6%	29.2%	24.3%	26.1%
総数	5,669	7.5%	11.9%	13.4%	10.1%	5.3%	3.4%

南河内医療圏 | ICD別の外来患者数推計

疾患別の外来患者数の将来推計を示しています。

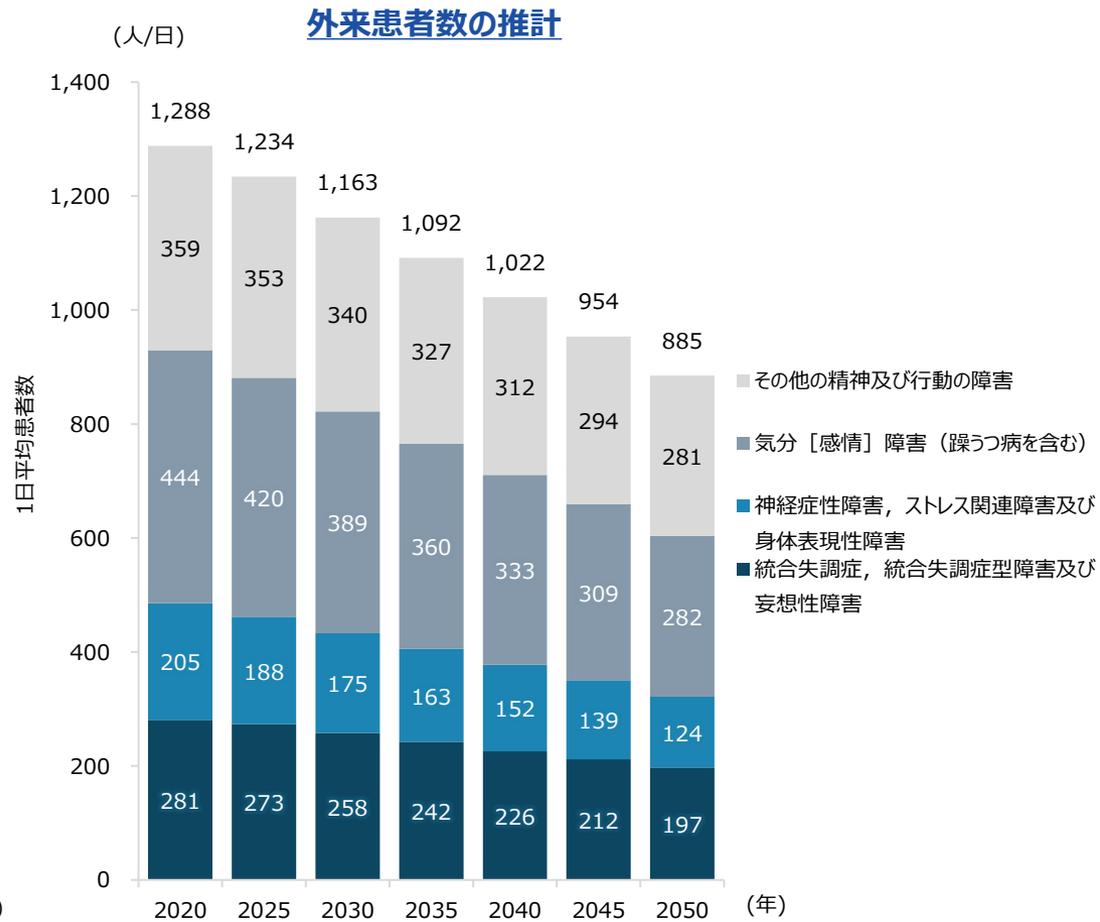
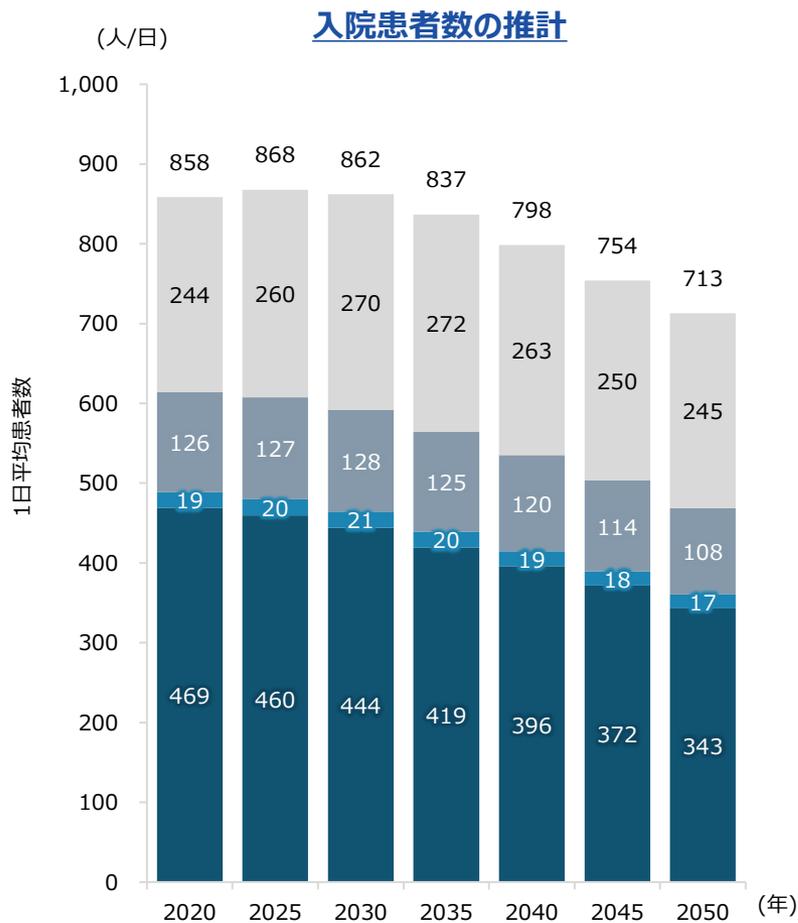
ICD分類	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
I 感染症及び寄生虫症	633	606	571	524	486	455	425
II 新生物<腫瘍>	1,394	1,399	1,372	1,321	1,278	1,222	1,161
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	69	65	59	55	52	49	46
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	2,382	2,399	2,342	2,238	2,175	2,093	1,990
V 精神及び行動の障害	1,288	1,234	1,162	1,092	1,022	954	885
VI 神経系の疾患	834	849	858	855	820	771	735
VII 眼及び付属器の疾患	1,415	1,417	1,378	1,304	1,238	1,176	1,118
VIII 耳及び乳様突起の疾患	454	443	435	425	405	379	359
IX 循環器系の疾患	4,916	5,135	5,155	5,038	4,948	4,803	4,666
X 呼吸器系の疾患	3,397	3,113	2,871	2,648	2,461	2,263	2,061
X I 消化器系の疾患	7,391	7,189	6,819	6,360	5,973	5,619	5,251
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	1,524	1,439	1,348	1,259	1,178	1,098	1,016
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	3,572	3,688	3,658	3,530	3,443	3,331	3,213
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	1,601	1,609	1,562	1,485	1,409	1,342	1,285
X V 妊娠, 分娩及び産じょく	58	52	49	45	41	36	31
X VI 周産期に発生した病態	17	15	13	12	11	10	9
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	100	87	78	71	66	60	53
X VIII 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	481	481	477	468	454	429	407
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	1,193	1,176	1,128	1,057	990	933	882
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5,095	5,023	4,879	4,650	4,436	4,198	3,965
X X II 特殊目的用コード	306	268	247	226	207	186	165
総数	38,120	37,689	36,460	34,664	33,095	31,406	29,720

南河内医療圏 | ICD別の外来患者数増減率

疾患別の外来患者数の将来推計の増減率を示しています。

ICD分類	1日平均患者数 2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
I 感染症及び寄生虫症	633	-4.4%	-9.8%	-17.2%	-23.2%	-28.1%	-33.0%
II 新生物<腫瘍>	1,394	0.4%	-1.5%	-5.3%	-8.3%	-12.4%	-16.7%
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	69	-5.2%	-13.3%	-19.8%	-23.8%	-27.9%	-32.7%
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	2,382	0.7%	-1.7%	-6.0%	-8.7%	-12.1%	-16.5%
V 精神及び行動の障害	1,288	-4.2%	-9.7%	-15.2%	-20.6%	-26.0%	-31.3%
VI 神経系の疾患	834	1.8%	2.8%	2.6%	-1.6%	-7.6%	-11.8%
VII 眼及び付属器の疾患	1,415	0.2%	-2.6%	-7.8%	-12.5%	-16.9%	-21.0%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	454	-2.5%	-4.3%	-6.6%	-10.8%	-16.5%	-21.1%
IX 循環器系の疾患	4,916	4.5%	4.9%	2.5%	0.6%	-2.3%	-5.1%
X 呼吸器系の疾患	3,397	-8.4%	-15.5%	-22.0%	-27.5%	-33.4%	-39.3%
X I 消化器系の疾患	7,391	-2.7%	-7.7%	-13.9%	-19.2%	-24.0%	-29.0%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	1,524	-5.6%	-11.5%	-17.4%	-22.7%	-28.0%	-33.3%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	3,572	3.3%	2.4%	-1.2%	-3.6%	-6.8%	-10.1%
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	1,601	0.5%	-2.4%	-7.3%	-12.0%	-16.2%	-19.7%
X V 妊娠, 分娩及び産じょく	58	-9.9%	-16.4%	-23.1%	-30.0%	-38.1%	-46.4%
X VI 周産期に発生した病態	17	-15.4%	-23.3%	-29.7%	-35.2%	-42.0%	-49.1%
X VII 先天奇形, 変形及び染色体異常	100	-12.4%	-22.1%	-29.1%	-33.7%	-39.7%	-46.7%
X VIII 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	481	0.0%	-0.9%	-2.7%	-5.7%	-10.7%	-15.5%
X IX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	1,193	-1.4%	-5.5%	-11.4%	-17.0%	-21.8%	-26.1%
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5,095	-1.4%	-4.2%	-8.7%	-12.9%	-17.6%	-22.2%
X X II 特殊目的用コード	306	-12.4%	-19.3%	-26.0%	-32.3%	-39.1%	-46.1%
総数	38,120	-1.1%	-4.4%	-9.1%	-13.2%	-17.6%	-22.0%

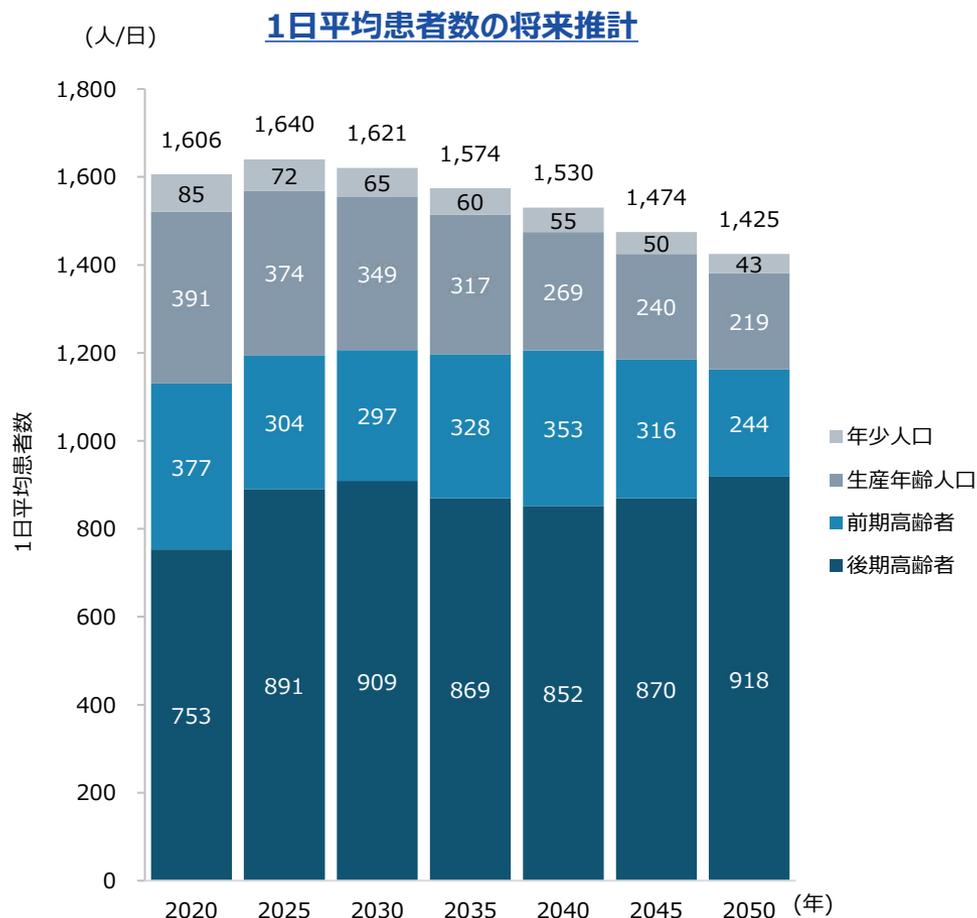
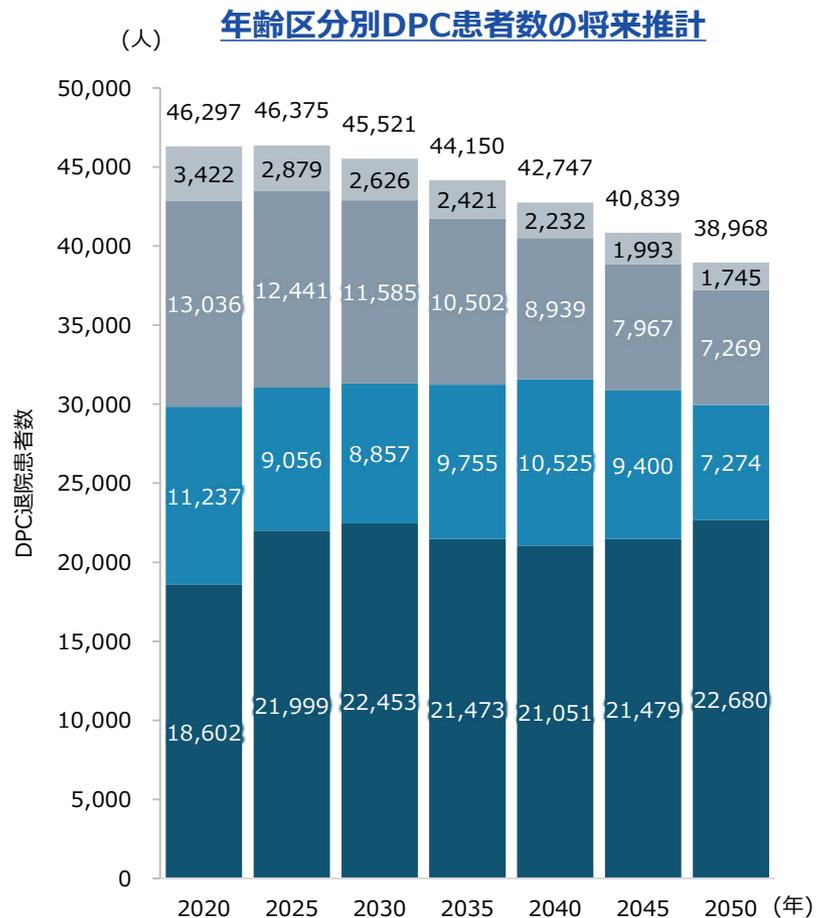
南河内医療圏 | 精神病床の1日平均患者数



南河内医療圏 | DPC患者数の推計

年齢層別のDPC患者数の将来推計を示しています。

多くの地域は後期高齢者のDPC患者数および1日平均患者数が増加傾向にありますが、その他の人口において減少が見られ、従来の手術を中心とした急性期医療は減少する見込みです。

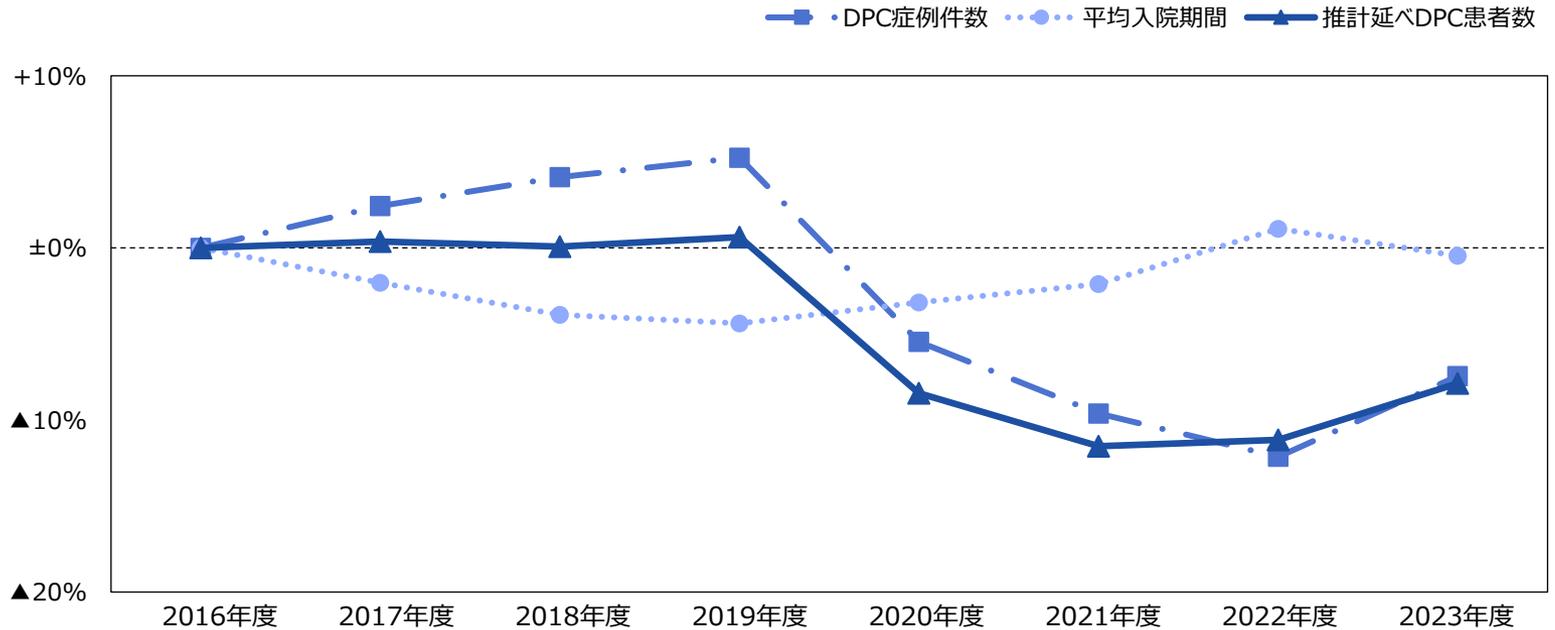


出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」（厚生労働省）を用いてDPCコード、年齢別の発生率を計算。その発生率と「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計。1日平均患者数は各DPCコードのDPC別平均入院日数をかけた後に365日で除して試算。

参考：南河内医療圏 | DPC症例数と平均入院期間の推移 (2016～2023年度にDPCに参加した病院)

当該医療圏内のDPC参加病院におけるDPC症例数と入院期間の推移を示しています。

DPCの延べ患者数の減少が症例数の減少によるものか、平均入院期間の短縮によるものか確認をします。



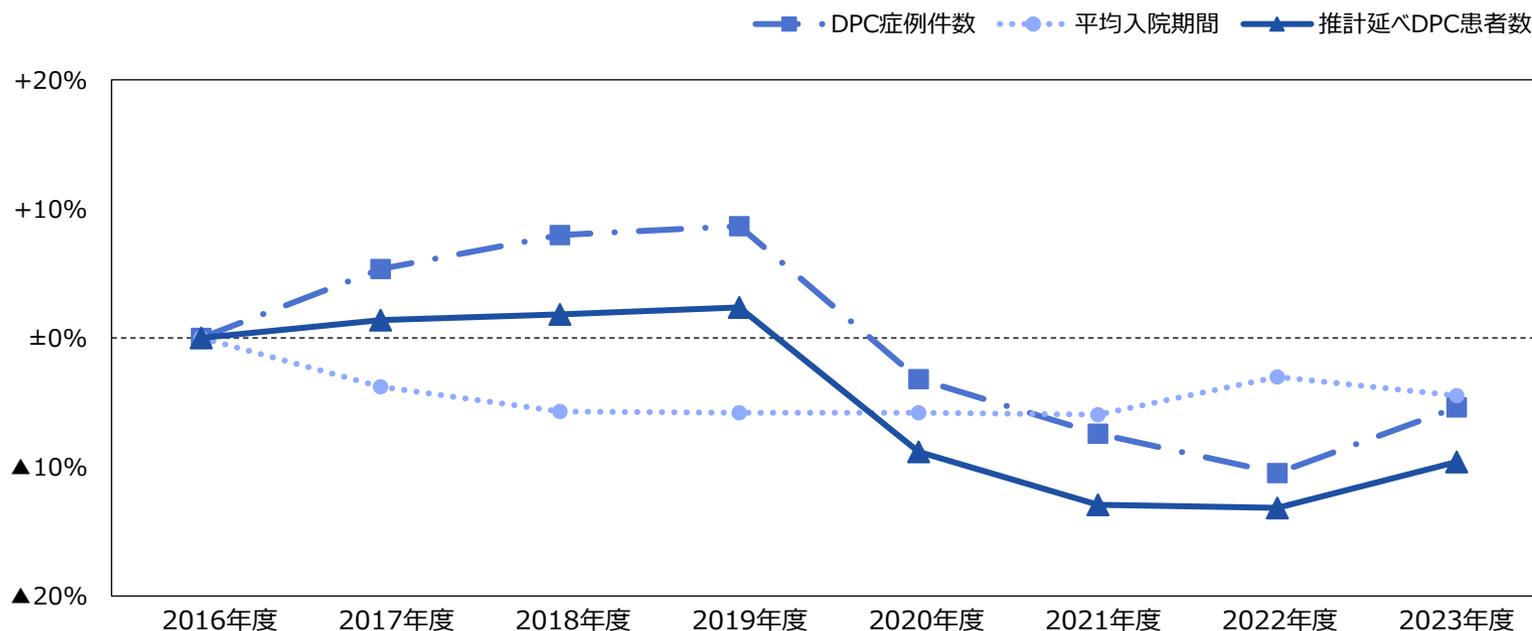
	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象病院数	10	10	10	10	10	10	10	10
DPC症例件数	55,758	57,117	58,049	58,680	52,714	50,388	48,988	51,602
(2016年比)	-	+2.4%	+4.1%	+5.2%	▲5.5%	▲9.6%	▲12.1%	▲7.5%
平均入院期間	11.5	11.3	11.1	11.0	11.2	11.3	11.7	11.5
(2016年比)	-	▲2.0%	▲3.9%	▲4.4%	▲3.2%	▲2.1%	+1.1%	▲0.5%
推計延べDPC患者数	643,393	645,734	643,806	647,412	588,990	569,232	571,558	592,691
(2016年比)	-	+0.4%	±0.1%	+0.6%	▲8.5%	▲11.5%	▲11.2%	▲7.9%

参考：南河内医療圏 | DPC症例数と平均入院期間の推移

(全病院：出来高病院を含む)

出来高病院を含むDPC症例数と入院期間の推移を示しています。

DPCの延べ患者数の減少が症例数の減少によるものか、平均入院期間の短縮によるものか確認をします。



	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
対象病院数	19	20	26	27	28	29	29	32
DPC症例件数	67,609	71,224	73,002	73,467	65,448	62,583	60,532	63,978
(2016年比)	-	+5.3%	+8.0%	+8.7%	▲3.2%	▲7.4%	▲10.5%	▲5.4%
平均入院期間	11.8	11.4	11.2	11.2	11.2	11.1	11.5	11.3
(2016年比)	-	▲3.8%	▲5.7%	▲5.8%	▲5.8%	▲5.9%	▲3.0%	▲4.5%
推計延べDPC患者数	801,073	812,040	815,741	819,999	730,443	697,436	695,575	724,163
(2016年比)	-	+1.4%	+1.8%	+2.4%	▲8.8%	▲12.9%	▲13.2%	▲9.6%

出典：「DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」（厚生労働省）

* 推計延べDPC患者数：DPC症例件数に在院日数平均値をかけた数値

参考：都道府県別DPC参加病院の平均入院日数の推移（2016～2023年度）

全国および都道府県の平均入院日数の推移を示しています。

全ての都道府県で在院日数が短縮されており、今後も政策効果等の影響で短縮していくことが見込まれます。

No.	都道府県	2016年度	2018年度	2023年度	変化率		No.	都道府県	2016年度	2018年度	2023年度	変化率	
					2018対2016	2023対2016						2018対2016	2023対2016
-	全国計	12.43	12.05	11.72	▲3.0%	▲5.7%	24	三重県	12.58	12.10	11.78	▲3.8%	▲6.3%
1	北海道	12.49	12.10	11.67	▲3.1%	▲6.5%	25	滋賀県	12.51	12.01	11.53	▲4.0%	▲7.8%
2	青森県	13.82	13.23	13.26	▲4.3%	▲4.0%	26	京都府	12.16	11.71	11.22	▲3.7%	▲7.8%
3	岩手県	12.87	12.48	12.25	▲3.0%	▲4.8%	27	大阪府	12.22	11.77	11.41	▲3.7%	▲6.7%
4	宮城県	12.42	11.72	11.41	▲5.6%	▲8.2%	28	兵庫県	11.95	11.54	11.47	▲3.4%	▲4.0%
5	秋田県	12.89	12.53	12.15	▲2.8%	▲5.7%	29	奈良県	12.50	12.36	11.99	▲1.1%	▲4.1%
6	山形県	13.03	12.84	12.74	▲1.5%	▲2.2%	30	和歌山県	13.33	12.60	12.53	▲5.5%	▲6.0%
7	福島県	13.40	13.13	12.53	▲2.0%	▲6.5%	31	鳥取県	13.01	12.35	12.29	▲5.1%	▲5.5%
8	茨城県	12.45	12.21	11.78	▲2.0%	▲5.4%	32	島根県	12.67	12.00	11.66	▲5.3%	▲8.0%
9	栃木県	12.90	12.79	12.48	▲0.9%	▲3.3%	33	岡山県	12.15	12.03	11.50	▲1.0%	▲5.3%
10	群馬県	12.16	11.69	11.68	▲3.9%	▲3.9%	34	広島県	12.36	12.15	11.36	▲1.7%	▲8.1%
11	埼玉県	12.49	12.19	11.98	▲2.4%	▲4.1%	35	山口県	13.50	12.99	12.73	▲3.8%	▲5.7%
12	千葉県	12.19	12.01	12.07	▲1.5%	▲1.0%	36	徳島県	12.08	11.76	11.77	▲2.6%	▲2.6%
13	東京都	11.94	11.58	11.16	▲3.0%	▲6.5%	37	香川県	12.79	12.41	12.06	▲2.9%	▲5.7%
14	神奈川県	11.70	11.25	11.25	▲3.8%	▲3.9%	38	愛媛県	13.01	12.69	12.03	▲2.5%	▲7.6%
15	新潟県	13.08	12.83	12.45	▲1.9%	▲4.8%	39	高知県	13.38	13.17	11.99	▲1.6%	▲10.4%
16	富山県	12.31	12.03	11.70	▲2.3%	▲4.9%	40	福岡県	12.79	12.52	12.13	▲2.1%	▲5.2%
17	石川県	12.91	12.50	11.65	▲3.2%	▲9.8%	41	佐賀県	13.61	13.12	12.71	▲3.6%	▲6.6%
18	福井県	12.43	11.82	11.53	▲4.9%	▲7.2%	42	長崎県	13.19	12.47	12.07	▲5.5%	▲8.5%
19	山梨県	11.88	11.61	11.76	▲2.3%	▲1.0%	43	熊本県	12.82	12.33	12.05	▲3.8%	▲6.0%
20	長野県	12.22	11.97	11.67	▲2.1%	▲4.5%	44	大分県	13.58	13.00	12.12	▲4.2%	▲10.7%
21	岐阜県	12.25	12.09	11.74	▲1.3%	▲4.2%	45	宮崎県	13.43	12.74	11.93	▲5.1%	▲11.2%
22	静岡県	12.58	12.32	11.96	▲2.0%	▲4.9%	46	鹿児島県	13.17	12.92	12.13	▲1.8%	▲7.9%
23	愛知県	12.21	11.74	11.39	▲3.8%	▲6.7%	47	沖縄県	12.35	12.07	11.90	▲2.3%	▲3.6%

参考：南河内医療圏 | DPC参加病院の平均入院日数の推移

当該医療圏のMDC別の平均入院期間の推移を示しています。

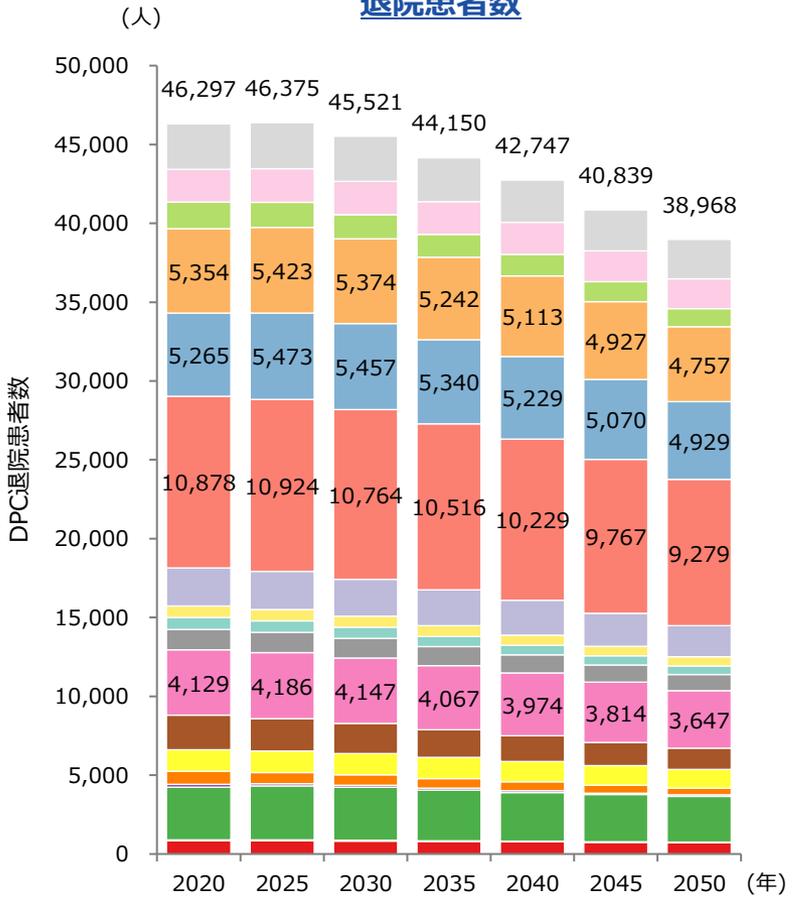
MDC名称	2016年度	2018年度	2023年度	変化率	
				2018対2016	2023対2016
01_神経系	15.47	14.91	14.72	▲3.6%	▲4.9%
02_眼科系	4.65	3.86	3.39	▲16.9%	▲27.1%
03_耳鼻咽喉系	7.95	7.74	8.59	▲2.6%	8.1%
04_呼吸器系	13.34	14.43	14.59	8.2%	9.4%
05_循環器系	12.60	11.81	12.24	▲6.3%	▲2.8%
06_消化器系	10.20	9.39	9.62	▲8.0%	▲5.7%
07_筋骨格系	16.04	15.80	16.14	▲1.5%	0.6%
08_皮膚・皮下組織	10.89	10.44	9.59	▲4.2%	▲12.0%
09_乳房	8.90	8.48	8.24	▲4.7%	▲7.4%
10_内分泌・栄養・代謝	14.95	13.00	12.55	▲13.0%	▲16.1%
11_腎・尿路系	10.43	10.51	10.24	0.8%	▲1.8%
12_女性疾患	7.28	6.90	6.41	▲5.2%	▲11.9%
13_血液系	24.39	20.14	18.19	▲17.4%	▲25.4%
14_新生児	9.95	8.87	8.93	▲10.9%	▲10.3%
15_小児疾患	6.61	8.20	5.07	24.1%	▲23.2%
16_外傷・熱傷・中毒	13.43	13.13	13.79	▲2.2%	2.7%
17_精神疾患	22.18	11.92	10.91	▲46.2%	▲50.8%
18_その他	17.03	18.60	16.85	9.2%	▲1.0%
全体	11.54	11.12	11.22	▲3.7%	▲2.8%

南河内医療圏 | MDC別DPCの退院患者数の推計

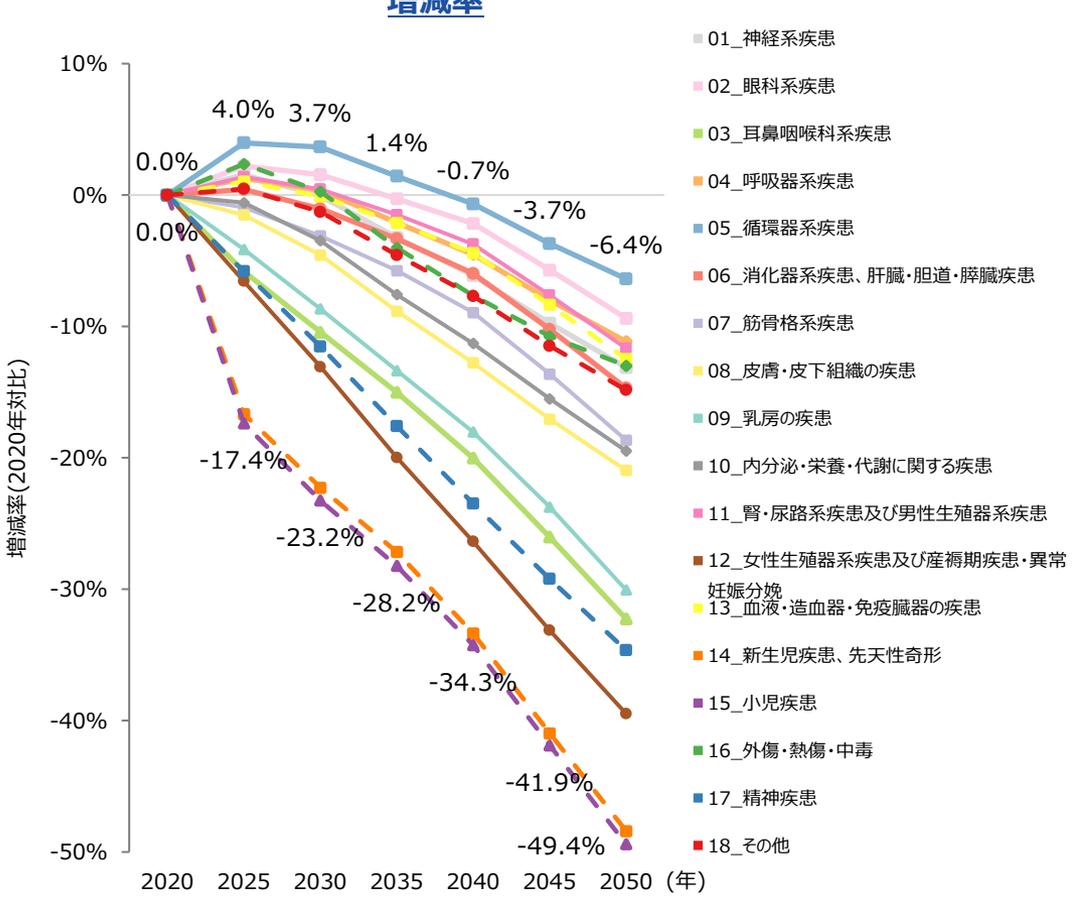
疾患別のDPC退院患者数の将来推計を示しています。

多くの地域では高齢者に多い疾患は増加傾向にあり、女性疾患や小児周産期にかかる疾患は大幅に減少する傾向にあります。

退院患者数



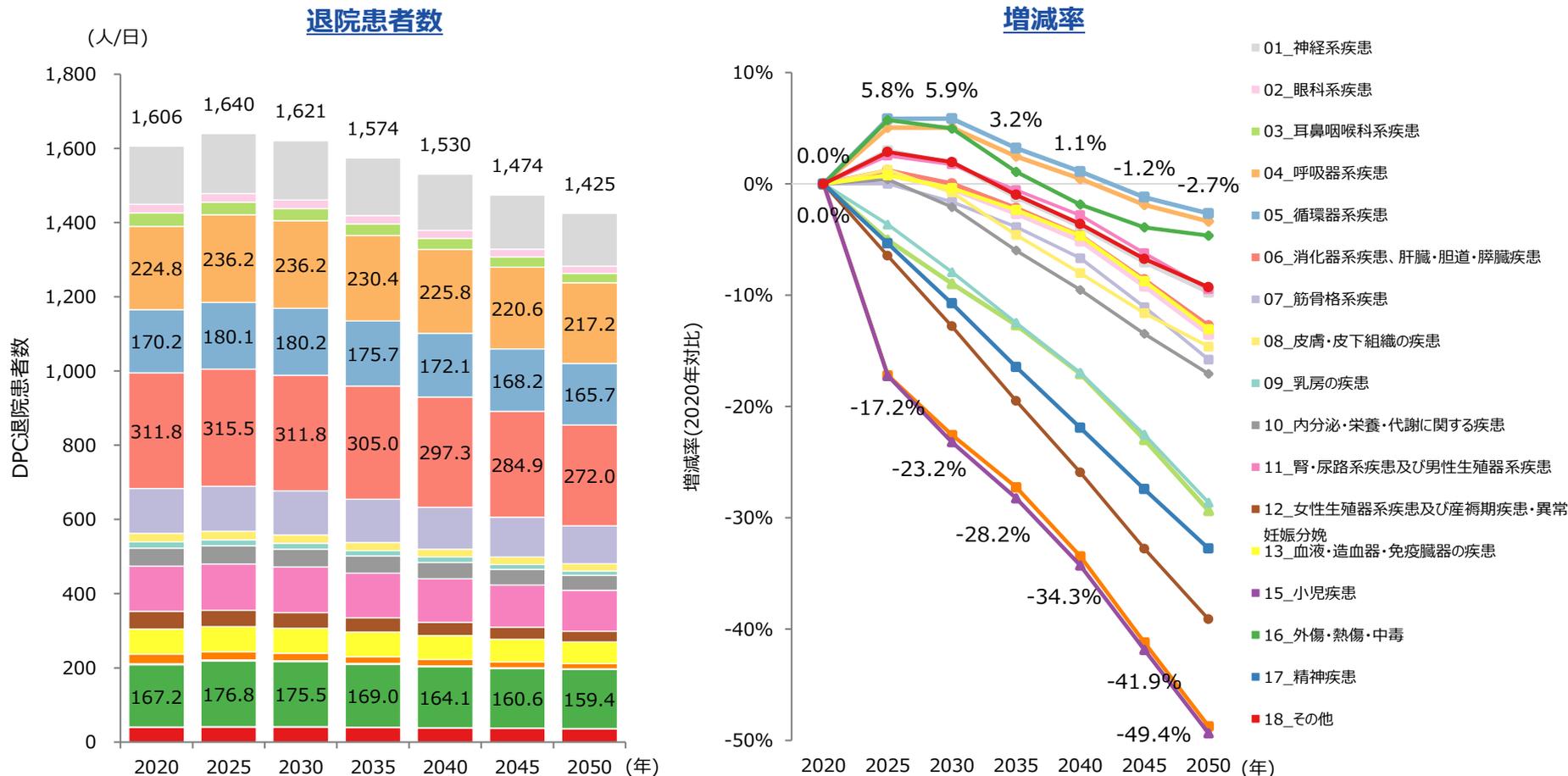
増減率



出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」（厚生労働省）を用いてDPCコード、年齢別の発生率を計算。その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計。

南河内医療圏 | MDC別DPCの1日平均患者数の推計

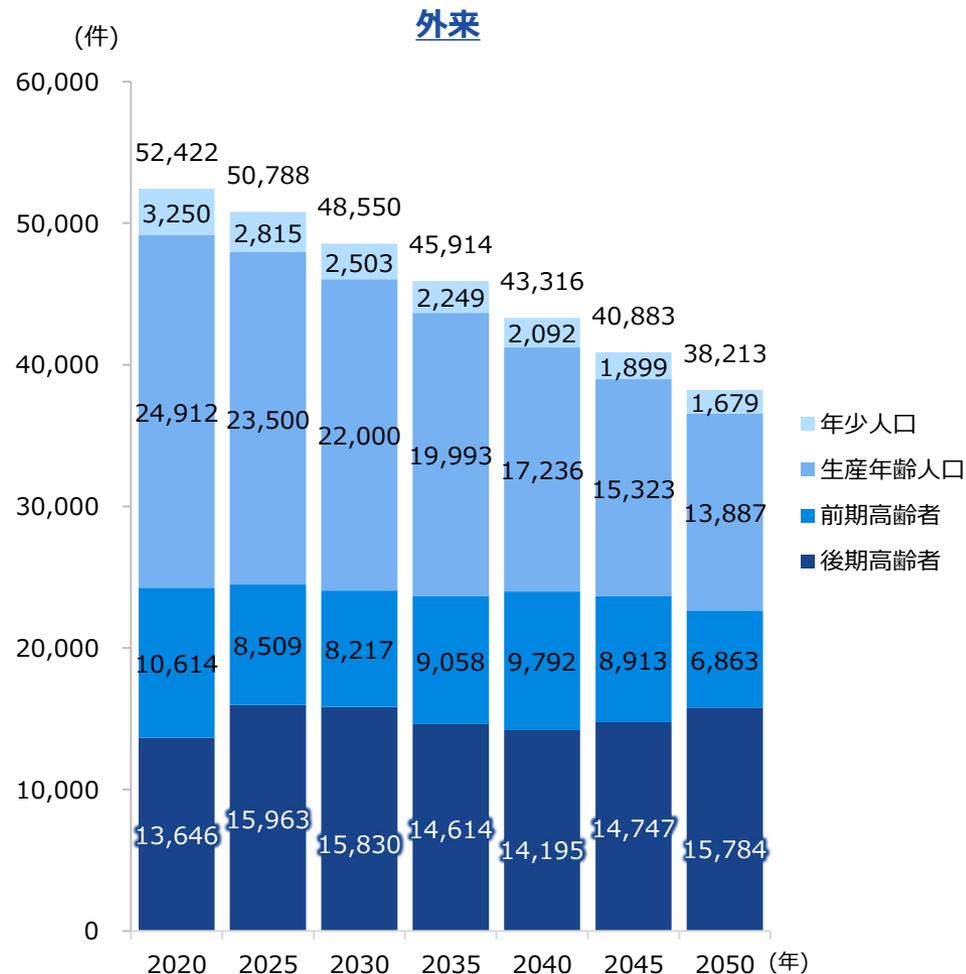
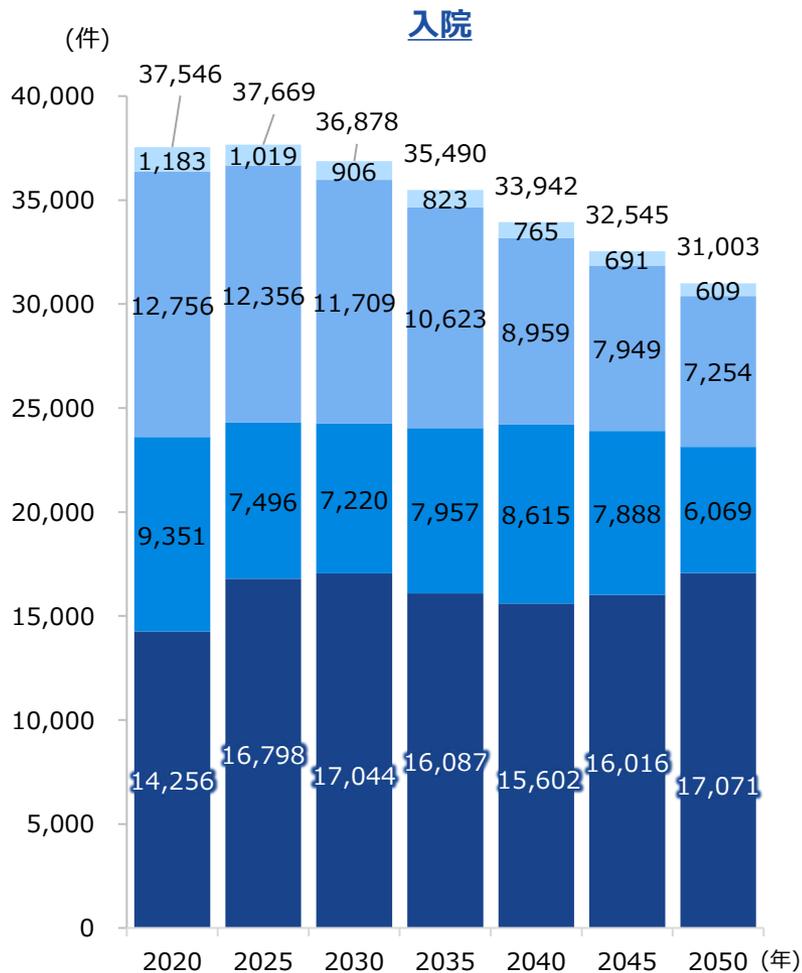
疾患別のDPCの1日平均患者数の将来推計を示しています。



出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」（厚生労働省）を用いてDPCコード、年齢別の発生率を計算。その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計。1日平均患者数は各DPCコードのDPC別平均入院日数をかけた後に365日で除して試算。

南河内医療圏 | 手術件数の推計

年齢区分別の入院・外来の手術件数の将来推計を示しています。

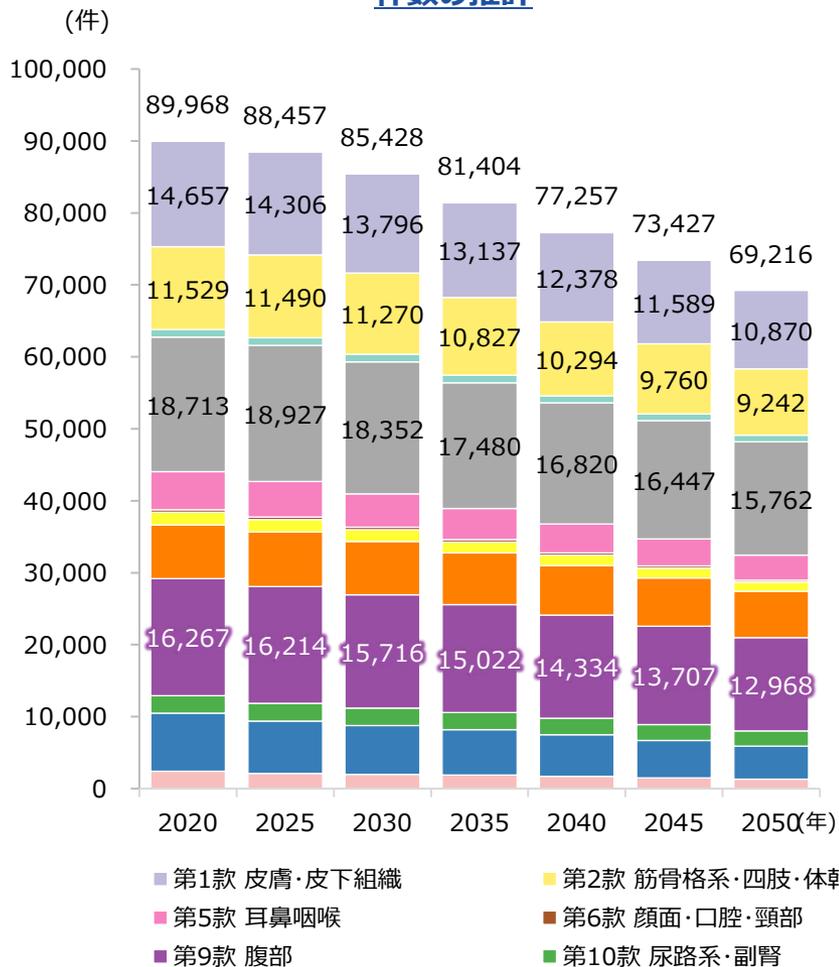


出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および第10回NDBオープンデータ（厚生労働省）
 ：2023年4月～2024年3月診療分のレセプトデータを用いて全国の性年齢別の発生率を計算。
 その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

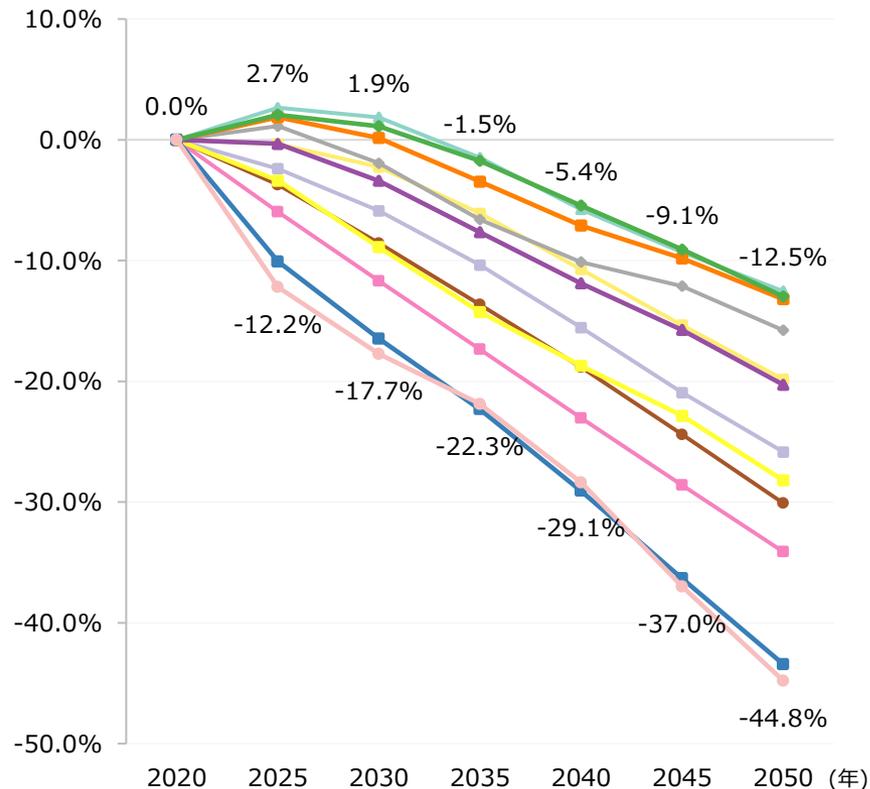
南河内医療圏 | 部位別の手術件数

部位別の手術件数の将来推計を示しています。

件数の推計



増減率

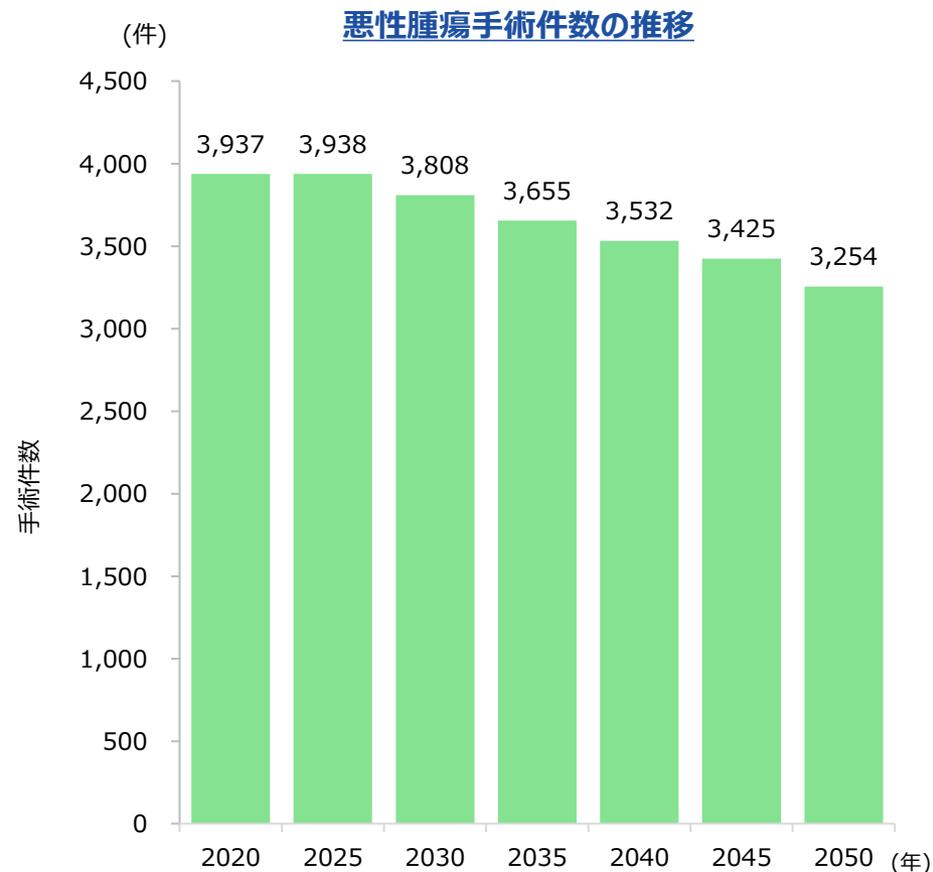
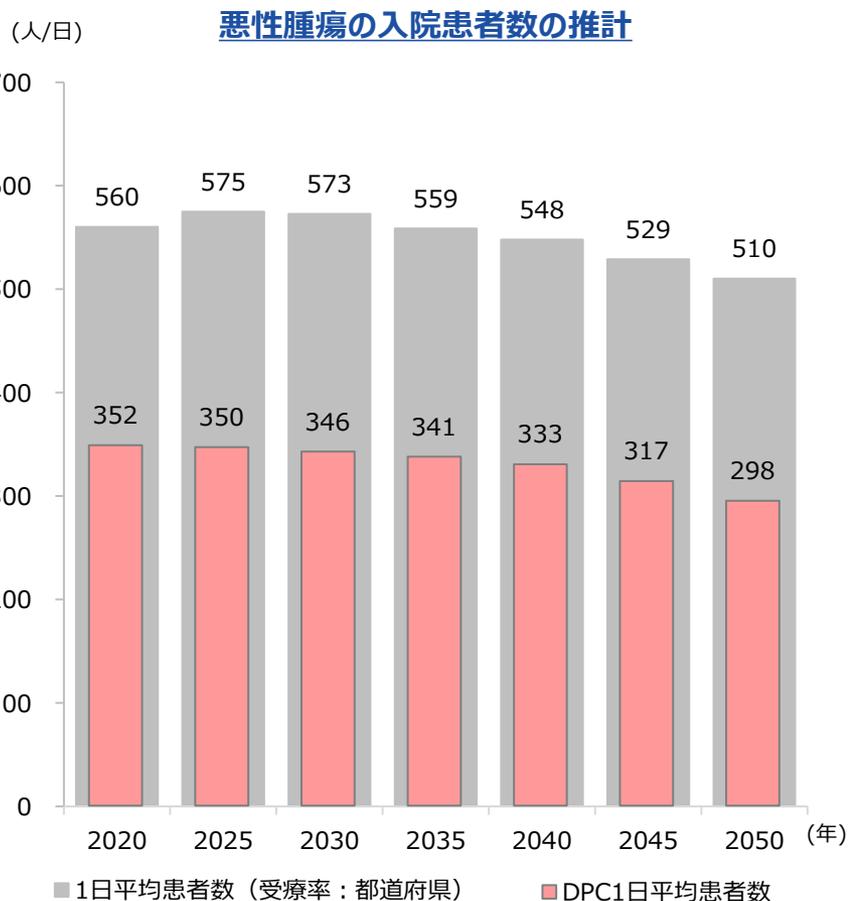


出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および第10回NDBオープンデータ（厚生労働省）
 : 2023年4月～2024年3月診療分のレセプトデータを用いて全国の性年齢別の発生率を計算。
 その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

南河内医療圏 | 疾患別患者数の推計：悪性腫瘍

悪性腫瘍の1日平均患者数、DPCの1日平均患者数および手術件数の将来推計を示しています。

悪性腫瘍は手術療法中心の医療から放射線療法・化学療法を含めた集学的治療へシフトしていることや、低侵襲治療の発展から、推計よりも減少する可能性があります。



出典：「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」(国立社会保障・人口問題研究所) と以下の発生率を用いて推計

1日平均患者数：「令和5年患者調査」(厚生労働省)

DPC1日平均患者数：「人口推計(2023年10月1日現在)」(総務省統計局) および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」(厚生労働省)

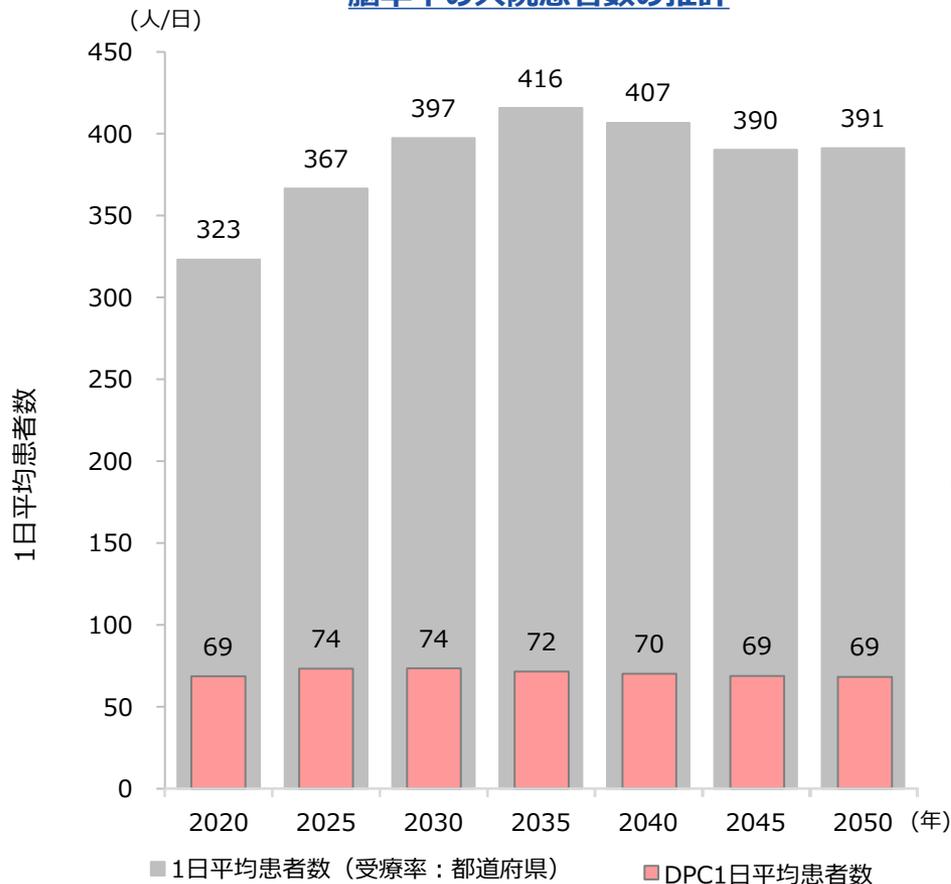
手術件数：「人口推計(2023年10月1日現在)」(総務省統計局) および第10回NDBオープンデータ(厚生労働省)

南河内医療圏 | 疾患別患者数の推計：脳卒中

脳卒中の1日平均患者数、DPCの1日平均患者数および手術件数の将来推計を示しています。

脳卒中は急性期を脱した回復期および慢性期の患者が多く、多くの地域では患者数が増加傾向にありますが、DPC1日平均患者数および手術件数の伸びは限定的となっています。

脳卒中の入院患者数の推計



脳卒中手術件数の推移



出典：「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」(国立社会保障・人口問題研究所)と以下の発生率を用いて推計

1日平均患者数：「令和5年患者調査」(厚生労働省)

DPC1日平均患者数：「人口推計(2023年10月1日現在)」(総務省統計局)および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」(厚生労働省)

手術件数：「人口推計(2023年10月1日現在)」(総務省統計局)および第10回NDBオープンデータ(厚生労働省)

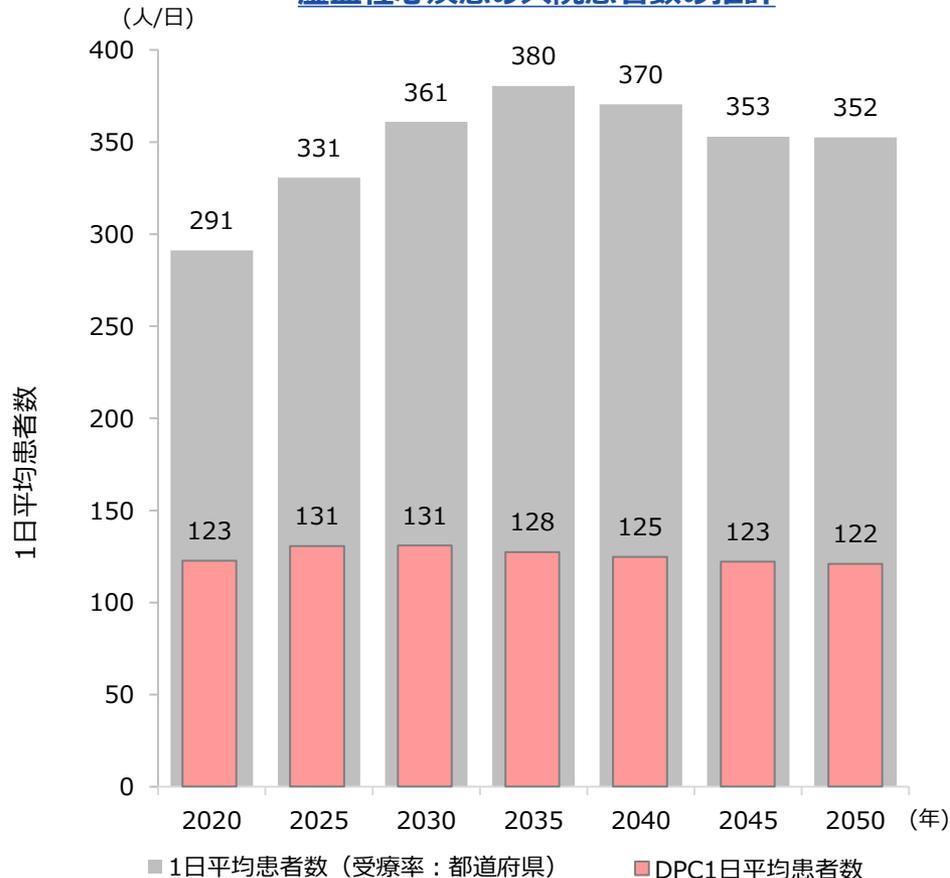
2026 © NIHONKEIEI Co.,Ltd.

南河内医療圏 | 疾患別患者数の推計：虚血性心疾患等

虚血性心疾患の1日平均患者数、DPCの1日平均患者数および手術件数の将来推計を示しています。

虚血性心疾患は急性期を脱した回復期および慢性期の患者が多く、多くの地域では患者数が増加傾向にあります。DPC1日平均患者数および手術件数の伸びは限定的となっています。

虚血性心疾患の入院患者数の推計



心臓カテーテル手術等の手術件数の推移



出典：「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」(国立社会保障・人口問題研究所)と以下の発生率を用いて推計

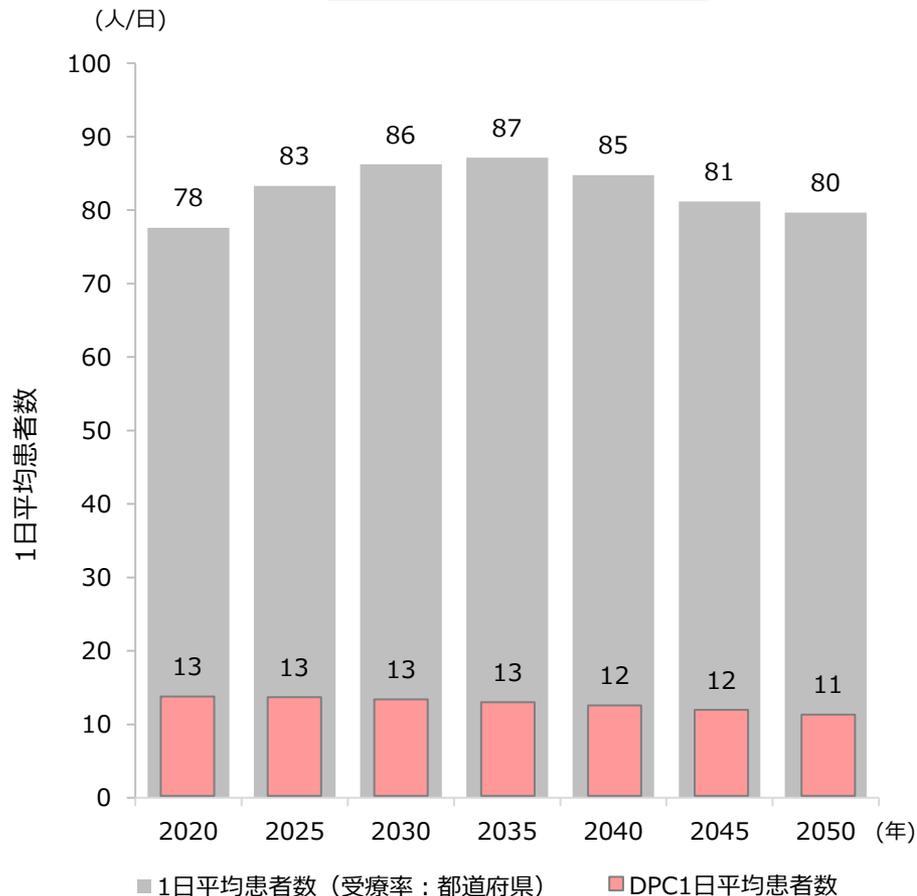
1日平均患者数：「令和5年患者調査」(厚生労働省)

DPC1日平均患者数：「人口推計(2023年10月1日現在)」(総務省統計局)および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」(厚生労働省)

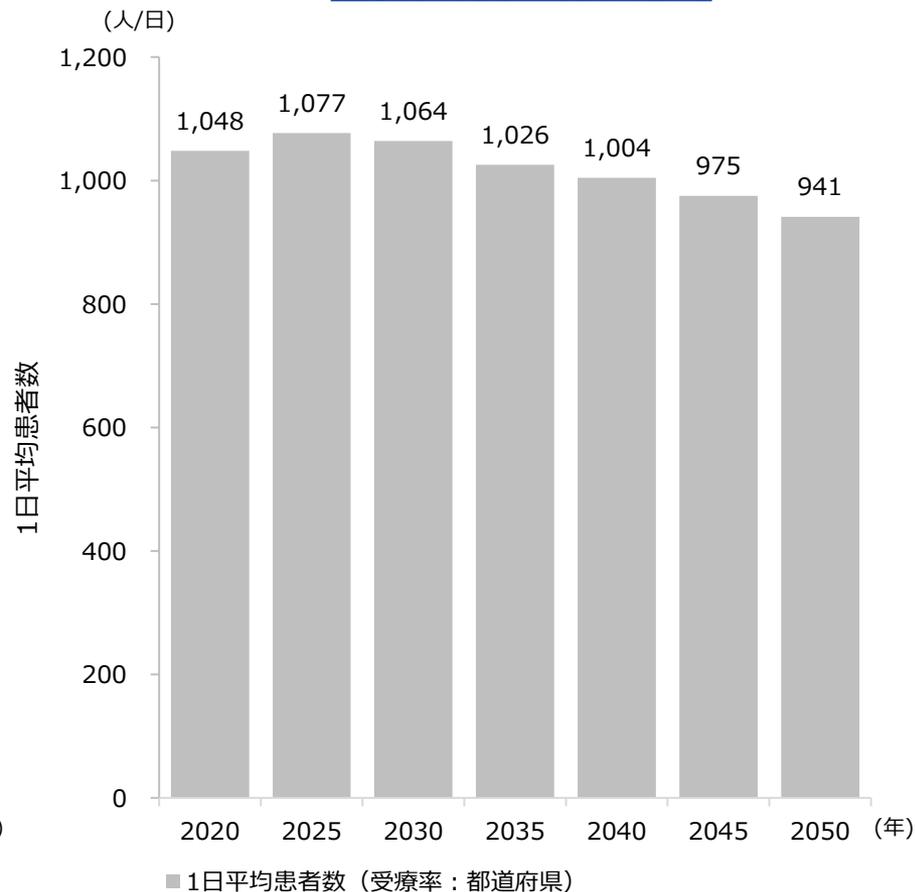
手術件数：「人口推計(2023年10月1日現在)」(総務省統計局)および第10回NDBオープンデータ(厚生労働省)

南河内医療圏 | 疾患別患者数の推計：糖尿病

糖尿病の入院患者数の推計



糖尿病の外来患者数の推計



出典：「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」(国立社会保障・人口問題研究所) と以下の発生率を用いて推計

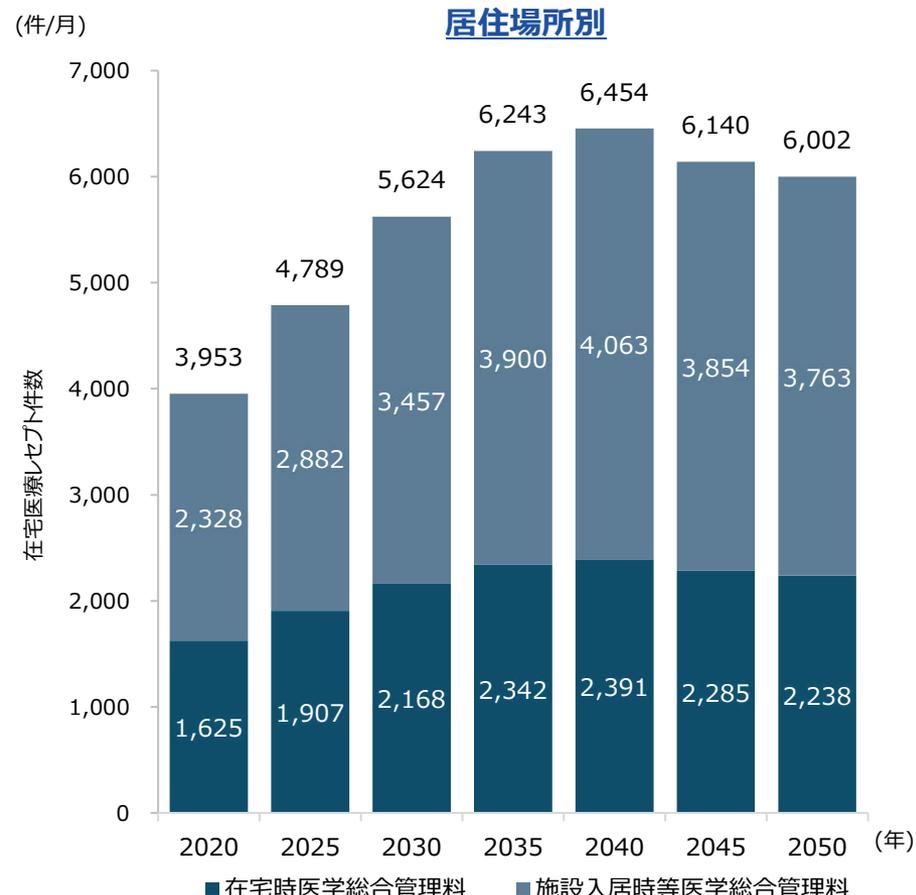
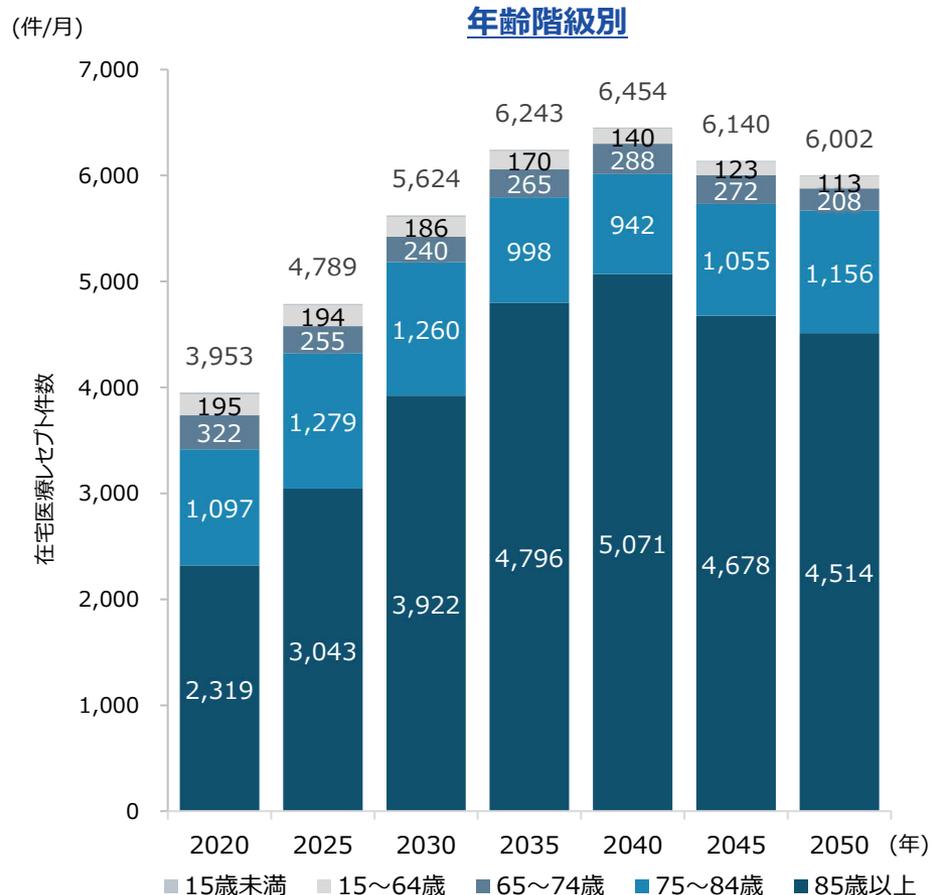
1日平均患者数：「令和5年患者調査」(厚生労働省)

DPC1日平均患者数：「人口推計(2023年10月1日現在)」(総務省統計局) および「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」(厚生労働省)

南河内医療圏 | 在宅医療患者数の推計

全国の在宅時医学総合管理料および施設入居時医学総合管理料の発生率を用いた将来推計を示しています。

月に1回算定可能な管理料であり、月当たりの患者数の増減傾向が確認できます。



出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および第10回NDBオープンデータ（厚生労働省）
 ：2023年4月～2024年3月診療分のレセプトデータを用いて全国の性年齢別の発生率を計算。
 その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

南河内医療圏 | 在宅医療訪問回数および増減率

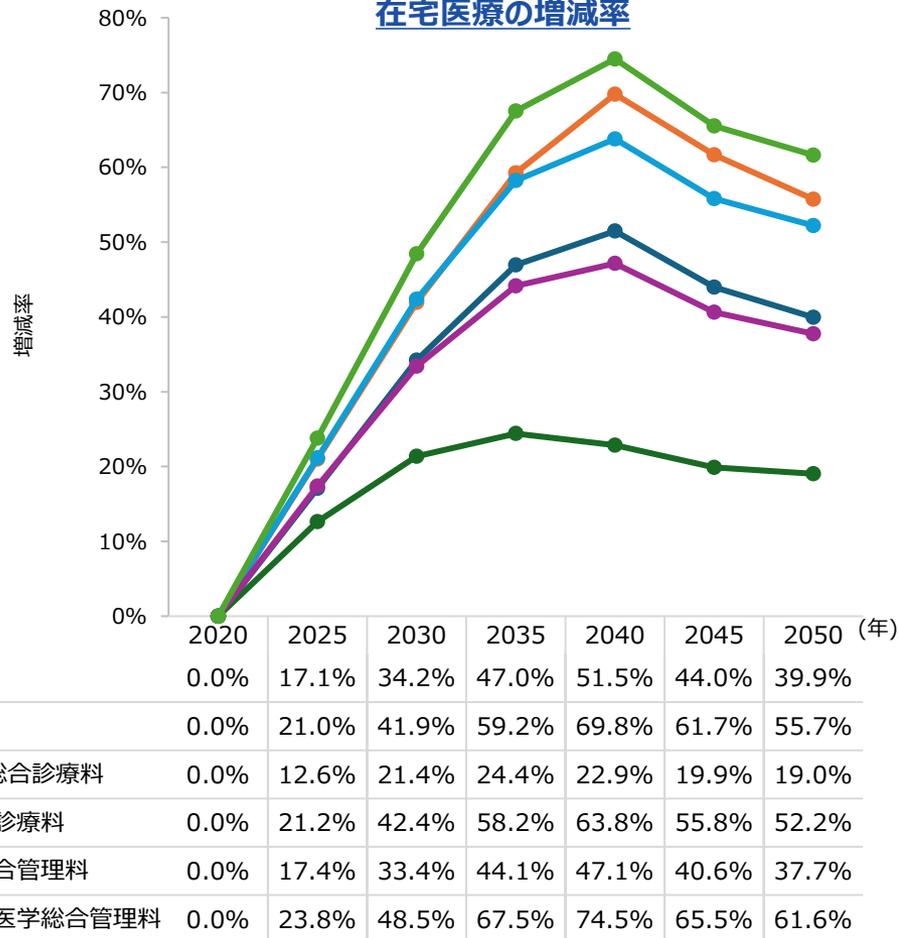
全国の発生率を用いた在宅医療の主な診療行為の算定回数の将来推計を示しています。

多くの地域では2040年以降まで大幅な増加が見込まれており、在宅医療の体制整備が求められます。

在宅医療訪問回数の推計



在宅医療の増減率



看取り件数の推計

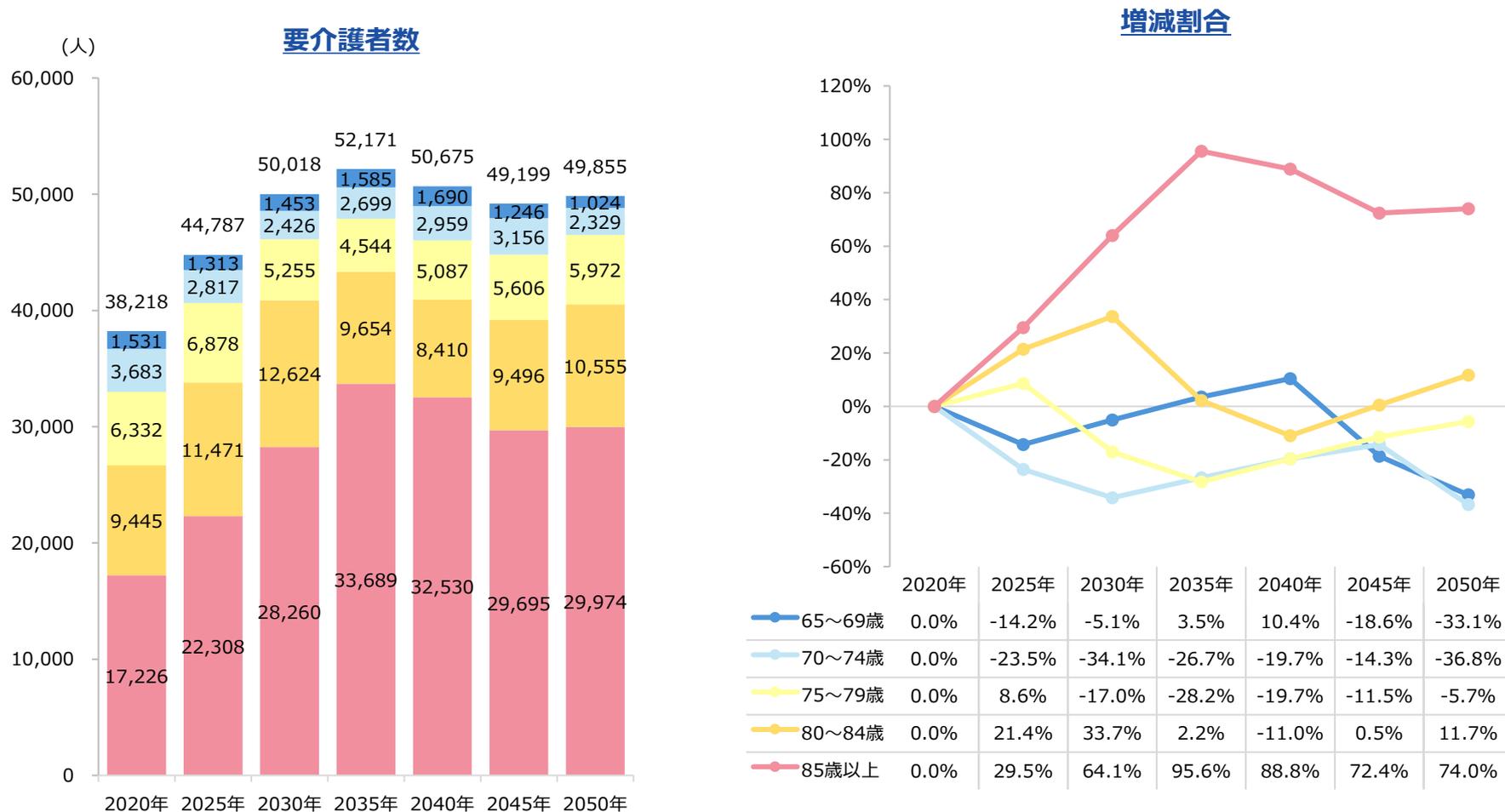


出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および第10回NDBオープンデータ（厚生労働省）
 : 2023年4月～2024年3月診療分のレセプトデータを用いて全国の性年齢別の発生率を計算。
 その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

南河内医療圏 | 年齢別の要介護者の推計

都道府県の発生率を用いた要介護認定者数の将来推計を示しています。(介護保険事業計画の推計とは計算方法が異なります)

多くの地域では85歳以上の人口増加に伴い、要介護者数の増加が見込まれています。

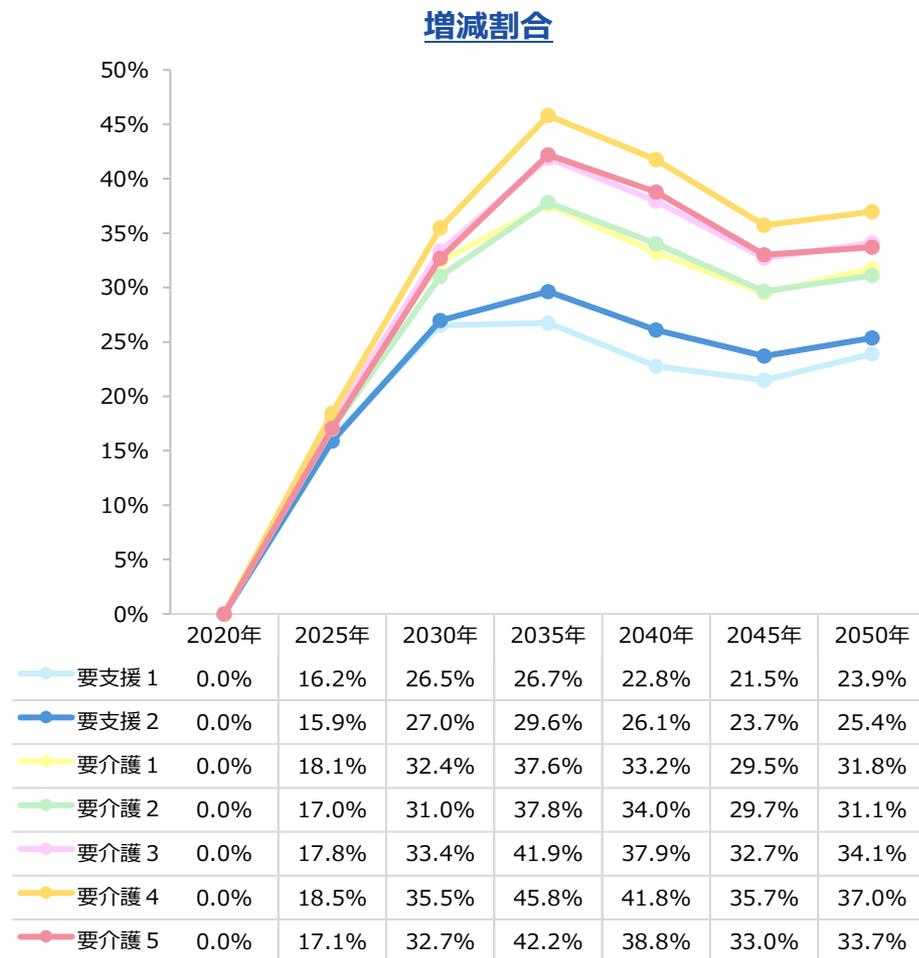
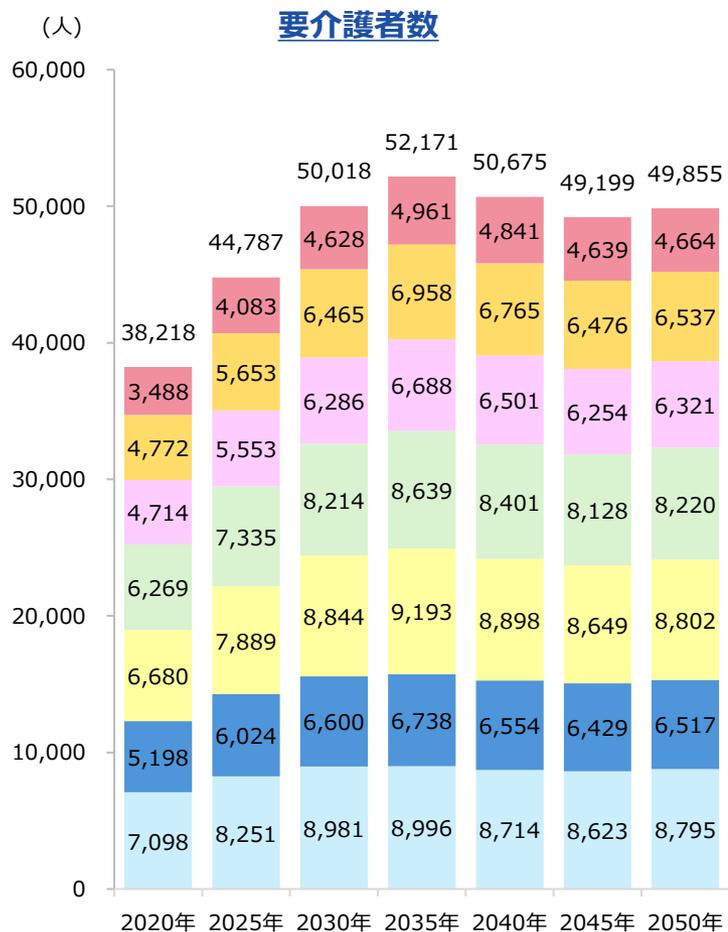


出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および「令和5年度介護保険事業状況報告（年報）表04-1<都道府県別>要介護（要支援）認定者数」（厚労省）を用いて発生率を計算。その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

南河内医療圏 | 要介護度別の要介護者の推計

都道府県の発生率を用いた要介護度別の要介護認定者数の将来推計を示しています。（介護保険事業計画の推計とは計算方法が異なります）

要介護度3以上の増加は、介護者および介護事業所の従業員への負担や人材確保の難化を招く可能性があります。



出典：「人口推計（2023年10月1日現在）」（総務省統計局）および

「令和5年度介護保険事業状況報告（年報）表04-1<都道府県別>要介護（要支援）認定者数」（厚労省）を用いて発生率を計算。

その発生率と「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」（国立社会保障・人口問題研究所）を用いて推計

4/ 医療機関のパフォーマンスおよび連携状況

診療実績と役割分担の状況から、地域の医療機関のポジショニングを整理する。

救急車受入数

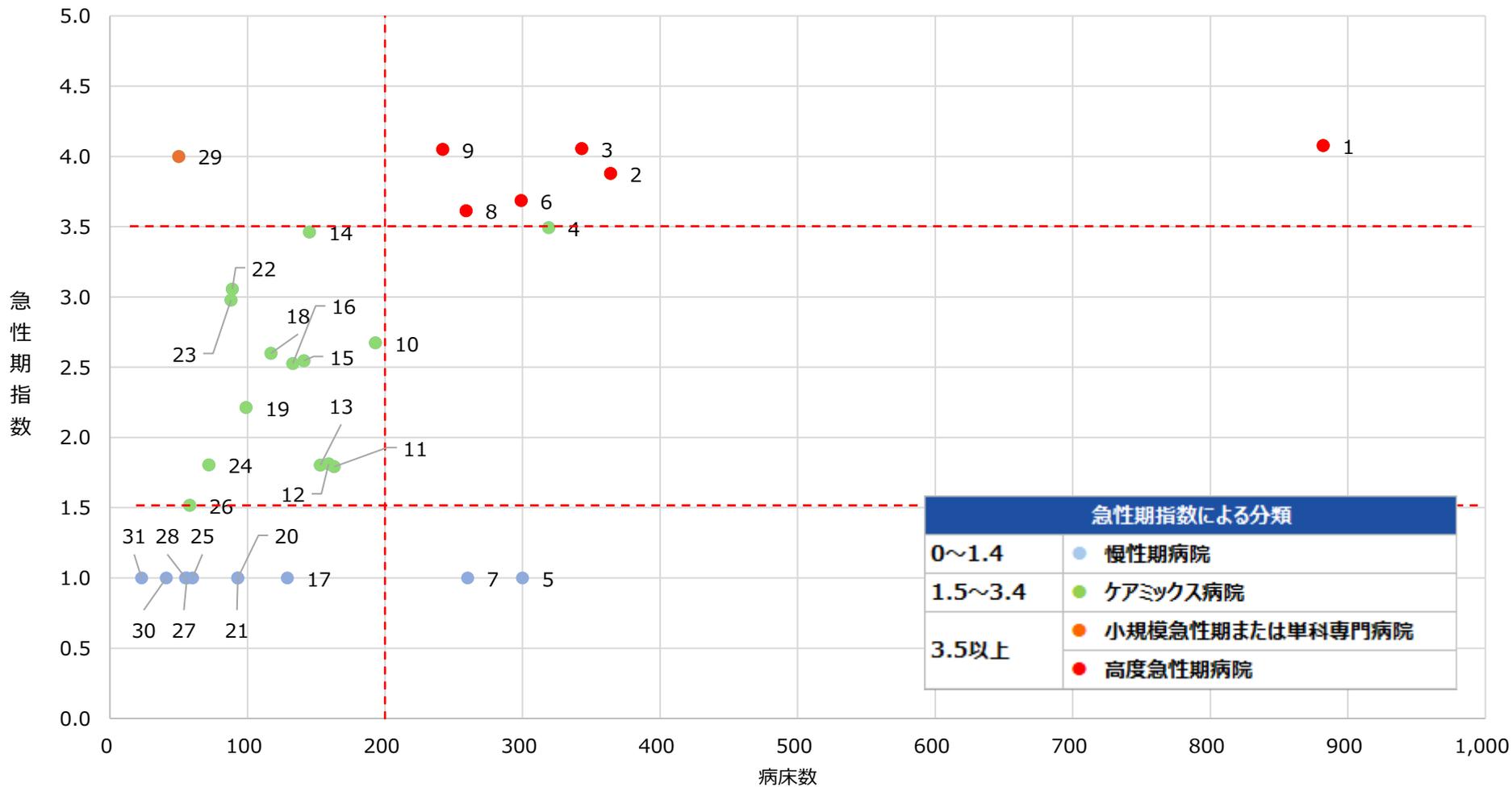
手術件数

DPC症例数

各医療機関の診療実績をもとに、地域の医療機能がどこに集中しているかを把握する。機能分化や医療機関間の連携状況を可視化し、地域全体で質の高い医療を提供するための課題を整理する。

南河内医療圏 | ポジショニングマップ

下図は各病院の稼働病床数と急性期指数をプロットし、類型を行っています。（新たな地域医療構想における医療機関機能とは異なります）
 地域内の急性期病院の競争状況を踏まえて、各医療機関の役割を検討する必要があります。



※休棟中等を除く
 ※図表中の数字は、医療機関一覧表のNo.と対応しています

南河内医療圏 | ポジショニングマップ

No.	医療機関略称	稼働 病床数	急性期 指数
1	近畿大学病院	882	4.1
2	NHO大阪南医療センター	364	3.9
3	大阪はびきの医療センター	343	4.1
4	PL病院	319	3.5
5	青葉丘病院	300	1.0
6	城山病院	299	3.7
7	老寿やすらぎ病院	260	1.0
8	済生会 富田林病院	259	3.6
9	松原徳洲会病院	242	4.0
10	檉本病院	193	2.7
11	高村病院	163	1.8
12	医仁会 藤本病院	159	1.8
13	天仁病院	153	1.8
14	寺元記念病院	145	3.5
15	阪南中央病院	141	2.5
16	さくら会病院	133	2.5
17	てらもと医療リハビリ病院	129	1.0
18	青山病院	117	2.6
19	南河内おか病院	99	2.2
20	辻本病院	93	1.0
21	滝谷病院	93	1.0
22	明治橋病院	89	3.1
23	運動器ケア しまだ病院	88	3.0
24	寺下病院	72	1.8
25	青山藤ヶ丘病院	60	1.0

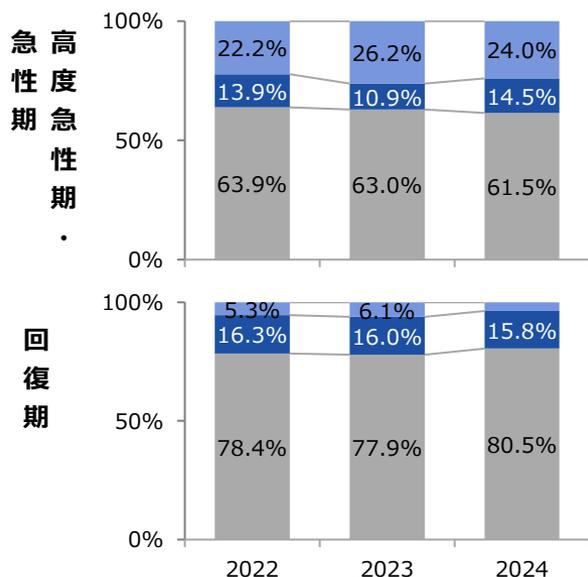
No.	医療機関略称	稼働 病床数	急性期 指数
26	金剛病院	58	1.5
27	青山第二病院	56	1.0
28	すくよか	55	1.0
29	青山脳神経外科病院	50	4.0
30	澤田病院	41	1.0
31	富田林田中病院	23	1.0

南河内医療圏 | 入退棟経路の傾向

当該医療圏の機能別の入院経路と退棟先の構成割合を示しています。

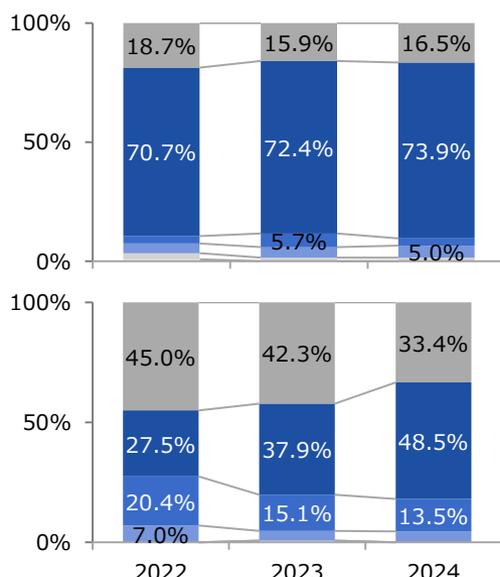
「他の病院、診療所へ転院」の割合等から、地域の機能分化の状況を確認できます。

入棟時の状況の変化



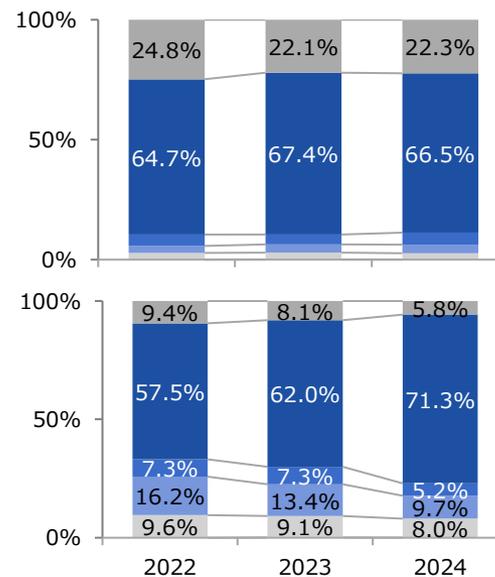
- 救急医療入院の予定外入院患者
- 救急医療入院以外の予定外入院患者
- 予定入院の患者・院内の他病棟からの転棟患者

入棟経路の変化



- 院内の他病棟からの転棟
- 家庭からの入院
- 他の病院、診療所からの転院
- 介護・福祉施設、介護医療院からの入院
- 院内の出生
- その他入院経路

退棟先の変化



- 院内の他病棟へ転棟
- 家庭へ退院
- 他の病院、診療所へ転院
- 介護老人保健・福祉施設、介護医療院、有料老人ホーム等へ入所
- 終了（死亡退院等）
- その他

南河内医療圏 | 救急車受入を行う病院の概要①

救急を受け入れる病院の指定状況や職員数、医療機器の台数の比較を示しています。

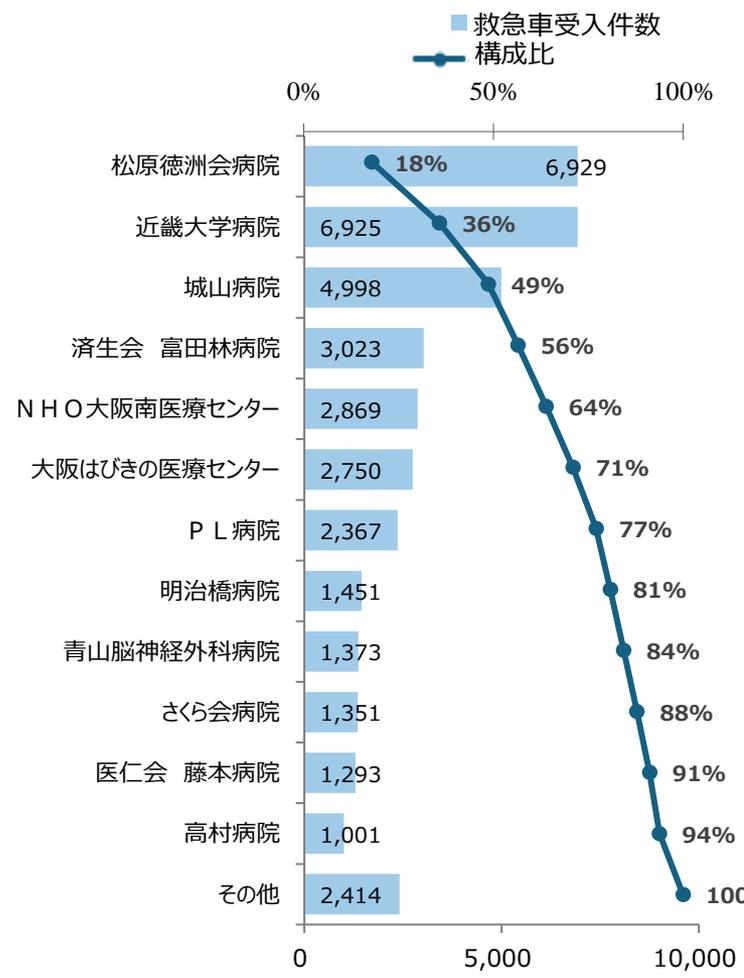
救急搬送に対応できる職員数（特に医師・看護師）を確保できているか確認する必要があります。

No.	医療機関名	市区町村	設置主体	救急種別	医師・看護師数				医療機器の台数		
					医師数	うち、常勤	常勤割合	看護師数	CT	MRI	その他
1	近畿大学病院	大阪狭山市	その他	三次救急	596.2	575	96.4%	1074.5	5	4	15
2	NHO大阪南医療センター	河内長野市	国立病院	二次救急	121.9	94	77.1%	359.2	3	2	4
3	PL病院	富田林市	医療法人	二次救急	95.5	83	86.9%	332.8	2	2	4
4	大阪はびきの医療センター	羽曳野市	公的医療機関	二次救急	91.8	77	83.9%	438.5	2	2	4
5	城山病院	羽曳野市	医療法人	二次救急	81.0	61	75.3%	317.7	2	2	9
6	済生会 富田林病院	富田林市	公的医療機関	二次救急	62.4	52	83.3%	364.7	2	1	2
7	松原徳洲会病院	松原市	医療法人	二次救急	53.5	34	63.6%	286.4	2	1	4
8	阪南中央病院	松原市	医療法人	二次救急	45.4	38	83.7%	170.5	1	1	2
9	運動器ケア しまだ病院	羽曳野市	医療法人	二次救急	26.7	24	89.9%	74.9	1	2	0
10	寺元記念病院	河内長野市	医療法人	二次救急	26.3	21	79.8%	76.8	1	1	2
11	明治橋病院	松原市	医療法人	二次救急	24.7	20	81.0%	101.8	1	1	1
12	樫本病院	大阪狭山市	医療法人	二次救急	24.2	18	74.4%	120.2	1	1	1
13	さくら会病院	大阪狭山市	医療法人	二次救急	22.7	17	74.9%	99.0	1	1	1
14	高村病院	羽曳野市	医療法人	二次救急	15.2	9	59.2%	90.7	1	1	0
15	医仁会 藤本病院	羽曳野市	医療法人	二次救急	11.1	8	72.1%	71.1	1	1	0
16	南河内おか病院	河内長野市	医療法人	二次救急	9.3	6	64.5%	54.5	1	1	0
17	辻本病院	大阪狭山市	医療法人	二次救急	7.6	5	65.8%	51.0	1	0	0
18	青山脳神経外科病院	藤井寺市	医療法人	二次救急	7.0	7	100.0%	34.3	1	2	1

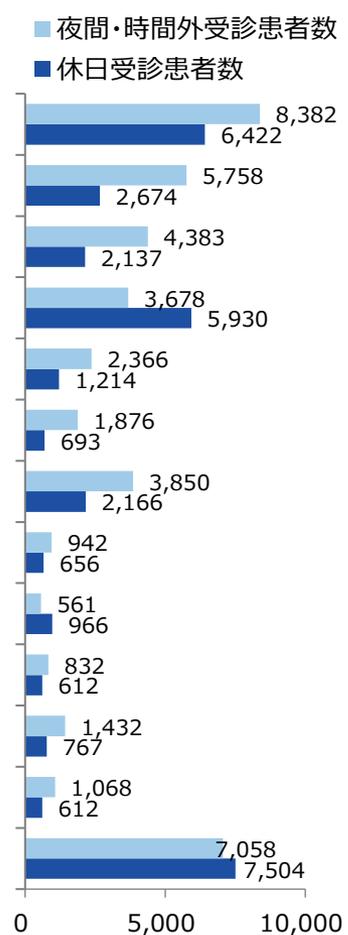
病院別の救急車受入件数および夜間・時間外・休日の患者延べ数

当該医療圏内における医療機関の救急車受入件数等の指標の比較を示しています。
 医師不足や過度な負担となっていないか、持続可能性の観点で確認する必要があります。

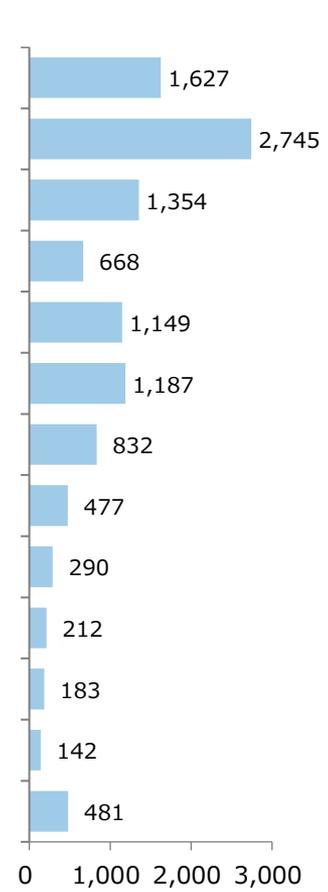
救急車受入件数



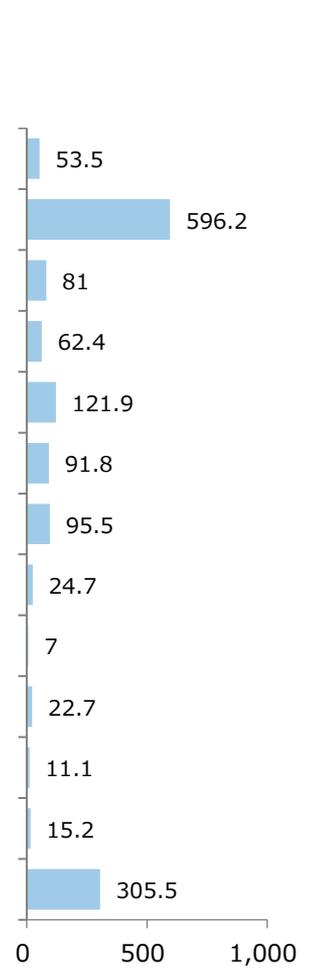
夜間・時間外・休日の患者延べ数



【参考】救急車搬送による入院件数 (DPC退院患者調査)



【参考】医師数



出典：「令和6年度病床機能報告」(厚生労働省)
 「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」(厚生労働省)

南河内区域と類似区域における救急医療の提供状況

人口、地域区分、大学病院の有無を条件とした類似区域を3つ抽出し、主要な指標を比較しています。
 他区域と比較して、救急車受入の病院が分散していないか、また、職員1人あたりの患者数が大きくないか確認し、効率的、かつ、持続可能な救急医療が行えているか確認します。

区域名	区域の基礎情報				救急車受入を行う病院						主な診療実績 (区域合計)			一般病床 流入率			
	人口 (人)	面積 (km ²)	地域区分	大学 病院	病院数	救急車 件数	時間外 患者数	職員数		医師あたり		看護職員あたり			手術 総数	全麻 手術 件数	分娩 件数
大阪府 南河内	592,506	290	大都市型	有	20	38,744	74,539	1,489	4,954	26.0	50.1	7.8	15.0	36,257	16,400	2,347	3.4%
千葉県 千葉	974,951	272	大都市型	有	27	52,598	68,543	2,021	7,011	26.0	33.9	7.5	9.8	45,408	20,742	1,334	13.4%
神奈川県 相模原	725,493	329	大都市型	有	15	34,142	39,736	1,433	4,419	23.8	27.7	7.7	9.0	35,369	16,303	2,547	1.6%
愛知県 尾張東部	475,816	230	大都市型	有	7	33,367	67,662	1,558	4,182	21.4	43.4	8.0	16.2	38,023	14,766	1,276	26.1%

地域区分は人口と人口密度を用いた石川ベンジャミン光一氏の分類方法により作成
<https://public.tableau.com/app/profile/kbishikawa/viz/MeshBKH2022acuteNmd/map>

出典：「令和6年度病床機能報告」(厚生労働省)
 「地域医療構想 地域別の病床機能等の見える化(令和6年度)」(厚生労働省)
 「令和5年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」」(厚生労働省)
 「厚生労働省 令和7年告示第166号」
 「令和2年国勢調査」(総務省統計局)
 「都道府県・市区町村のすがた(社会・人口統計体系)」(総務省統計局) 2020年度

地域区分類型
 大都市型：人口が100万人以上(又は)人口密度が2,000人/km²以上
 地方都市A型：人口が20万人以上
 地方都市B型：人口が10~20万人(かつ)人口密度が200人/km²以上
 過疎地域A型：人口が10~20万人(かつ)人口密度が200人/km²未満
 過疎地域B型：人口が5~10万人
 過疎地域C型：人口が5万人未満

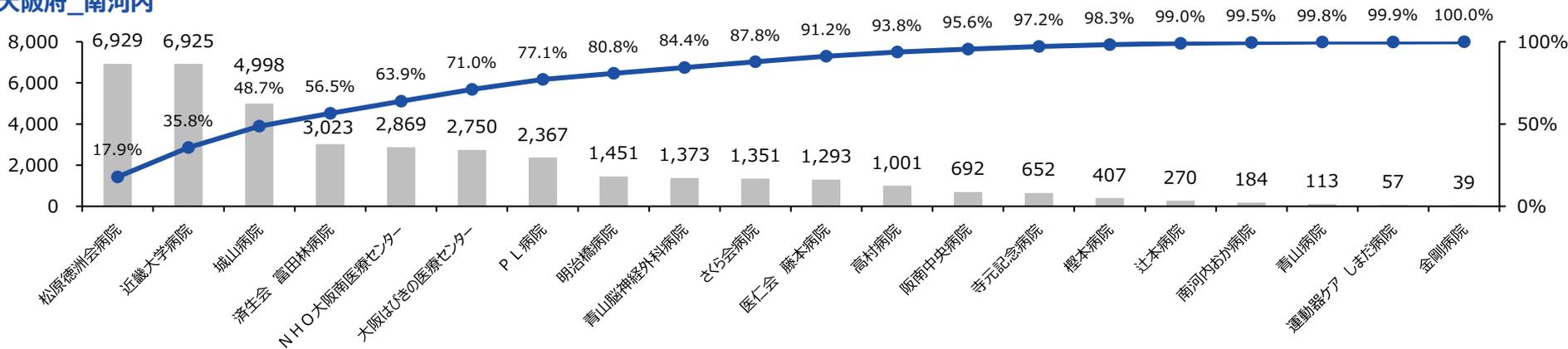
救急医療の提供状況の類似区域との比較【救急車受入件数①】

医療機関別の救急車受入件数の累積構成比を他の区域と比較しています。

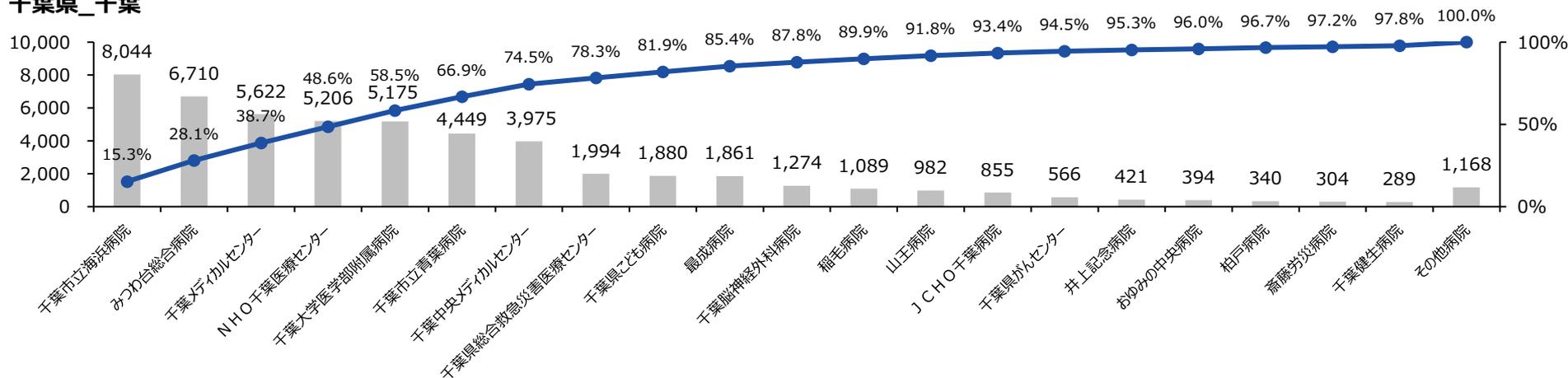
最も受入の多い医療機関の受入件数や、受入件数のバラつきを確認し、地域の特徴を把握します。

■ 救急車受入件数 ● 累積構成比

大阪府_南河内

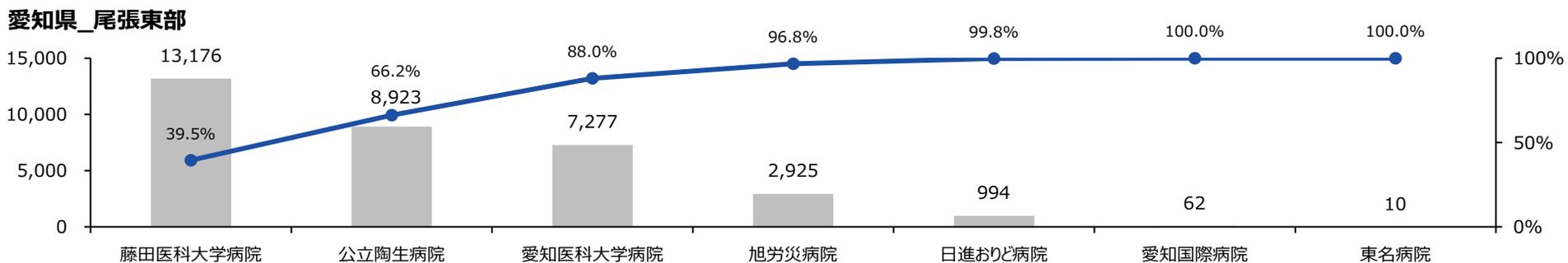
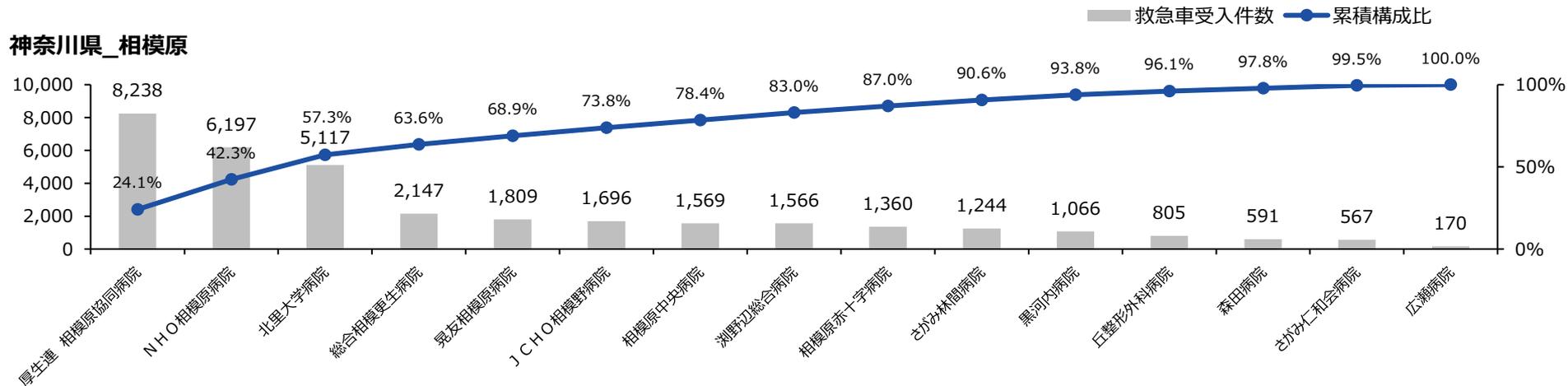


千葉県_千葉



救急医療の提供状況の類似区域との比較【救急車受入件数②】

医療機関別の救急車受入件数の累積構成比を他の区域と比較しています。



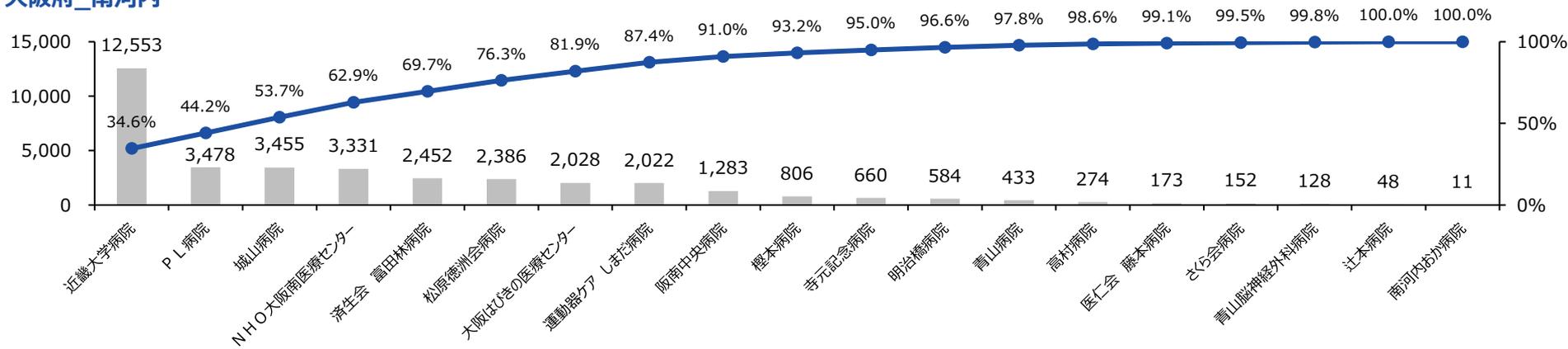
救急医療の提供状況の類似区域との比較【手術件数①】

医療機関別の手術件数の累積構成比を他の区域と比較しています。

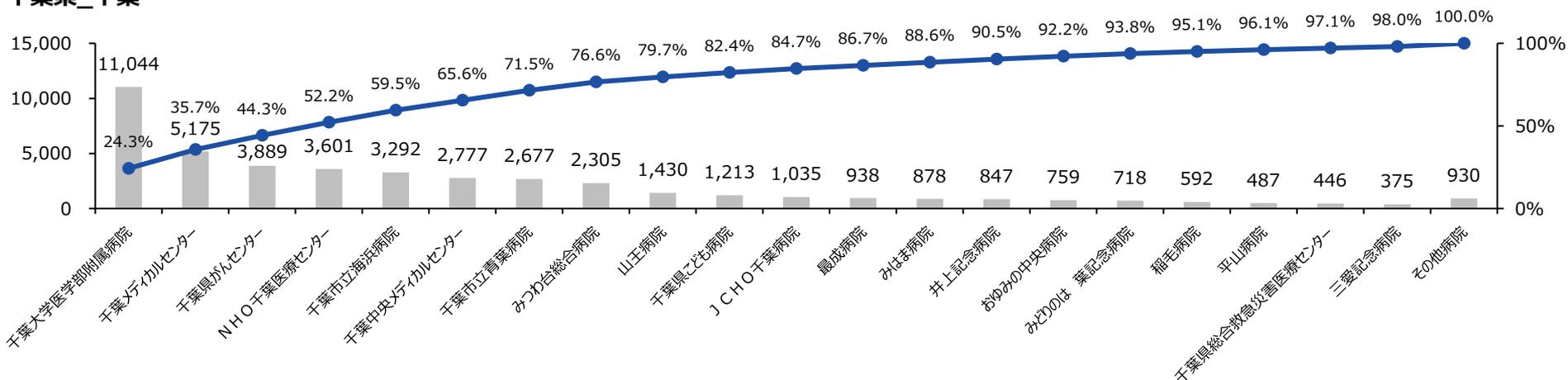
急性期医療が集約されているかを確認できます。

■ 手術件数 ● 累積構成比

大阪府_南河内

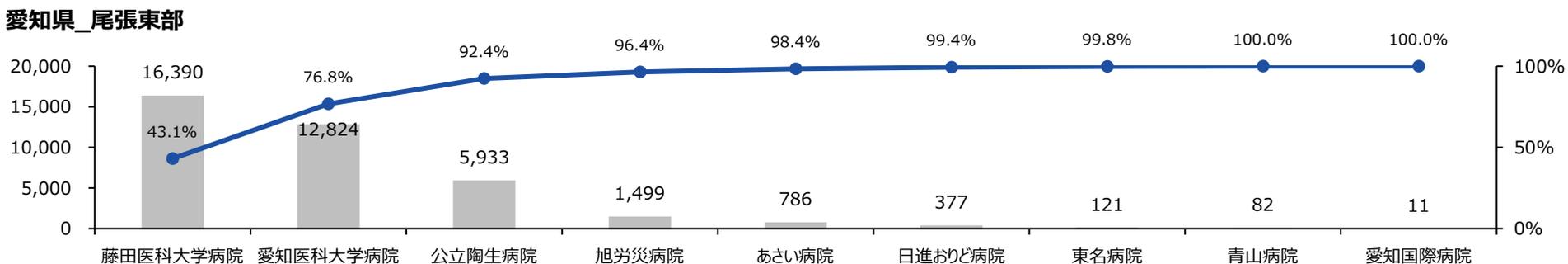
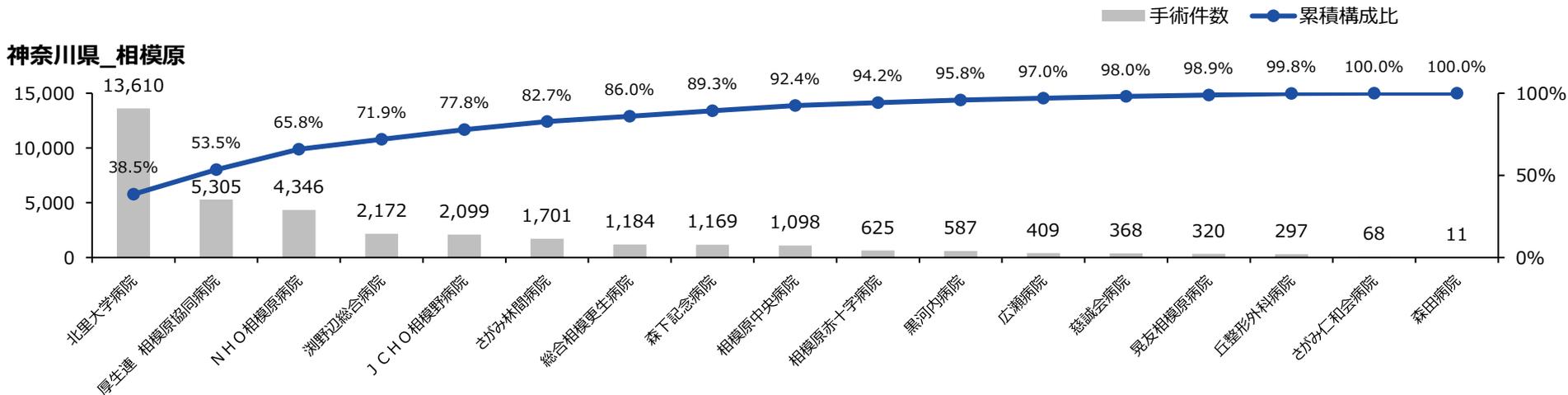


千葉県_千葉



救急医療の提供状況の類似区域との比較【手術件数②】

医療機関別の手術件数の累積構成比を他の区域と比較しています。

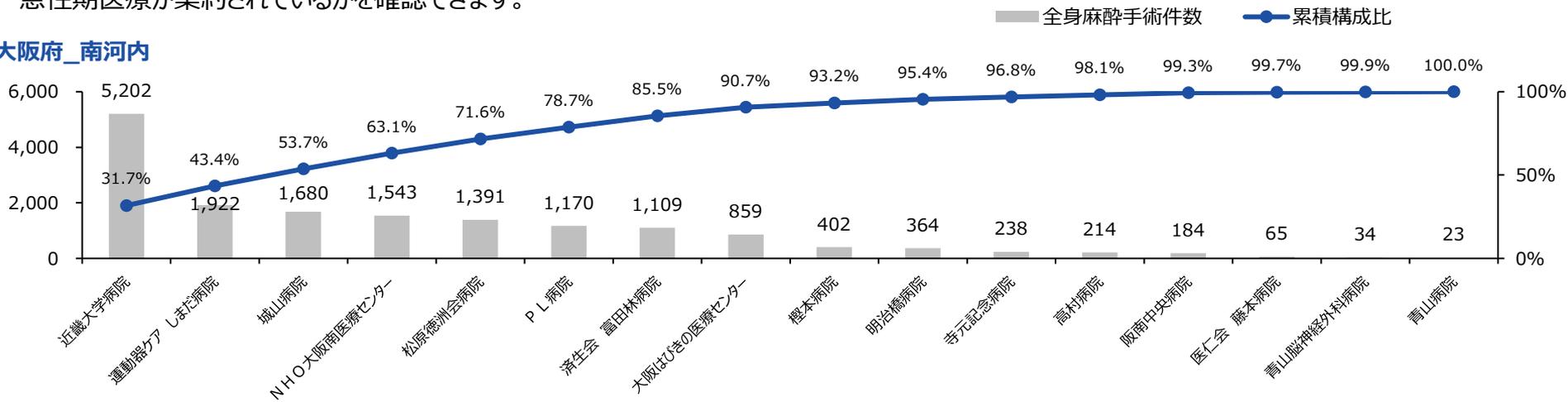


救急医療の提供状況の類似区域との比較【全身麻酔手術件数①】

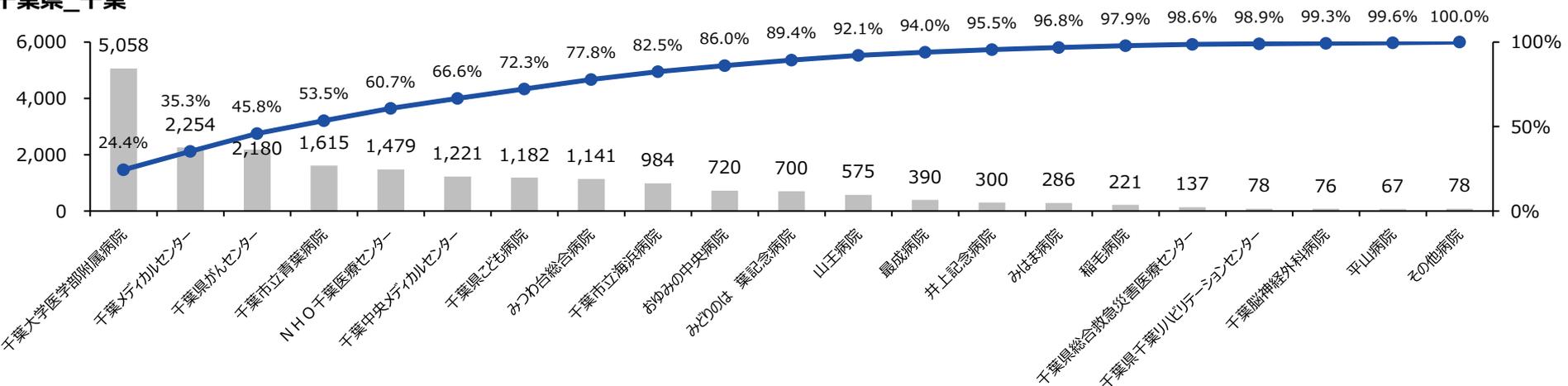
医療機関別の全身麻酔手術件数の累積構成比を他の区域と比較しています。

急性期医療が集約されているかを確認できます。

大阪府_南河内



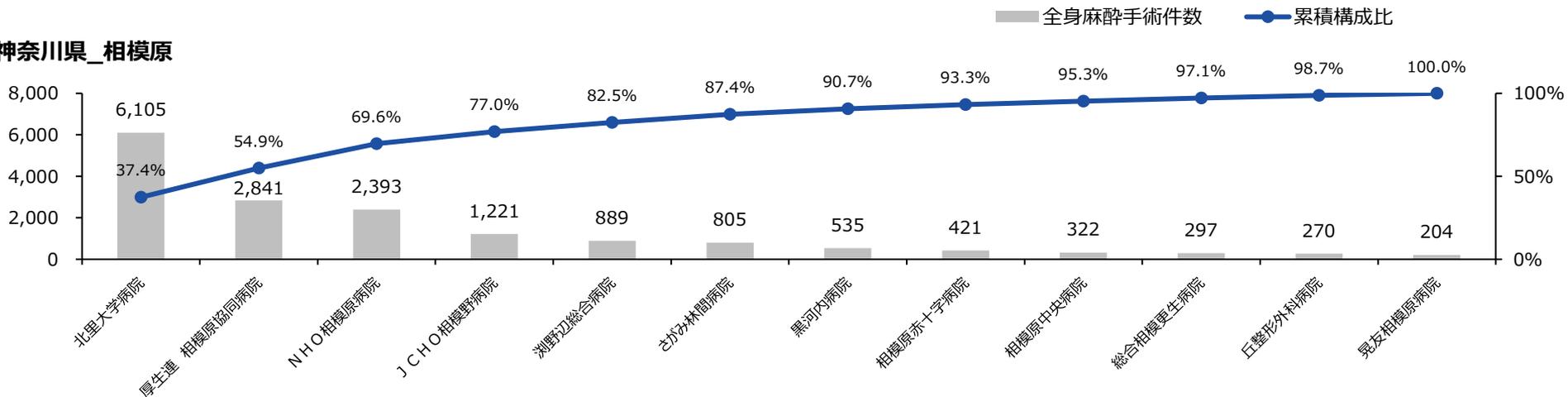
千葉県_千葉



救急医療の提供状況の類似区域との比較【全身麻酔手術件数②】

医療機関別の全身麻酔手術件数の累積構成比を他の区域と比較しています。

神奈川県_相模原



愛知県_尾張東部



大阪府 | DPC対象病院における平均在院日数（DPC患者数の多い順）①

都道府県内のDPC病院における在院日数の比較を示しています。

全国の平均在院日数は11.72日であり、「全国の疾患構成に補正した場合」の日数が長い医療機関は非効率な運用となっている可能性があります。

No.	医療機関名	医療圏	医療機関群	入院基本料	DPC算定 病床数	DPC算定 病床割合	DPC患者数	平均在院日数 (日)	全国の疾患構成に 補正した場合 (日)
1	大阪市立総合医療センター	大阪市	特定	急性期1	984	93%	23,189	9.9	9.6
2	関西医科大学附属病院	北河内	大学	特定7対1	797	100%	21,254	11.1	10.6
3	近畿大学病院	南河内	大学	特定7対1	919	100%	21,086	11.0	11.0
4	大阪医科薬科大学病院	三島	大学	特定7対1	863	96%	19,520	11.6	11.2
5	大阪労災病院	堺市	標準	急性期1	678	100%	19,203	9.7	11.0
6	大阪大学医学部附属病院	豊能	大学	特定7対1	1,019	95%	19,115	12.7	11.6
7	大阪赤十字病院	大阪市	特定	急性期1	738	86%	18,740	10.1	9.5
8	大阪公立大学医学部附属病院	大阪市	大学	特定7対1	927	96%	18,584	11.1	10.4
9	大阪急性期・総合医療センター	大阪市	特定	急性期1	748	87%	16,339	10.3	10.3
10	北野病院	大阪市	特定	急性期1	643	100%	16,236	10.7	11.1
11	大阪国際がんセンター	大阪市	特定	特定7対1	500	100%	14,907	8.7	9.9
12	市立豊中病院	豊能	標準	急性期1	608	100%	13,627	10.8	11.0
13	大阪警察病院	大阪市	特定	急性期1	525	100%	13,596	10.4	10.5
14	高槻病院	三島	標準	急性期1	477	100%	13,386	10.6	10.9
15	淀川キリスト教病院	大阪市	特定	急性期1	540	93%	13,162	10.5	10.7
16	国立循環器病研究センター	豊能	特定	特定7対1	527	100%	13,030	10.8	10.8
17	NHO大阪医療センター	大阪市	特定	急性期1	558	100%	12,861	11.6	12.2
18	堺市立総合医療センター	堺市	特定	急性期1	487	100%	12,452	10.7	10.1
19	ペルランド総合病院	堺市	標準	急性期1	462	97%	12,082	11.4	11.3
20	市立東大阪医療センター	中河内	標準	急性期1	495	95%	12,077	10.3	10.4
21	JCHO大阪病院	大阪市	標準	急性期1	525	100%	11,969	10.0	10.0
22	大阪府済生会中津病院	大阪市	特定	急性期1	570	100%	11,318	11.6	10.9
23	関西医科大学総合医療センター	北河内	特定	急性期1	438	92%	10,108	11.5	11.1
24	八尾徳洲会総合病院	中河内	特定	急性期1	427	100%	9,990	12.9	11.4
25	千船病院	大阪市	標準	急性期1	308	100%	9,623	8.6	9.4

大阪府 | DPC対象病院における平均在院日数（DPC患者数の多い順）②

No.	医療機関名	医療圏	医療機関群	入院基本料	DPC算定 病床数	DPC算定 病床割合	DPC患者数	平均在院日数 (日)	全国の疾患構成に 補正した場合 (日)
26	医誠会国際総合病院	大阪市	標準	急性期1	560	100%	9,618	13.0	11.2
27	岸和田徳洲会病院	泉州	特定	急性期1	400	100%	9,299	14.1	11.5
28	大阪母子医療センター	泉州	標準	急性期1	363	100%	9,276	9.0	9.7
29	大阪府済生会野江病院	大阪市	特定	急性期1	400	100%	9,123	11.3	10.9
30	八尾市立病院	中河内	標準	急性期1	380	100%	8,934	9.5	10.6
31	大阪府済生会吹田病院	豊能	標準	急性期1	440	100%	8,668	11.6	10.9
32	市立池田病院	豊能	標準	急性期1	364	100%	8,616	10.3	10.3
33	和泉市立総合医療センター	泉州	標準	急性期1	283	92%	8,465	11.0	10.4
34	住友病院	大阪市	標準	急性期1	499	100%	8,460	11.6	11.6
35	市立吹田市民病院	豊能	標準	急性期1	386	90%	8,447	10.3	10.0
36	日本生命病院	大阪市	標準	急性期1	350	100%	8,414	10.7	11.9
37	りんくう総合医療センター	泉州	特定	急性期1	388	100%	8,139	12.3	11.2
38	多根総合病院	大阪市	標準	急性期1	284	93%	8,125	10.4	9.9
39	市立ひらかた病院	北河内	標準	急性期1	233	92%	7,728	9.5	10.1
40	大阪(びきの)医療センター	南河内	標準	急性期1	360	89%	7,655	9.3	9.8
41	市立岸和田市民病院	泉州	特定	急性期1	376	95%	7,643	11.4	10.4
42	関西電力病院	大阪市	標準	急性期1	356	89%	7,205	11.1	11.3
43	耳原総合病院	堺市	標準	急性期1	312	81%	7,184	10.5	10.6
44	府中病院	泉州	標準	急性期1	319	84%	7,164	11.5	10.3
45	NHO大阪南医療センター	南河内	標準	急性期1	366	95%	6,964	12.7	12.4
46	第一東和会病院	三島	標準	急性期1	243	100%	6,886	10.6	10.4
47	KKR枚方公済病院	北河内	標準	急性期1	313	100%	6,885	11.9	10.9
48	済生会千里病院	豊能	標準	急性期1	329	100%	6,795	10.5	11.0
49	KKR大手前病院	大阪市	標準	急性期1	355	89%	6,485	11.5	11.2
50	PL病院	南河内	標準	急性期1	285	77%	6,249	8.5	11.1

大阪府 | DPC対象病院における平均在院日数（DPC患者数の多い順）③

No.	医療機関名	医療圏	医療機関群	入院基本料	DPC算定 病床数	DPC算定 病床割合	DPC患者数	平均在院日数 (日)	全国の疾患構成に 補正した場合 (日)
51	箕面市立病院	豊能	標準	急性期1	241	83%	6,069	8.8	9.5
52	大阪回生病院	大阪市	標準	急性期1	254	85%	6,044	8.5	11.3
53	高槻赤十字病院	三島	標準	急性期1	281	93%	5,822	11.4	11.0
54	吹田徳洲会病院	豊能	標準	急性期1	243	67%	5,756	12.0	11.1
55	城山病院	南河内	標準	急性期1	248	83%	5,438	12.9	12.5
56	野崎徳洲会病院	北河内	特定	急性期1	218	100%	5,240	14.7	12.1
57	大阪鉄道病院	大阪市	標準	急性期1	244	81%	5,099	10.3	10.1
58	関西メディカル病院	豊能	標準	急性期1	180	80%	5,065	10.2	9.8
59	北摂総合病院	三島	標準	急性期1	217	100%	5,005	11.7	10.8
60	大阪中央病院	大阪市	標準	急性期1	143	100%	4,960	6.4	9.6
61	南大阪病院	大阪市	標準	急性期4	310	78%	4,890	11.8	12.3
62	松下記念病院	北河内	標準	急性期1	250	77%	4,832	12.2	10.9
63	東住吉森本病院	大阪市	標準	急性期1	315	96%	4,793	16.2	14.3
64	市立貝塚病院	泉州	標準	急性期1	185	74%	4,736	7.4	9.6
65	関西医科大学香里病院	北河内	標準	急性期1	199	100%	4,726	11.1	13.7
66	大阪府済生会茨木病院	三島	標準	急性期1	240	85%	4,704	13.2	12.8
67	JCHO星ヶ丘医療センター	北河内	標準	急性期1	292	66%	4,471	10.1	11.5
68	若草第一病院	中河内	標準	急性期1	230	100%	4,376	14.4	13.5
69	馬場記念病院	堺市	標準	急性期1	248	83%	4,197	15.2	12.0
70	小松病院	北河内	標準	急性期4	172	91%	3,959	13.5	13.6
71	済生会 富田林病院	南河内	標準	急性期1	210	81%	3,911	11.2	11.7
72	松原徳洲会病院	南河内	特定	急性期1	249	100%	3,809	15.8	12.9
73	清恵会病院	堺市	標準	急性期2	205	68%	3,738	10.5	9.7
74	大阪府済生会泉尾病院	大阪市	標準	急性期1	280	64%	3,618	11.3	10.9
75	曙生会脳神経外科病院	北河内	標準	急性期4	228	84%	3,558	14.5	13.2

大阪府 | DPC対象病院における平均在院日数（DPC患者数の多い順）④

No.	医療機関名	医療圏	医療機関群	入院基本料	DPC算定 病床数	DPC算定 病床割合	DPC患者数	平均在院日数 (日)	全国の疾患構成に 補正した場合 (日)
76	守口生野記念病院	北河内	標準	急性期1	199	100%	3,498	13.4	9.8
77	第二大阪警察病院	大阪市	標準	急性期1	245	100%	3,477	11.1	10.4
78	JCHO大阪みなと中央病院	大阪市	標準	急性期2	229	100%	3,425	15.3	15.2
79	大阪暁明館病院	大阪市	標準	急性期1	203	44%	3,311	8.6	10.3
80	葛城病院	泉州	標準	急性期1	153	63%	3,239	10.0	12.0
81	阪南市民病院	泉州	標準	急性期1	143	77%	3,236	11.2	11.2
82	なにわ生野病院	大阪市	標準	急性期1	173	100%	3,200	13.0	10.7
83	阪和記念病院	大阪市	標準	急性期4	157	33%	3,188	8.4	9.1
84	富永病院	大阪市	標準	急性期1	224	73%	3,134	11.2	17.0
85	医真会八尾総合病院	中河内	標準	急性期4	201	83%	3,065	13.7	11.9
86	河内総合病院	中河内	標準	急性期1	309	88%	3,046	16.1	13.9
87	愛染橋病院	大阪市	標準	急性期4	208	84%	2,876	8.6	11.3
88	育和会記念病院	大阪市	標準	急性期1	218	82%	2,794	14.2	12.9
89	市立柏原病院	中河内	標準	急性期1	153	70%	2,582	9.8	10.4
90	みどりヶ丘病院	三島	標準	急性期1	185	59%	2,517	12.0	10.2
91	佐藤病院	北河内	標準	急性期1	120	68%	2,444	12.1	10.6
92	交野病院	北河内	標準	急性期1	138	66%	2,438	12.1	12.7
93	萱島生野病院	北河内	標準	急性期1	140	100%	2,414	13.5	11.2
94	森之宮病院	大阪市	標準	急性期1	159	45%	2,383	12.0	13.4
95	泉大津市立病院	泉州	標準	急性期1	160	91%	2,365	8.5	10.4
96	浅香山病院	堺市	標準	急性期1	134	15%	2,200	11.3	10.5
97	大阪市立十三市民病院	大阪市	標準	急性期1	224	85%	2,200	10.0	10.9
98	加納総合病院	大阪市	標準	急性期1	151	50%	1,972	12.2	11.4
99	一祐会 藤本病院	北河内	標準	急性期4	100	68%	1,954	10.3	11.8
100	寝屋川生野病院	北河内	標準	急性期1	103	100%	1,941	14.2	11.0

大阪府 | DPC対象病院における平均在院日数（DPC患者数の多い順）⑤

No.	医療機関名	医療圏	医療機関群	入院基本料	DPC算定 病床数	DPC算定 病床割合	DPC患者数	平均在院日数 (日)	全国の疾患構成に 補正した場合 (日)
101	小阪産病院	中河内	標準	急性期1	60	100%	1,870	4.8	4.9
102	大阪掖済会病院	大阪市	標準	急性期1	135	100%	1,749	10.1	10.9
103	大野記念病院	大阪市	標準	急性期1	177	71%	1,740	14.5	13.3
104	東大阪病院	大阪市	標準	急性期1	112	44%	1,706	14.0	14.4
105	行岡病院	大阪市	標準	急性期1	184	53%	1,680	12.7	14.6
106	阪南中央病院	南河内	標準	急性期1	102	51%	1,539	7.8	9.3
107	山本第三病院	大阪市	標準	急性期4	203	65%	1,516	14.0	13.3
108	永山病院	泉州	標準	急性期1	104	45%	1,503	11.8	12.0
109	寺元記念病院	南河内	標準	急性期1	120	75%	1,414	11.5	10.9
110	友愛会病院	大阪市	標準	急性期1	128	75%	1,382	16.0	13.6
111	吉田病院	北河内	標準	急性期4	58	100%	1,380	11.4	11.2
112	明治橋病院	南河内	標準	急性期4	120	77%	1,259	16.1	14.3
113	城東中央病院	大阪市	標準	急性期1	233	100%	1,213	18.2	14.3
114	上山病院	北河内	標準	急性期4	114	60%	1,207	17.1	15.2
115	巽病院	豊能	標準	急性期2	75	100%	1,155	14.6	12.8
116	大阪脳神経外科病院	豊能	標準	急性期1	90	74%	1,119	13.7	12.3
117	佐野記念病院	泉州	標準	急性期1	53	56%	1,110	8.7	8.2
118	井上病院	豊能	標準	急性期4	94	74%	927	14.8	12.1
119	運動器ケア しまだ病院	南河内	標準	急性期1	43	49%	906	9.0	11.4
120	矢木脳神経外科病院	大阪市	標準	急性期2	73	79%	859	16.5	14.0
121	高石藤井病院	泉州	標準	急性期2	58	36%	757	11.7	11.0
122	藍の都脳神経外科病院	大阪市	標準	急性期1	41	51%	629	9.0	8.4
123	河崎病院	泉州	標準	急性期4	47	36%	621	11.2	10.7
124	咲花病院	泉州	標準	急性期1	50	53%	615	12.2	12.4
125	堺咲花病院	堺市	標準	急性期2	100	46%	610	10.5	10.8

大阪府 | DPC対象病院における平均在院日数（DPC患者数の多い順） ⑥

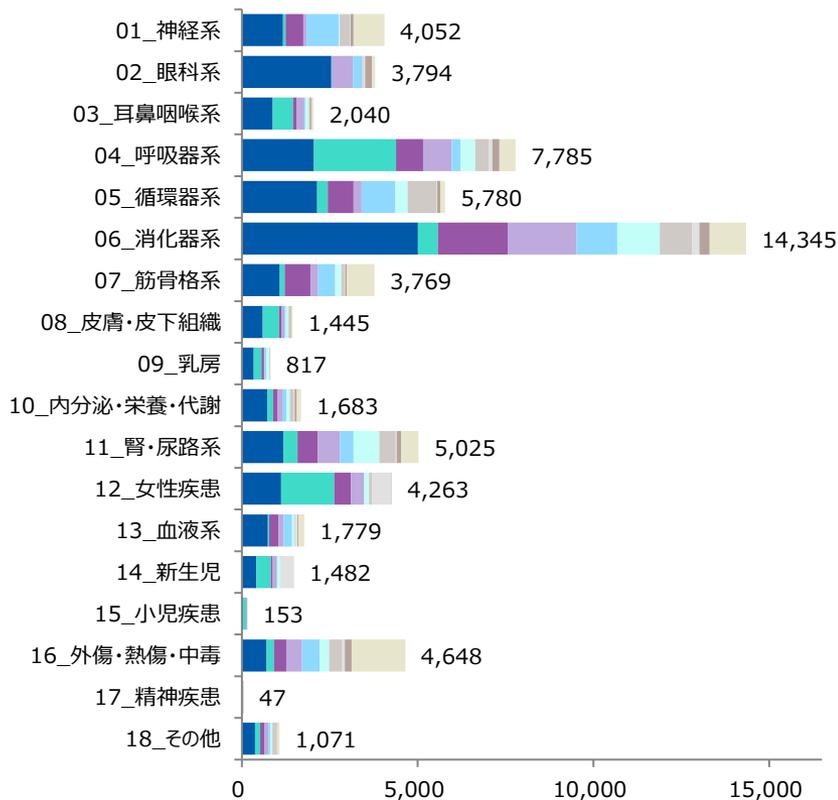
No.	医療機関名	医療圏	医療機関群	入院基本料	DPC算定 病床数	DPC算定 病床割合	DPC患者数	平均在院日数 (日)	全国の疾患構成に 補正した場合 (日)
126	村田病院	大阪市	標準	急性期1	40	57%	605	16.1	13.4
127	牧病院	大阪市	標準	急性期3	40	53%	473	13.4	13.5
128	阪堺病院	堺市	標準	急性期1	52	37%	453	9.0	13.5
129	さくら会病院	南河内	標準	急性期1	43	29%	441	11.0	11.4
130	かわい病院	泉州	標準	急性期4	32	70%	263	18.1	26.7

南河内医療圏 | MDC別退院患者数および医療機関シェア

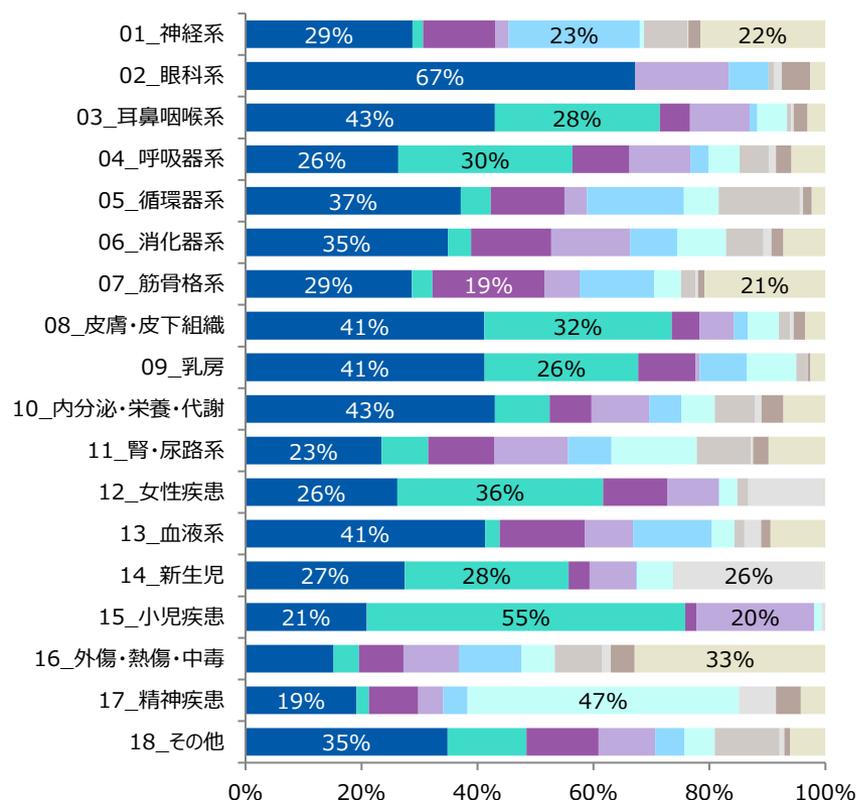
医療圏内の医療機関の疾患別推定シェアを示しています。

疾患ごとの役割分担の状況を確認できます。

MDC別退院患者数



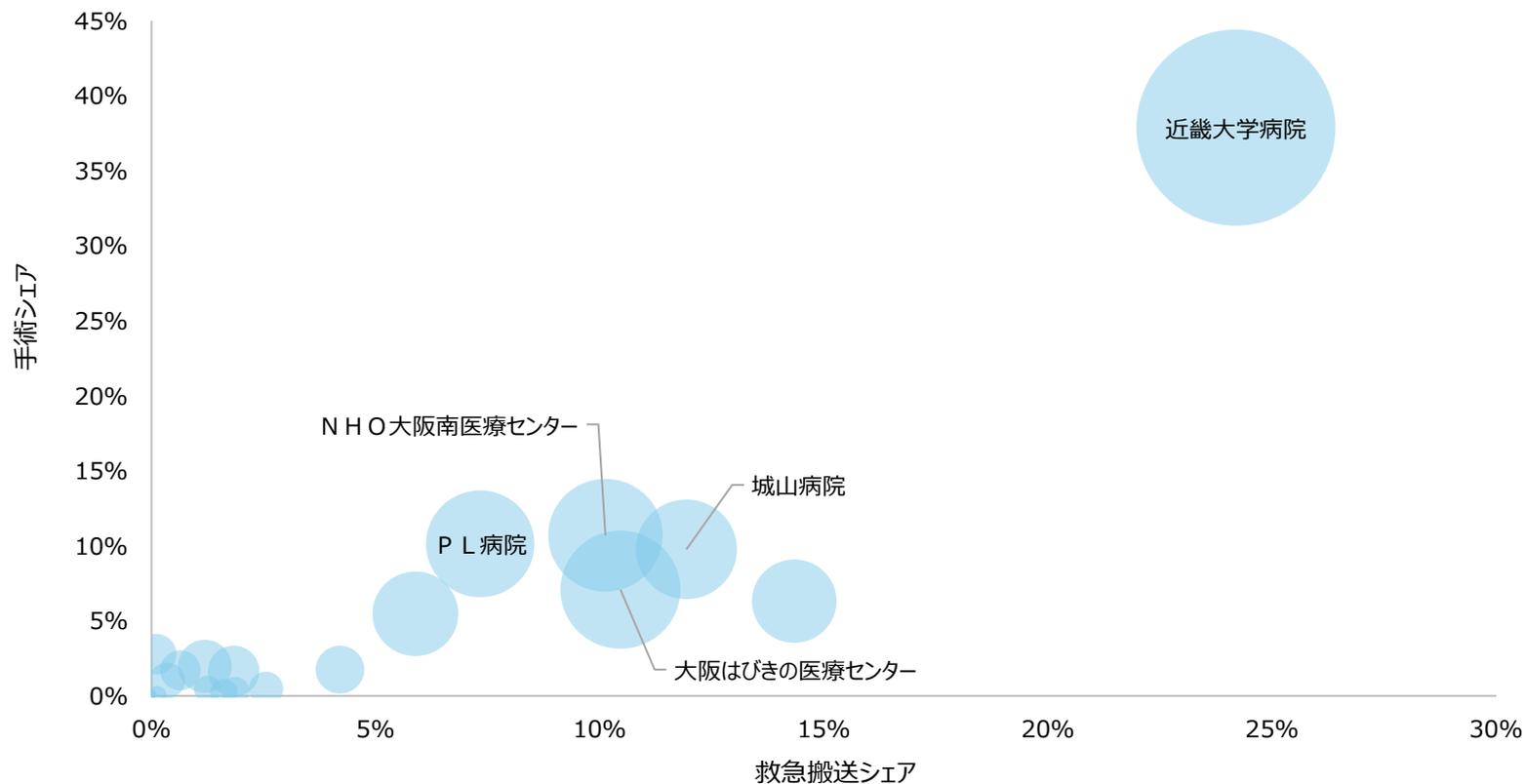
MDC別医療機関シェア



■ 近畿大学病院
 ■ 大阪はびきの医療センター
 ■ NHO大阪南医療センター
 ■ PL病院
 ■ 城山病院
■ 済生会 富田林病院
 ■ 松原徳洲会病院
 ■ 阪南中央病院
 ■ 寺元記念病院
 ■ その他

南河内医療圏 | DPC退院患者の手術シェア×救急搬送シェア

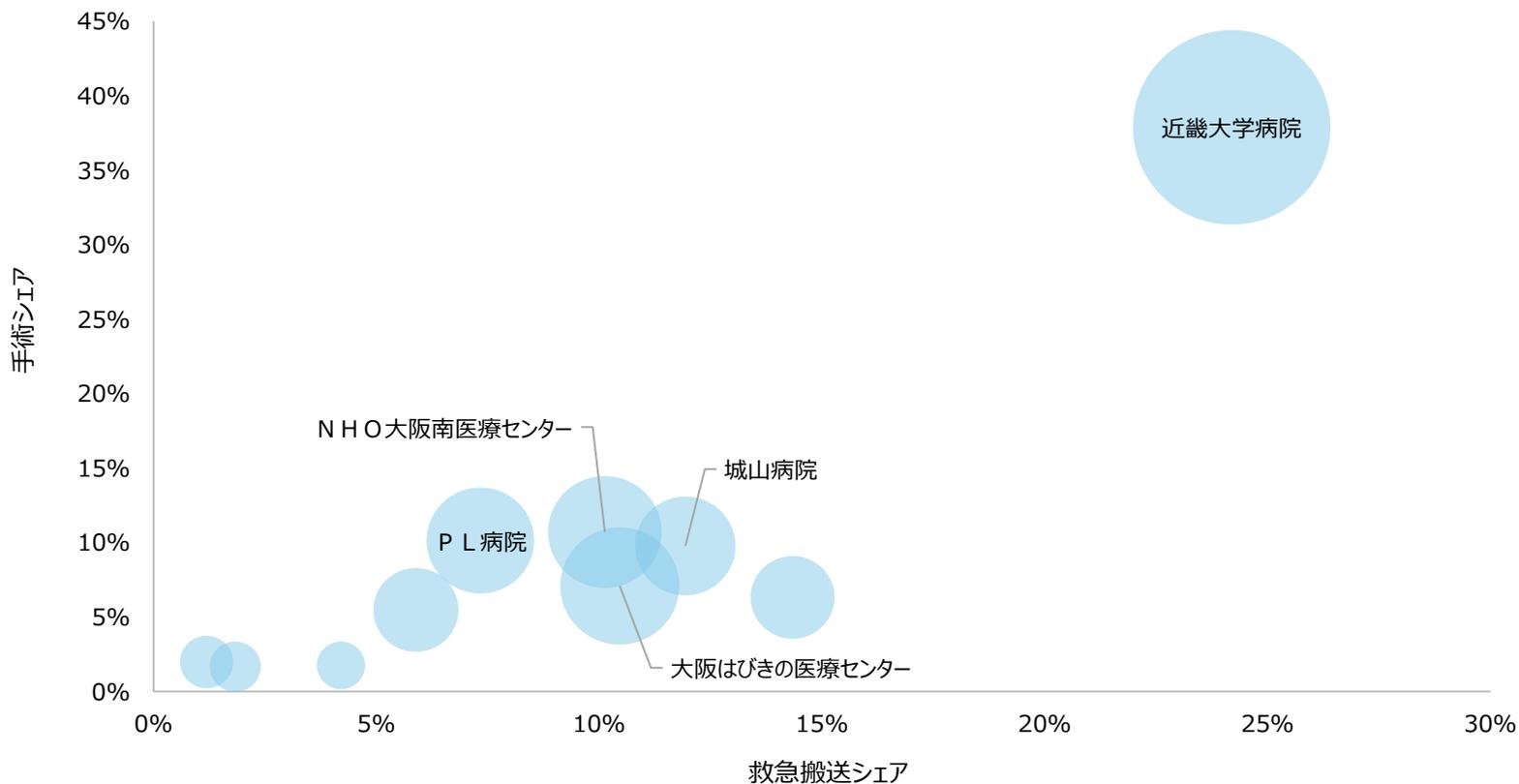
医療圏内の医療機関の救急搬送シェアと手術シェアをプロットしており、地域内の急性期病院としてのポジショニングを可視化しています。



救急搬送シェア	医療圏内の病院における各病院の患者受け入れ割合
手術シェア	医療圏内の病院における各病院の手術実施件数割合
バブルの大きさ	退院患者数

DPC退院患者の手術シェア×救急搬送シェア(退院患者数1000人以上の病院)

前項のグラフのうち、退院患者数が1,000人／年以上の病院のみを抜粋しています。

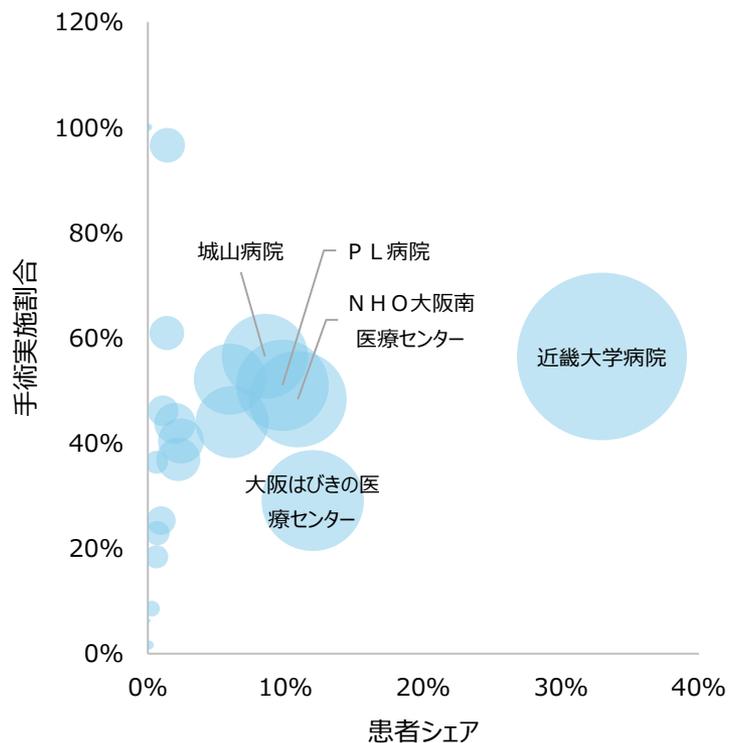


救急搬送シェア	医療圏内の病院における各病院の患者受け入れ割合
手術シェア	医療圏内の病院における各病院の手術実施件数割合
バブルの大きさ	退院患者数

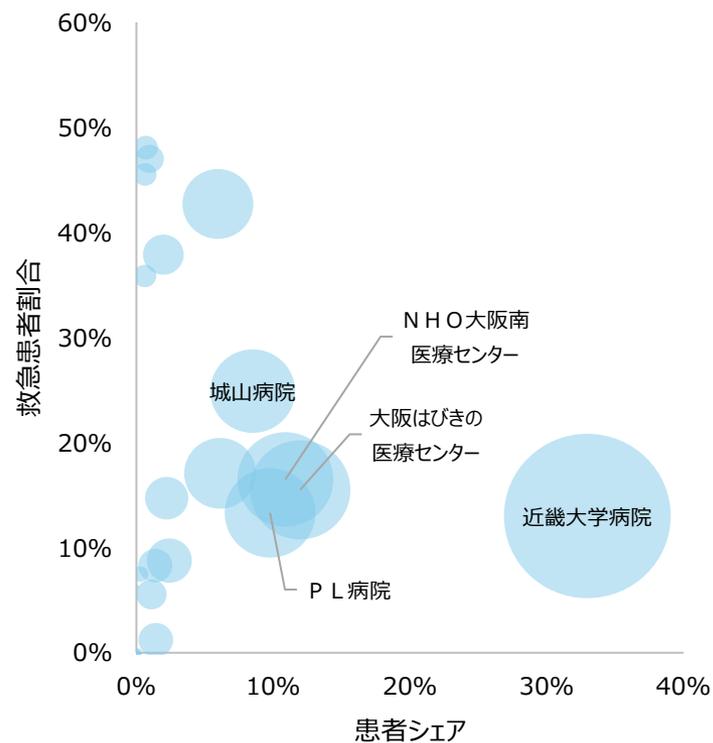
南河内医療圏 | DPC退院患者の手術・救急患者割合×患者シェア

医療圏内の医療機関の手術実施割合と救急患者割合、地域内の患者シェアをプロットしています。

手術実施割合×患者シェア



救急患者割合×患者シェア

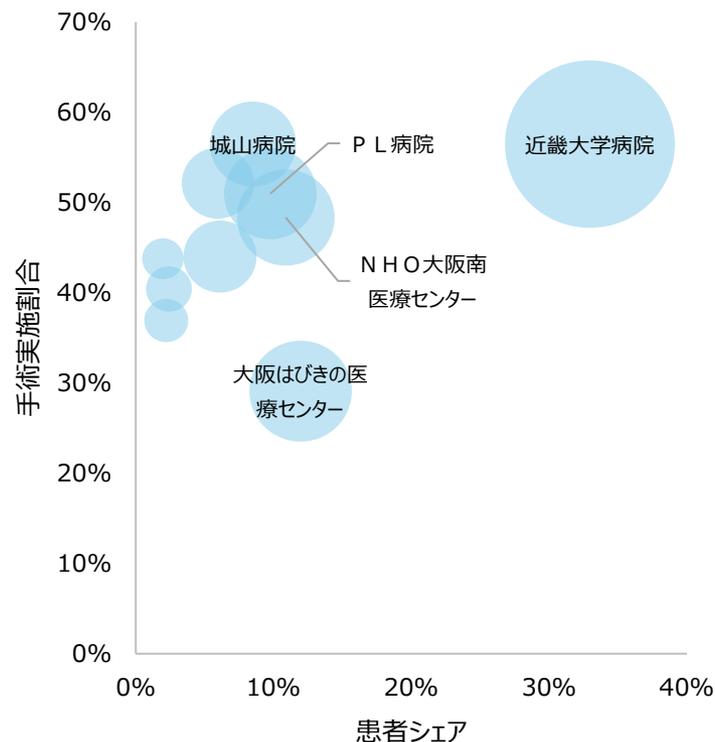


手術実施割合	院内の退院患者に占める手術の実施割合
救急患者割合	院内の退院患者に占める救急搬送患者の割合
患者シェア	医療圏内の病院における、各病院の退院患者数割合
バブルの大きさ	退院患者数

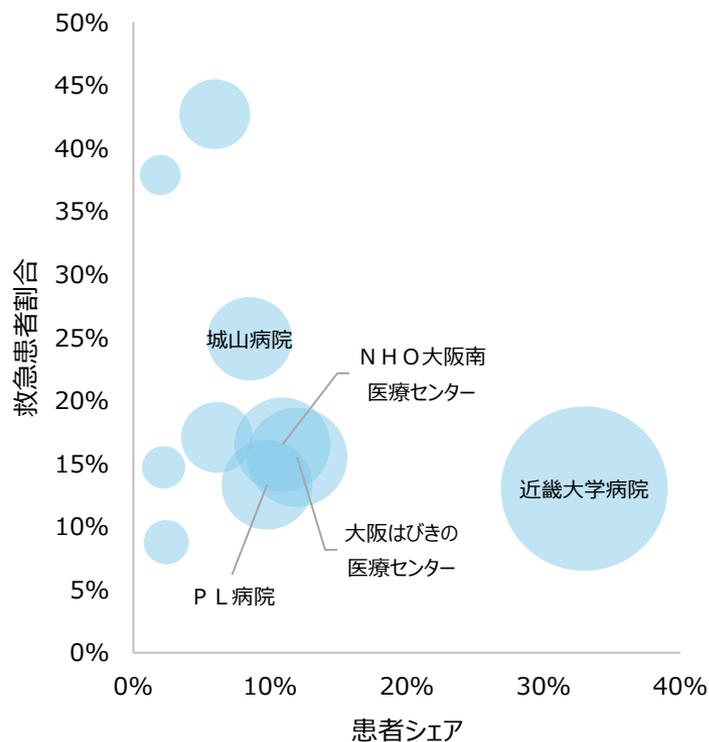
DPC退院患者の手術・救急患者割合×患者シェア（退院患者数1000人以上の病院）

前項のグラフのうち、退院患者数が1,000人／年以上の病院のみを抜粋しています。

手術実施割合×患者シェア



救急患者割合×患者シェア



手術実施割合	院内の退院患者に占める手術の実施割合
救急患者割合	院内の退院患者に占める救急搬送患者の割合
患者シェア	医療圏内の病院における、各病院の退院患者数割合
バブルの大きさ	退院患者数

— 二次医療圏でみる地域医療の構造 —

医療需給総覧

version

1.0

- 本資料は各ページ下部に記載している機関の公表データを用いて、株式会社日本経営が作成した資料です。
- 本資料に提供されている内容は万全を期しておりますが、入手し得る資料および情報に基づいて作成したものであり、その内容の正確性や安全性を保証するものではありません。
- 本資料の使用は自己判断で行っていただくものとし、万一、貴社・貴法人が損害等を被った場合において、弊社は一切の責任を負いかねます。
- 本資料は、行政・医療機関等における検討・意思決定の目的を含め、転載・引用・配布いただけます（事前連絡不要）。ただし、転載・引用・配布の際は、転載先に本資料名および株式会社日本経営を出典として必ずご明記ください。なお、有償・無償を問わず、本資料の全部または一部を頒布・提供する行為は禁止します。
記載例「出典元：医療需給総覧 ○○県△△医療圏（株式会社日本経営）」